



ANNUAL REPORT

2015年度 (平成27年度)

vol.2



SAISEIKAI
OTARU
HOSPITAL



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部

北海道済生会小樽病院

平成27年度年報 目次

巻頭言	1	看護部	54
理念基本方針	2	・ 総括	54
沿革・概要・組織図	4	・ 3 A病棟	56
I 年間主要行事		・ 3 B病棟	58
年間行事一覧	6	・ 4 A病棟	60
主要行事	8	・ 4 B病棟	62
・ 機能評価受審	8	・ 5 B病棟	64
・ ふれあい看護体験インターンシップ	10	・ 外来看護課	66
・ 職場訪問	11	・ 透析センター	68
・ 看護研究	11	・ 手術センター	70
・ 健康セミナー	12	・ 教育	71
・ スポーツセミナー	12	事務部	72
・ モンゴル医療研修生受入れ	13	・ 総括	72
・ コメディカル体験ツアー	13	・ 総務課	73
・ 済生会健康フェスタin小樽	14	・ 経理課	74
・ 看護師復職支援セミナー	14	・ 施設用度課	75
・ 院内QC大会	15	・ 医事課	77
・ 野球検診	16	・ 医療クラーク課	78
・ QC札幌大会	16	・ 健康診断課	79
・ 雪あかりの路	17	・ 地域医療支援課	81
年度表彰	18	委員会・診療チーム	82
・ 永年勤続	18	・ NST委員会	82
・ 接遇	18	・ 院内感染予防対策委員会	85
II 診療実績		・ 医療安全管理対策委員会	86
外来	19	・ 褥瘡対策委員会	89
紹介率逆紹介率	22	・ クリニカルパス委員会	90
救急	22	・ 患者サービス検討委員会	91
入院	23	・ 広報委員会	93
手術	26	・ 内分泌・糖尿病診療センター	95
学生実習受け入れ	27	・ 緩和ケアチーム	96
・ 診療部	27	IV 教育研究報告	
・ 医療技術部	28	論文	99
・ 看護部	29	著書	99
・ 事務部	29	学会・研究発表	100
III 部門報告		講義・講演	105
診療部	30	座長	111
・ 総括	30	学会認定資格	112
・ 内科	31	ICT連動型臨床実習	115
・ 循環器内科	33	ハワイ研修	116
・ 神経内科	34	済生会学会	119
・ 外科	35	V 職員福利厚生	
・ 整形外科	36	総括	121
・ 泌尿器科	37	部活動	122
・ 放射線科	38	・ 野球部	122
医療技術部	39	・ フットサル部	123
・ 総括	39	・ 写真部	124
・ 薬剤室	41	・ 駅伝部	125
・ 臨床検査室	44	院内保育所 なでしこキッズクラブ	126
・ 放射線室	46	売店・食堂	128
・ リハビリテーション室	48	あとがき	129
・ 栄養管理室	50	編集後記	
・ 臨床工学室	52		



平成27年度 年報発刊にあたり

病院長 近藤 真章

平成27年度年報を無事発刊できたことを大変うれしく感じております。

平成27年度安倍政権は集团的自衛権行使を可能にする安全保障関連法案を成立させ、国民皆保険を脅かすTPP問題も大筋合意いたしました。しかし一方明るい話題はラグビーワールドカップでは五郎丸選手らの日本代表の活躍で強豪・南アフリカに34-32の歴史的勝利をおさめました。また2年連続のノーベル賞受賞です。ノーベル医学・生理学賞の大村智先生、物理学賞の梶田隆章先生ともに地方大学出身で努力家と聞いております。まさに快挙であります。

日本の医療界は病床機能報告制度に基づく地域医療構想が2次医療圏ごとに策定され、在宅医療に向けての地域包括ケアシステムの構築に向かっております。これからの行政の施策には十分注視していかなければなりません。医療事故再発の防止を目的とした医療事故調査制度もスタートいたしました。新専門医制度は地域医療の崩壊につながりかねないとの事で検証作業の必要性を問われ、混迷しております。

さて私どもの済生会小樽病院は平成25年8月新築移転し、27年度のアクションキーワード「CHALLENGE NEXT～常に一步先を見据え、挑戦していく」を掲げました。当病院は札幌医大附属病院初期研修プログラム協力型臨床研修病院ですが、残念ながらマッチングが得られませんでした。ICT連動型臨床実習の学生1名を受け入れて指導し、そして済生会吹田病院から初期研修医1名を受け入れいたしました。28年度は山形済生病院からも研修医が来ていただくことになりました。さらに国際貢献ということで北海道柔道整復師会の依頼により、JICA主催でモンゴル准医師3名が整形外科の研修を受けました。多くの方々が色々な職場で研修・実習をうけ、病院全体に活気が生まれてきました。平成28年度は診療報酬改定の年となり、病院運営は一段と厳しくなると予想されますが、一步一步前進していきたいと思っております。職員の皆様方の一層のご協力・ご理解をお願いいたします。

この巻頭言を執筆の最中にうれしい知らせが入ってきました。日本医療機能評価機構の病院機能評価の認定書が届いたのです。一步一步前進いたしました。

最後にこの年報の発刊にあたり、織田委員長をはじめ、年報委員会の委員の方々並びに原稿を頂いた関係各位の皆様に御礼申し上げます。

—— 法人の理念 ——

「施薬救療の精神」

(分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉の手を差しのべる)

—— 済生会小樽病院の理念 ——

新たな地域医療の創造と社会貢献

患者中心、患者主体の医療

人を大切にする組織

—— 基本運営方針 ——

1. 急性期から回復期へ一貫した医療
2. 断らない医療
3. 地域包括ケアシステム構築
4. 無料低額診療事業の推進
5. 地域に必要な医療人の育成
6. 研究活動を支える環境整備
7. 医療・経営の可視化



すべてのいのちの虹になりたい

済生会は、明治天皇が医療によって生活困窮者を救済しようと明治44（1911）年に設立しました。100年以上にわたる活動をふまえ、今、次の三つの目標を掲げ、日本最大の社会福祉法人として全職員約58,000人が40都道府県で医療・保健・福祉活動を展開しています。

- 生活困窮者を **済**（すく）う
- 医療で地域の **生**（いのち）を守る、
- 医療と福祉、**会**を挙げて切れ目のないサービスを提供

病、老い、障害、境遇……悩むすべてのいのちの虹になりたい。
済生会はそう願って、いのちに寄り添い続けます。

生活困窮者支援の積極的推進

済生会設立の目的は、生活に困っている人を医療で助けることです。

生活保護受給者をはじめ、経済的に困っている人の医療費を無料にしたり減額したりする「無料低額診療事業」を積極的に行っています。25年度は延べ192万人が対象となりました。

済生会生活困窮者支援「なでしこプラン」を実施しています。対象者をホームレスやDV被害者、刑務所出所者、外国人等へも広げ、訪問診療、健康診断、予防接種等を無料で行う事業で、25年度は延べ13万人に実施しました。事業名の「なでしこ」は本会の紋章に由来しています。

さらに、済生丸が離島を回って診療を行う瀬戸内海巡回診療など、離島やへき地での医療にも力を注いでいます。

最新の医療で地域に貢献

済生会は、いのちの面から地域を支えます。最新の医療機器、高度な技術、手厚い看護。超急性期から亜急性期、慢性期・リハビリと段階に合わせて対応し、常に患者の立場に立った医療を提供します。

災害時には地域を越えてスタッフを派遣。救命救急から慢性期、そして生活再建に向けた心のサポートまで、緊急時も段階に合わせた支援活動を展開しています。

医療と福祉、切れ目なく

医療と福祉は密接な関係にあります。済生会は医療・保健・福祉を総合して提供できる団体です。全組織が連携し、施設・設備・人というすべての資源を動員して切れ目のない、シームレスなサービスを提供しています。

そして、高齢者や子どもたち、障害者が当たり前になり、共に生きる地域づくりに貢献します。

病院の沿革

大正13年 7月 済生会小樽診療所開設「小樽市手宮1丁目6番地」

昭和27年12月 社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽北生病院開院 病床数22床5科(内科、小児科、外科、産婦人科、眼科)

昭和30年 1月 増床(62床 一般32床、結核30床)

昭和30年 9月 北海道済生会小樽北生病院附属 准看護婦養成所 併設

昭和32年 4月 病院の一部焼失

昭和32年 7月 病棟、管理棟増改築(33年棟) 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階2139.56㎡ 増床(185床)

昭和36年 1月 整形外科開設

昭和40年11月 病棟、管理棟増改築(南棟) 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階3023.65㎡

昭和41年 4月 皮膚・泌尿器科開設

昭和48年12月 乳児保育所併設

昭和51年 7月 増床(277床 一般140床、結核31床、老人106床) 耳鼻咽喉科開設

昭和55年 4月 人工透析開始(268床)

昭和56年 9月 結核病棟廃止(237床)

昭和58年 1月 増床(311床 一般131床、老人180床)

昭和59年 2月 病棟、管理棟増改築(北棟) 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階塔屋付4252.45㎡

平成 2年10月 看護師宿舎増改築

平成 5年 6月 病棟、管理棟増改築(中央棟) 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上5階塔屋付2803.59㎡

平成 6年 5月 麻酔科増設

平成10年10月 循環器内科開設 小児科廃止

平成13年12月 一部療養病床へ転換(289床 一般245床、療養44床)

平成14年 4月 MRI(1.5テスラ)導入

平成14年10月 社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽病院に名称変更

平成15年 3月 北海道済生会小樽病院附属 准看護師養成所 閉校

平成15年10月 体外衝撃波結石破碎装置導入

平成15年11月 皮膚科廃止

平成16年 4月 神経内科開設

平成17年 3月 産婦人科廃止、眼科廃止

平成18年 6月 院内全面禁煙開始

平成18年 9月 一般病床入院基本料10対1取得 マルチスライスCT(16列)導入

平成20年 7月 療養病床から回復期リハビリテーション病棟へ変更(44床から42床へ) 回復期リハビリテーション入院料2取得(42床)

平成21年 1月 回復期リハビリテーション入院料1取得

平成21年 7月 医療画像管理システム(PACS)導入

平成22年 9月 臨床研修病院(協力型)に指定

平成23年12月 新病院建築工事着工

平成24年 7月 MRIバージョンアップ

平成24年 9月 オーダリングシステム運用開始

平成24年10月 マルチスライスCT(64列)に更新

平成25年 2月 一般病床入院基本料7:1取得

平成25年 8月 北海道小樽市築港10番1に移転。延17704.29㎡。許可病床数、一般258床(うち回復期リハビリ病床50床)。婦人科(女性診療科)新設。電子カルテ運用開始。

平成26年 4月 指定居宅介護支援事業所はまなす併設

平成26年10月 地域包括ケア病棟(53床)開設

平成27年 4月 地域ケアセンター併設・小樽市南部地域包括支援センター事業開始

病院概要

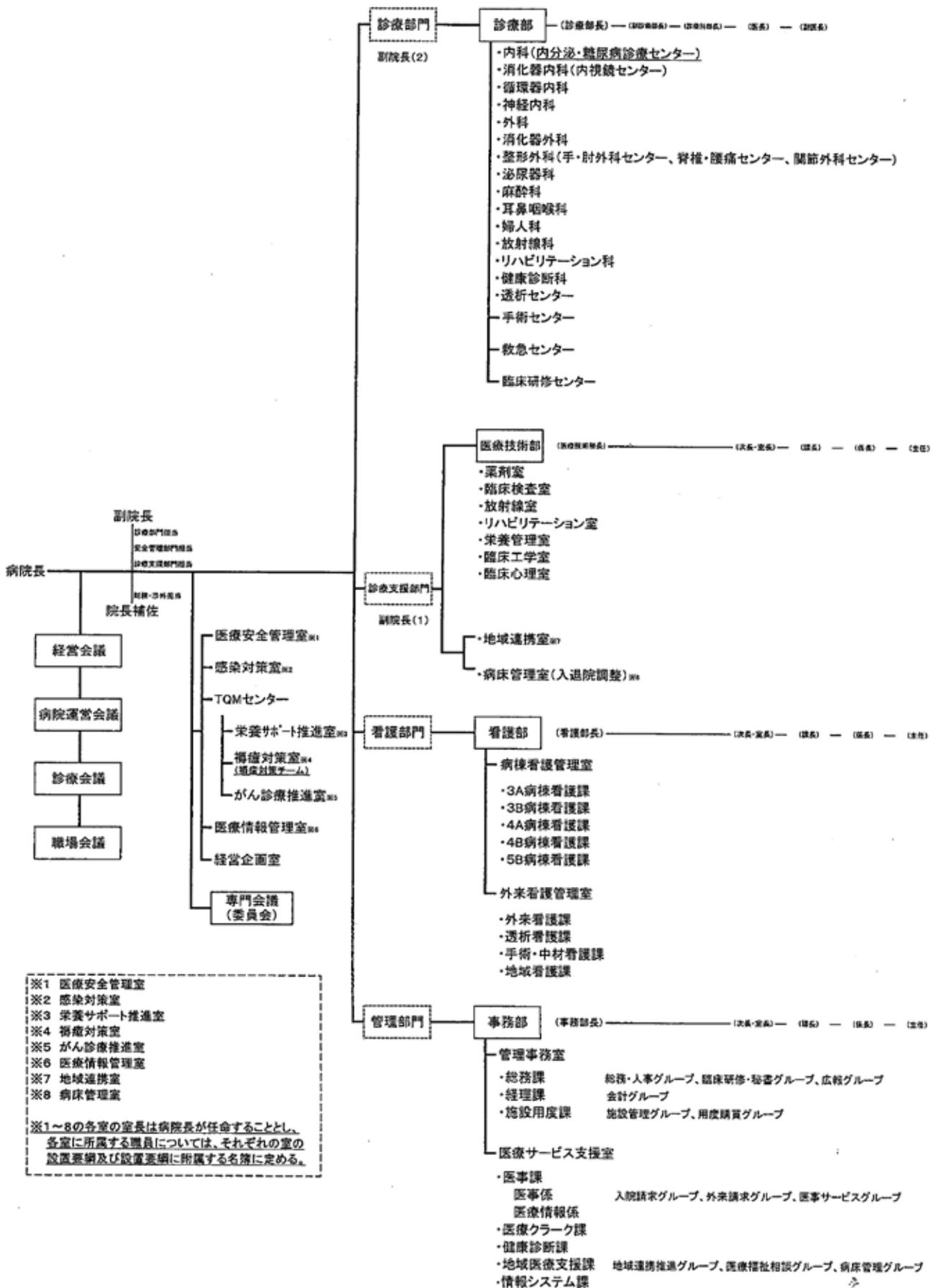
名 称	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 北海道済生会小樽病院
所 在 地	〒047-0008 北海道小樽市築港10番1号
電 話 / FAX	電話番号：0134-25-4321 FAX番号：0134-25-2888
管 理 者	病院長 近藤 真章
病 院 種 別	一般病院
敷 地 面 積	19,147.41平方メートル
延 べ 床 面 積	17,704.29平方メートル (鉄筋コンクリート造、病院棟5階建て、 エネルギー棟2階建て)
駐 車 ス ペ ー ス	147台
そ の 他 施 設	保育施設
許 可 病 床 数	一般病床 258床(包括ケア病棟53床、 回復期リハビリテーション病床50床)
診 療 科 目	内科 消化器内科 循環器内科 神経内科 外科 消化器外科 整形外科 泌尿器科 婦人科 耳鼻咽喉科 放射線科 リハビリテーション科
外 来 診 療 時 間	【受付】 (午前の部) 8時50分～11時30分 (午後の部) 12時30分～16時30分 【診療時間】 (午前の部) 9時00分～12時30分 (午後の部) 13時30分～17時10分
面 会 時 間	【平日・土曜】 13時00分～20時00分 【日曜・祝日】 10時00分～20時00分

認定施設一覧

- ・日本内科学会教育関連施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本神経学会教育関連施設
- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本手外科学会基幹研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・JSPEN 日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設
- ・JSPEN 日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士認定規則 実施修練認定教育施設
- ・JCNT 日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設

※病院概要については平成28年4月1日時点を掲載

組織図



I 年間主要行事

2015年度 年間行事

4月	1日(水)	辞令交付式	
	1日(水)～2日(木)	新採用者研修会	
	10日(金)	不在者投票(北海道知事・北海道議会議員)	
	14日(火)	小樽メタボリッククラブ	
	20日(月)	集談会 大腿骨近位部骨折について	
	21日(火)	病院運営会議	
	22日(水)	済生会健康セミナー がん治療について	
	24日(金)	不在者投票(小樽市長・小樽市議会議員)	
	27日(月)	支部監査(平成26年度決算監査・業務監査)	
5月	11日(月)	糖尿病集団指導	
	12日(火)	小樽メタボリッククラブ	
	13日(水)	ふれあい看護体験	
	18日(月)	集談会 やっぱりNST って大事!より良い栄養療法を目指して	
	19日(火)	献血車来院	
	21日(木)	病院運営会議	
	25日(月)	健康セミナー 実は身近な糖尿病	
6月	8日(月)	糖尿病集団指導	
	9日(火)	小樽メタボリッククラブ	
	15日(月)	集談会 あなたは腰が痛い時どうしていますか? ～脊椎・腰痛センターでの理学療法紹介～	
	16日(火)	病院運営会議	
	19日(金)	北海道厚生局適時調査	
	19日(金)	職員BLS研修	
	20日(土)	健康セミナー(小樽市民センター) スポーツの怪我・応急処置・トレーニングについて スペシャルゲスト 稲葉篤紀様	
	22日(月)	職員福利厚生会総会	
	26日(金)	NST地域連携懇話会	
	26日(金)	NST地域連携懇話会	
7月	1日(水)	職員福利厚生会 新人歓迎会並びに春の宴	
	4日(土)～	JICA日本伝統治療(柔道整復術)指導者育成・普及プロジェクト研修	
	10日(金)	第2回小樽ハンドセラピィー研修会	
	13日(月)～	地域包括型診療参加臨床実習(札幌医科大学学生1名)	
	13日(月)	糖尿病集団指導	
	14日(火)	小樽メタボリッククラブ	
	21日(火)	病院運営会議	
	25日(土)	おたる潮まつりねりこみ参加	
	29日(水)	健康セミナー 回復期リハビリテーション病棟の挑戦	
	30日(木)	認知症サポーター養成講座	
	8月	1日(土)	開院記念日
3日(月)～		初期臨床研修地域医療受入(済生会吹田病院初期臨床研修医1名)	
3日(月)		インターンシップ受入(栄養管理室・リハビリテーション室)	
7日(金)		インターンシップ受入(薬剤室)	
8日(土)		コメディカル体験ツアー	
10日(月)		糖尿病集団指導	
11日(火)		小樽メタボリッククラブ	
13日(木)		墓参のため休診	
14日(金)		インターンシップ受入(看護部)	
17日(月)		集談会 医事統計と施設基準	
18日(火)		病院運営会議	
20日(木)		済生会本部ソフトウェア資産管理監査	
23日(日)		済生会東北・北海道ブロック親善ソフトボール大会(山形県)	
26日(水)		リハビリテーションセミナー 脳血管障害の神経障害 講師:札幌医科大学リハビリテーション医学講座教授 石合純夫様	
9月		5日(土)	認知症講演会 主催:北海道済生会地域ケアセンター
		8日(火)	小樽メタボリッククラブ
	10日(木)	個人情報保護研修	
	11日(金)	緩和ケア講演会	
	14日(月)	糖尿病集団指導	
	15日(火)	病院運営会議	

9月	27日(日)	済生会健康フェスタin小樽
	29日(火)	人事考課者研修
10月	2日(金)	接遇研修 講師：サッポロロヴィ合同会社 龍造寺砂遼子様
	7日(水)	医療安全セミナー 病院での医療安全体制づくりと院内事故調査 講師：東邦大学医学部社会医学講座教授 長谷川友紀様
	13日(火)	小樽メタボリッククラブ
	15日(木)	褥瘡勉強会
	16日(金)	済生会東北・北海道ブロック会議(福島県)
	19日(月)	糖尿病集団指導 糖尿病費用と患者数・塩と上手につきあおう～塩分ひかえめでもおいしく～
	19日(月)	集談会 胆石について
	20日(火)	病院運営会議
	22日(木)	病院運営会議
	30日(金)	感染対策講演会 講師：滝川市立病院 診療部長 松川雅則様 演題：感染制御の心
	31日(土)	監督職・初級監督職マネジメント研修
31日(土)	セラピー犬とのふれあい(患者サービス検討委員会)	
11月	6日(金)	防犯・安全担当者連絡会議・医療施設防犯対策講習会
	9日(月)	糖尿病集団指導 頸動脈検査について・口の中に潜む血糖値を上げる正体とは？
	9日(月)	監督職・初級監督職マネジメント研修
	10日(火)	小樽メタボリッククラブ
	12日(木)	札幌医科大学学長特別講演会 医の倫理—札幌医科大学附属病院における経験より— 講師：札幌医科大学学長 島本和明様
	14日(土)	NST小樽後志静脈経腸栄養講演会
	16日(月)	防火訓練
	16日(月)	集談会 手術前後オリエンテーションの改善を試みて ～写真入りパンフレットと動画(DVD)の併用による効果～
	24日(火)	病院運営会議
	25日(水)	BSC・QC活動研修
	27日(金)	自己血輸血講演会 講師：手稲溪仁会病院臨床検査部マネージャー 三浦邦彦様
28日(土)	監督職・初級監督職マネジメント研修	
30日(月)～12月2日(水)	QC大会	
12月	4日(金)	緩和医療講演会
	8日(火)	第99回小樽メタボリッククラブ
	8日(火)	献血車来院
	10日(木)	済生会健康セミナー トイレが近い方へのお話し
	14日(月)	糖尿病教室
	15日(火)	病院運営会議
	17日(木)	永年勤続表彰式並びに福利厚生会忘年会
	19日(土)	保育所クリスマス発表
	26日(土)	野球検診
	30日(水)	仕事納め
	31日(木)	年末休診日
1月	6日(水)	仕事始め 病院長年頭挨拶
	14日(木)	医療安全セミナー 穿刺に伴う末梢神経損傷の予防と対策
	15日(金)	小樽・後志整形外科部会講演会
	19日(火)	病院運営会議
	22日(金)	QC札幌大会 札幌コンベンションセンター
	25日(月)	健康講演会&相談会 「たばこの話」(しっかり禁煙、きちんと分煙)
	30日(土)	小樽後志静脈経腸栄養講演会
2月	9日(火)12日(金)15日(月)	中途採用者研修
	15日(月)	集談会 限局性前立腺癌の治療
	16日(火)	病院運営会議
	18日(木)	人権に関する研修会(北海道済生会)
	22日(月)～23日(火)	病院機能評価 審査
	25日(木)	小樽市保健所立入検査
	25日(木)	パス大会
	28日(日)	第68回済生会学会・平成27年度済生会総会(グランキューブ大阪(大阪国際会議場))
3月	14日(月)	診療報酬改定プロジェクトキックオフ
	15日(火)	平成27年度本部永年勤続表彰伝達式
	15日(火)	病院運営会議
	16日(水)	看護師復職支援セミナー
	19日(土)	第26回日本性機能学会東部総会
	23日(水)	感染対策研修会
28日(月)	褥瘡勉強会	

主要行事

●病院機能評価受審

【病院機能評価受審スケジュール】

- ・平成26年10月 キックオフ
- ・平成26年11月 初期評価（コンサルタント）
89項目中、約40%の36項目がC評価
- ・平成27年 1月
～平成27年11月 機能評価受審体制構築・運用確認
（月1定例会議にて進捗確認）
組織体制の変更
施設・設備の整備
各種規定の見直し
- ・平成27年12月
～平成28年 1月 模擬審査（コンサルタント）
病院機能評価受審提出文書提出
- ・平成28年 2月 本審査
- ・平成28年 4月 中間結果報告
89項目中、S：0、A：76、
B：10、C：0、NA：3
- ・平成28年6月 審査結果
認定（一般病院2）

平成28年2月21日、22日に公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価（3rdGVer. 1.1）の審査を受けました。当院は施設の老朽化により平成25年度に新築移転を行いハード面の整備は実施しましたが、ソフト面ではBSC導入として経営改善に取り組んでいるものの、医療の質の観点では一度も第三者評価受審を受けていた事がなかった為、いよいよソフト面の整備として病院機能評価の認定を目指し受審することと致しました。初の受審という事で組織体制の変更を伴う大きな改善が必要と見込まれることから、コンサルタントの指導を受けながら取り組むことと致しました。

平成26年10月に副院長をリーダーとした診療部・看護部・医療技術部・事務部・医療安全・感染対策の担当者及び各部門責任者からなるチームを発足し、全病院的な病院機能評価受審プロジェクトがキックオフされました。同年11月にコンサルタントによる初期評価を受けた後、課題・改善目標を設定し、毎月・プロジェクト会議を開催し、模擬審査等の事前準備を経て、本審査を受審し、無事、指摘事項（C評価）を受けることなく一発で審査認定となりました。

病院機能評価認定に向けた取り組みにより医療の質が向上したとともに、全職員が一丸となって取り組んだことから職員の結束力も強まったと感じます。

今後も医療の質の維持、各種改善を行い、職員が働

きやすく魅力ある職場づくり、質の高い地域に選ばれる病院づくりに努めて参ります。

プロジェクト事務局 五十嵐浩司

初の病院機能評価受審に向けて1年4か月、質の向上を目指し“オール済生会”で準備、整備に取り組んで参りました。

平成26年11月、初期評価において規定や手順の整備、役割・権限の見直し、委員会活動体制等の整備が改善の根幹であることが浮き彫りになりました。行動レベルに分けた改善課題は院内全体で約190項目。特に看護部門は第2領域の殆どの課題の改善担当となりました。数ある課題をどう分担するか…から始まり、進捗中に出てくる諸問題。これで本当に大丈夫なのか、間に合うの？…と不安を抱えながらの日々でした。

そんな中、コンサルタントと他院で機能評価受審を経験した職員の的確なアドバイス、資料の提供にはとても助けられました。

終盤は年末年始に重なった上、準備作業でさらに忙しくなり、どの現場も本当に大変な状況でした。特に目まぐるしく変わる手順やマニュアル類の周知と実践に現場は相当苦勞したと思います。不満もあったと思いますが皆、真摯に取り組んでくれ、本当に感謝しています。また、ケアプロセスでは予定していた回復期リハ病棟が一般病院2の審査対象外、との連絡が模擬審査の当日に機能評価機構から飛び込み、大ショック。検討の結果、急きょ包括ケア病棟へ変更…となりました。両病棟の関係者の皆様には本当にご苦勞をおかけしました。

本審査直前まで各部署準備に追われました。審査用資料、台本の作成。ケアプロセス調査に向けて医師、コメディカル、看護師でのリハーサル。休日出勤や、審査前日は深夜まで準備していた職員も…。皆、多大なエネルギーを使ったと思います。同時に、多くの院内規程や手順が整備されました。努力の甲斐あり、本審査当日ではどの部署もしっかりとアピールができた成功、と言えたと思います。5名のサーベイヤーの方々にはアドバイスも沢山いただき、とても有意義な2日間となりました。

病院にとって機能評価を受審する意味とは。今回、この機会を通して必ず病院が良くなっていく、という強い信念を持って進んできました。審査の為だけの活動ではなく、改善されたことの継続、が一番大事なことでしょう。幸い審査を終えた今も継続されている状

況が各現場から伺え、嬉しく思います。まだまだ課題はありますが、この大きな経験と実績は済生会小樽病院の「底力」を証明できたと言えるのではないのでしょうか。ここを新たなスタートとして、今後も職員一同、手と心を合わせ、日々邁進していきたいと思えます。

プロジェクト事務局 看護部 松江知加子

病院機能評価の認定に際して

平成26年10月のプロジェクト・キックオフから受審までの1年4か月、プロジェクトリーダーを務めさせていただきました。一言、お礼を述べさせていただきます。

コンサルの初期評価で、2/3の項目が不合格とされた時には、1年4か月先の受審までには到底間に合わないだろうと内心諦めていました。しかし、松江看護部次長、五十嵐管理事務室長を中心としたプロジェクトチームは問題点を一つずつ着実に解決し、改善して行きました。「病院機能評価は、合格することだけ

が目的じゃないの、済生会小樽病院の診療の質を高めることが真の目的よ！」というのが松江次長の口癖です。すばらしい熱意です。

嬉しかったのは、2月の受審の際には、医師の皆さんが全面的に協力してくれたことです。サーベイヤーとの面接の際、長谷川副院長でなければ答えられない質問に的確に回答していただきました。医師を含めた全スタッフが機能評価に取り組んだという姿勢がサーベイヤーの好印象を勝ち取ったと思っています。

当院には、研修医・専攻医の獲得、救急体制の整備、DPCへの移行など、取り組まなければならない課題が山積です。この高い意識、情熱があれば必ずや解決できると信じています。

最後に、皆様ありがとうございました。私は病院機能評価受審のプロジェクトリーダーをさせてもらって、本当に良かったと思いました。済生会小樽病院の熱意、底力を肌身に感じる事ができました。

プロジェクトリーダー 和田 卓郎



●ふれあい看護体験・インターンシップ

【目的】

〈ふれあい看護体験〉

- ・患者さんとのふれあいを通してお世話すること、看護することに理解を深める
- ・市民と病院関係者が交流し、医療や看護のあり方をともに考えていくきっかけをつくる

〈インターンシップ〉

- ・済生会小樽病院にて看護体験を通し、病院の役割、医療チームの役割と連携、看護師の役割を学習する

【活動内容】

小樽市内の高校生を受け入れ、院内施設見学、看護体験等を実施

日 程	学校名	学 年	参加人数
・ふれあい看護体験 平成27年5月13日(水) 10:00～15:30	小樽桜陽高等学校 小樽双葉高等学校	2年生 2年生	10名 2名
・インターンシップ 平成27年8月14日(金) 9:30～16:00	小樽桜陽高等学校	3年生	10名

当日は当院の白衣に身を包み、院内施設見学と5つの病棟に分かれて看護体験を実施。手浴や車椅子介助など、日常では体験することのできない患者さんとのふれあいを持ちました。

体験終了後は病棟担当者と高校生全員が集まり懇談会を行い、1日の感想や、看護師になるためには、なってよかったことは？等質疑応答を実施。当初は緊張した面持ちの高校生たちも時間が経つにつれやっと表情が柔らかく…と思ったらあっという間に終了時間。参加者の中には看護師志望も多く「看護師になりたい気持ちが強くなった」、という言葉も聞かれました。

彼らが今後の進路を検討する上で、この体験が役に立てれば嬉しいで限りです。そして、この中から1人でも多く、未来の看護師や医療職で働いてくれる仲間が生まれてくれることを願っています。

【体験者からの感想】

- ・看護師の仕事は大変な仕事だが、とてもやりがいがあることがわかった。
- ・看護、医療の仕事はただ処置をするだけではなく、心のケアをして患者さんを笑顔にする、そんな仕事なのだろうと感じることが出来、より一層看護師になりたい気持ちが強くなった。
- ・「がんばれ」「お疲れさま」という言葉を貰うことで達成感があることを知った。必ず看護師になる。
- ・今回の体験を通し、改めて医療職に就きたいという思いの強さを知った。
- ・これからもっともっと勉強して絶対看護師になりたい。



●職場訪問

日 時	学校名	学 年	参加人数
平成27年5月26日(火) 10:00~12:00	小樽市立向陽中学校	1年生	3名
平成27年6月3日(水) 13:30~14:30	小樽市立菁園中学校	1年生	12名

総合学習の一環として2校の中学1年生が職場訪問されました。当日はオリエンテーションにて「病院で働くということ」・「済生会について」説明し、その後院内見学を実施しました。普段は見ることの出来ない部署へ訪問し貴重な経験になったのではないかと思います。

います。この体験が将来の進路選択の一つとなり、一人でも多く医療職として働いて頂けたら嬉しいです。次年度以降も地域に貢献できるよう各部署と連携をとり受入をしていきたいと考えております。

●看護研究（看護部）

看護の質の向上と看護職員のキャリアアップのため、年2回春と秋に開催しています。

平成27年5月16日（土）演題

部署名	テ ー マ	発表者
手術センター	当手術センターにおけるタイムアウトの意識調査	本間 未知
3 B病棟	大腿骨骨折患者の腓骨神経麻痺予防 ～適切な除圧枕の検討～	佐野 麻美 小林 有希
5 B病棟	外泊チェックリスト、外出・外泊チェック表の見直しを試みて ～実態調査をとおして～	金田 匡代

平成27年11月21日（土）演題

部署名	テ ー マ	発表者
3 A病棟	手術前後オリエンテーションの改善を試みて ～写真入パンフレットと動画（DVD）の併用による効果	石田ゆかり
4 A病棟	糖尿病患者指導による介入フロー作成 ～スタッフの業務効率化を目指して～	佐藤 美帆
4 B病棟	地域包括ケア病棟において患者の早期在宅復帰に繋がった要因 ～CVポートを使用した患者に焦点をあてて～	浪岡 真以
外来	末梢神経損傷回避を目指して ～アンケート調査とポスター作製を試みて～	早川 晃子
透析	患者と共に行う災害対策 ～災害対策説明会を試みて～	中山 祐子

●第10回健康セミナー 特別ゲストに稲葉篤紀氏

6月20日、北海道日本ハムファイターズの稲葉篤紀SCO（スポーツコミュニティオフィサー）を特別ゲストに迎え、小樽市民会館マリンホールで第10回健康セミナーを開催しました。

第1部、織田整形外科部長と花田理学療法士が「スポーツの怪我・応急処置・トレーニングについて」講演。客席からはたくさんの質問が飛び交いました。

続いて第2部は、北海道テレビの谷口直樹アナウンサーに司会をしていただき、稲葉さんと近藤病院長のトークショーを行いました。会場でユニフォームを着

た野球少年からの質問にも、笑いを交えながら丁寧に答えてくれました。現在のSCO（スポーツコミュニティオフィサー）の仕事について、「スポーツを通して地域の活性化を目指します。そして北海道をスポーツ王国にしたい」と熱く語る稲葉さんは、現役時代同様輝いていました。

最後に、ファイターズの観戦ペアチケットやDVDのプレゼントがあり、抽選で当たった子供たちは大喜びで受け取っていました。



●スポーツセミナー 特別ゲストにレバンガ北海道多嶋選手・西川選手

7月12日、小樽市総合体育館でスポーツセミナーを開催、市内近郊の小学生から高校生80名が参加しました。今回は外傷予防がテーマで、特にバスケットボールに焦点を当て、プロバスケットボールチーム・レバンガ北海道の多嶋朝飛選手、西川貴之選手に特別ゲストとして参加していただきました。

はじめに両選手がバスケットボールの基本を説明、参加者を実技指導しました。続いて、和田副院長、目良副診療部長、織田整形外科部長が講演。選手も交えディスカッションを行いました。最後にフリースロー大会や3on3を行い、参加者・スタッフとも楽しい時間を過ごしました。



●モンゴル医療研修生受入れ

7月4日から1ヶ月間、モンゴルの医療研修生3名を受け入れました。

日本柔道整復師会と国際協力機構（JICA）が主催するプロジェクトによるもので、日本の伝統治療である柔道整復術をモンゴルに普及させ、同国の医療・福祉の課題を解決することを目指しています。同国では、遊牧民の落馬による骨折や脱臼等の外傷が多発していますが、国土が広大なことや医療インフラの整備が遅れていることから、適切な治療を受けられず、変形治癒による障害に苦しむ国民が多くいます。

今回、准医師・看護師の資格を持つ3名、ツブシンバヤルさん、ボロルトゥーヤさん、ボロルチメグさんが、整形外科で診療・手術・リハビリなどの研修を受

けました。皆さんとても向上心が強く、休日に開催した健康セミナーやイベントにも積極的に参加し、研修を終える頃には職員との間に強い信頼関係が築かれました。

東京で行われた日本研修閉講式では、ツブシンバヤルさんが高松宮喜久子妃殿下名誉総裁の御書「済生」を紹介し「素晴らしい精神をもつ病院で研修できたことを嬉しく思います」との挨拶がありました。

今回の研修受け入れで、済生会の理念「施業救療の精神」を具現する国際的支援ができたと考えています。研修生が当院で学んだ技術と心を持ち帰り、自国で活躍することを期待しています。



●高校生向けコメディカル体験ツアー

8月8日、「覗いてみよう！医療を支えるプロフェッショナルな世界」と題し、将来の進路を決める時期にある高校生を対象に、医療に携わる多くの職種を知ってもらいたいと、コメディカル体験ツアーを初開催しました。

市内5校53名が参加、薬剤室、臨床検査室、放射線室、リハビリテーション室、栄養管理室、臨床工学室、透析室を回りました。1部署20分間の短い時間

でしたが、調剤、血液型判定、人工呼吸器マスクの装着、車椅子やリハビリ機器の使用など体験してもらいました。初めて見る医療機器にみなさん目を輝かせ真剣に取り組んでいました。

終了後、「普段見られないところを見ることができて進路への幅が広がった」「医療の仕事に就きたいとより強く思った」「終始笑いの絶えない見学ツアーで本当に楽しかった」などの感想が聞かれました。



●済生会健康フェスタin小樽

9月27日、昨年に引き続き「済生会健康フェスタin小樽」を開催しました。時折雨のぱらつく中、10時の開場と同時に大勢の来場者であふれました。

1階ロビーでは、北海道済生会各施設による相談コーナーや、脳年齢・メタボ度チェックなどの健康測定会、調剤などの病院体験ツアーを行い、大人気のコーナーでは1時間の待ち時間になりました。屋外では、小樽B1グルメあんかけ焼きそばの販売や、セラピー犬とのふれあい、小樽市消防本部のご協力により、救急車やはしご車の試乗、放水体験を行いました。小

学生のお子様連れのお母様からは「子供が体験できるコーナーがたくさんあってとても楽しめる。次回も是非参加したい」との感想をいただきました。

2階講堂では、当院整形外科医師と理学療法士による「防ごうロコモ 延ばそう健康寿命」と題しセミナーを開催、ロコモティブシンドロームとその予防法をわかりやすく説明しました。

15時半までの開催で約900名の方にご来場いただき、今年も各コーナー大盛況となりました。



●看護師復職支援セミナー

11月5日に第16回、3月16日に第17回となる看護師復職支援セミナーを開催しました。

セミナーでは、看護の動向の講義や技術演習として採血や点滴、輸液ポンプやシリンジポンプの操作を行いました。技術演習では、久しぶりの採血や医療機器の扱いに緊張しながらも指導者と共に楽しく学ぶ事が出来たとの感想を頂き、セミナー後2名の看護師が当院に就職しました。

今後もセミナーを開催し、職場復帰に不安がある看護師の支援を行うとともに、看護師確保に繋げていきたいと思ひます。

第16回 H27年11月5日 参加者 2名		第17回 H28年3月16日 参加者 4名	
資格	休職期間	資格	休職期間
看護師	7ヶ月	看護師	7年
看護師	4年	准看護師	14年
		看護師	12年
		准看護師	15年



●第11回院内QC大会

11月30日から3日間QC大会を開催しました。
今年「収入増！経費削減！を目指して」をテーマに
全22チームがエントリー、昨年の12チームから大幅

増です。年々出場チームの増加に、職員の意識の高さ
を感じました。

平成27年度 第11回QC大会プログラム

11月30日 (1日目)

時間	サークル名	演題名	所属部署
17:40		開会式	
17:50	味噌時スペシャル	再生していく済生会	4 B病棟
18:05	都市伝説～この現実信じてみませんか～	～退院時リハビリテーション指導料の算定率改善と収入増!!～	リハビリテーション室
18:20	GATTURI	ガッツリ稼ぎたい ABTK	医事課
18:35	RIZAP 浅田支店	収入増！経費削減！を目指して	3 A病棟
18:50	なでしこ帰宅クラブ	あんしんしてください 減ってますよ	外来
19:05	GAIRIZAP～結果にコミットする～	業務の効率UPで待たせないリハビリを!!	リハビリテーション室
19:20	三代目 K Soul Sisters	業務大幅改革～多くの健診を受け入れ可能な体制作りに向け、業務コストの削減に踏み切る～	健診課

12月1日 (2日目)

時間	サークル名	演題名	所属部署
17:40	勤怠管理の変～諸説あり～	勤怠管理システム導入による業務効率化	総務課
17:55	本間でっか!?TT	抜けのトラブル発生せん!?一固定安心メケシランー	透析室
18:10	なでしこトラベル	旅費計算業務の見直し	管理事務室
18:25	削減の極み乙女	透析液がありあまる～透析液のコスト削減を目指して～	臨床工学室
18:40	女子ーズ	選ばれし5人の管理栄養士が揃った時、最強の栄養指導が誕生する！新たな地域医療の創造と社会貢献ができるのか!?	管理栄養室
18:55	三代目QC弟子ブラザーズ	地域に返したいんだからぁ♪ ～地域包括病棟リハビリテーションの質向上への取り組み～	リハビリテーション室
19:10	無駄なくナースコールとり隊	効率の良い対応は 効率の良い仕事に、そして働きやすい職場づくりを目指して	5 B病棟
19:25	ROOKIES	笑顔で顔の見える連携～2015夏枯れ る～るるるる～	地域医療支援課

12月2日 (3日目)

時間	サークル名	演題名	所属部署
17:40	片づけの神さま	病院がときめく片づけの魔法	施設用度課
17:55	ムダの極み乙女	ムダ紙がありあまる～OT室プリンターの使用量削減～	リハビリテーション室
18:10	ピスタチオです	白目をむくほど便利です!!	3 B病棟
18:25	腰痛ウォッチ～ようつう体操第一～	腰痛コントロール～今ある資源を大切に～	リハビリテーション室
18:40	The ごみダイエット	ゴミ分別ふところあったかいんだからぁ～	4 A病棟
18:55	チームJCS 覚醒せよ! Ver.2	病院経営の改善～病床管理室の対応策として～	病床管理室
19:10	マサオ・デラックス	退院時薬剤情報管理指導料ってなんなのよ	薬剤室
19:25		閉会式	



最優秀賞 リハビリテーション室
「退院時リハビリテーション指導料の算定率改善と収入増」

優秀賞 健診課
「業務大幅改革」
リハビリテーション室
「地域に返したいんだからぁ」



●野球検診

第3回 12月26日 小樽リトルシニア球団 27名

第4回 3月 5日 余市リトルシニア球団 27名

当院では札幌医科大学の整形外科とスポーツ理学療法学研究室の協力を得て、リトルシニア球団向け「野球検診」を実施しています。これは野球肘等のスポーツ障害の早期発見や予防を目的としているもので、和田副院長・織田整形外科部長を中心に、超音波画像の撮影・診断や身体機能評価を行いました。異常が見つかった場合、当院で二次検診やリハビリ等の治療をしています。

今回は障害の発見だけでなく予防にも関心をもって

もらうため、リハビリテーション室理学療法士によるストレッチや筋力トレーニングのレクチャーも行いました。参加した選手たちは、自分の予想以上に硬い筋や弱い筋があったようで、改善を目指し一生懸命取り組んでいました。

選手たちが検診結果を参考にして、怪我をしない身体をつくることで、これからも大好きな野球を続けていけるよう応援していきます。



●QC札幌大会

1月22日、QCサークル北海道支部主催QC札幌大会が開催され40チームが参加しました。当院から、院内QC大会で優秀賞を取ったリハビリテーション室と健康診断課2チームが参加しました。外部で開かれる大会への参加は初めてです。

大会が始まり各チームのレベルの高さにびっくり。

緊張して体も声もガタガタ震えながらの発表でしたが、2チームとも優良賞を受賞しました。

札幌大会は、内容・資料の作り方・発表手法などとても勉強になりました。今後も外部の活動に積極的に参加して行きます。



●小樽雪あかりの路に合わせ オブジェ制作

2月5日～14日、小樽の冬の最大イベント「小樽雪あかりの路」が開催されました。雪や氷で作ったオブジェとオレンジ色の灯り。白銀の世界小樽が約12万本のろうそくの灯りで埋めつくされました。当院でも患者さんの癒しになるよう、正面玄関横にオブジェを作成しました。ろうそくは雪や強風ですぐ消えてしまう為、今年は七色に輝くLED式ろうそくを採用。いつもと違った鮮やかな風景を幻想的に映し出しました。



併設の保育施設「なでしこキッズクラブ」前では、子供たちと一緒に雪像を作成。去年の「オラフ」に続き今年は妖怪ウォッチのキャラクター「コマさん」です。作成当日の気温はマイナス。パウダースノーでなかなか固まらず、雪を盛って水をつけ固める作業を何度も繰り返し、ようやく形になりました。コマさんの頭から出ている角、これはなんと保育所の屋根にできた氷柱（つらら）です。完成したぽっちゃりコマさんは子供たちに大人気。みんなで記念撮影しました。



年度表彰

●永年勤続

30年表彰	瀬川 信子	看護係長
20年表彰	曾根 潔美	看護師
	小路 深雪	看護師
	加茂 照子	看護助手
10年表彰	小野 徹	薬剤室技術主任
	芳賀 智子	看護師
	遠藤英津子	看護師
	高橋 有沙	看護師
	林 敬子	看護師
	古瀬 康江	看護師
	佐藤 幸希	看護師
	寒川喜代美	介護福祉士
	佐藤 彰子	看護助手



●平成27年接遇優秀者

患者サービス検討委員会では年度接遇標語を設け、職員及び患者さんからの投票で接遇優秀者を決定しています。

患者サービス検討委員会平成27年度接遇標語
「ほっとする 優しい笑顔と その気遣い」
接遇優秀者表彰テーマ：すてきな気遣いが出来る
あなたに1票

職員間投票 大賞

佐藤由紀枝 (4A看護師)

投票者コメント「どんな時も患者さん・スタッフにも優しい笑顔・言葉使い・仕事も嫌がらずに進んでいる…天使だ!!」等

患者間投票 大賞

新井 愛未 (5B看護師)

投票者コメント「私の計画を立ててくださり、とても親身になって色々と相談にもものってください、心の温かい人だと思いました」等



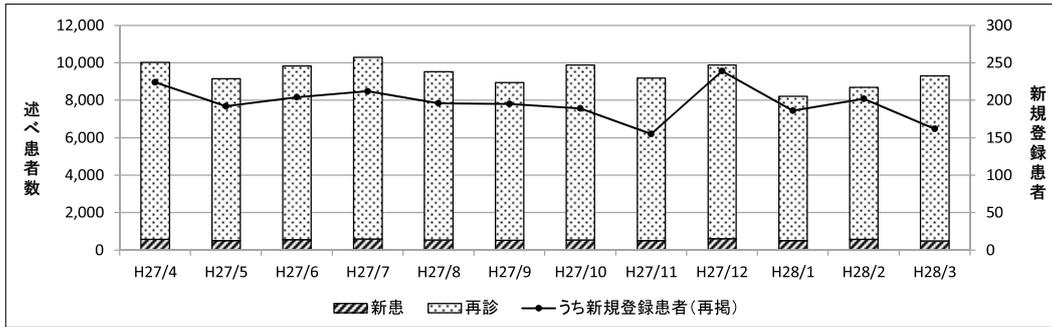
左 佐藤由紀枝 右 新井 愛未

Ⅱ 診療実績

外来患者数

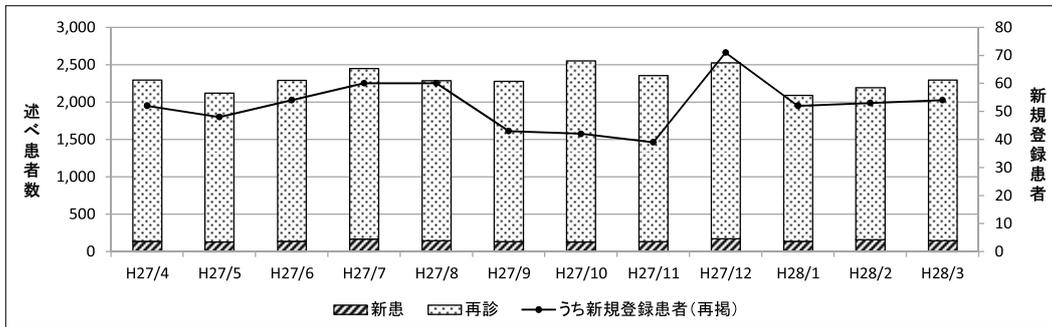
1) 全体

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
再診	9,459	8,652	9,276	9,700	8,987	8,417	9,351	8,668	9,262	7,709	8,121	8,817
新患	571	504	564	594	539	531	534	516	615	505	567	495
うち新規登録患者(再掲)	224	192	204	212	196	195	189	155	239	186	202	162
述べ患者数	10,030	9,156	9,840	10,294	9,526	8,948	9,885	9,184	9,877	8,214	8,688	9,312



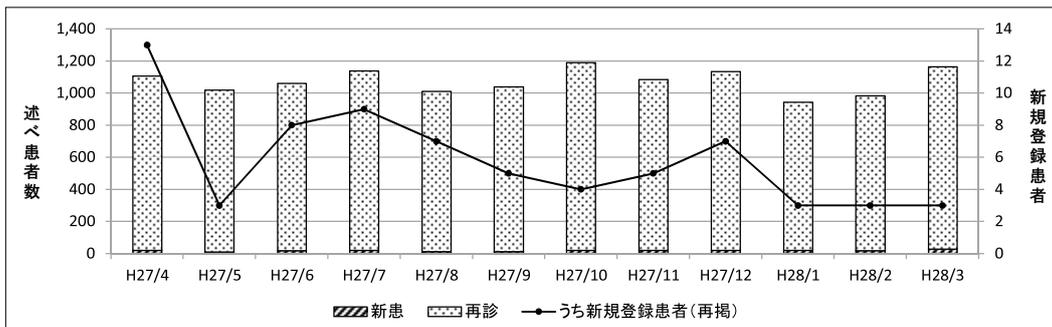
2) 内科

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
再診	2,158	1,989	2,151	2,276	2,138	2,146	2,421	2,218	2,353	1,952	2,029	2,145
新患	139	133	141	171	147	134	130	135	172	138	163	149
うち新規登録患者(再掲)	52	48	54	60	60	43	42	39	71	52	53	54
述べ患者数	2,297	2,122	2,292	2,447	2,285	2,280	2,551	2,353	2,525	2,090	2,192	2,294



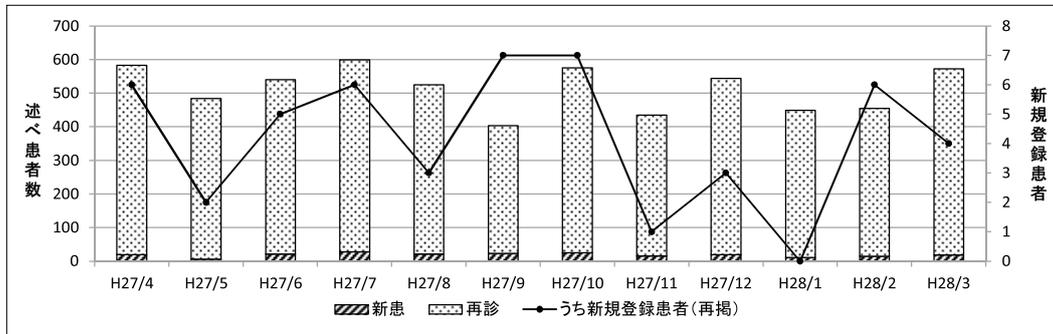
3) 循環器内科

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
再診	1,087	1,007	1,043	1,119	1,000	1,028	1,171	1,065	1,115	924	966	1,137
新患	21	11	18	21	12	12	20	21	21	21	17	27
うち新規登録患者(再掲)	13	3	8	9	7	5	4	5	7	3	3	3
述べ患者数	1,108	1,018	1,061	1,140	1,012	1,040	1,191	1,086	1,136	945	983	1,164



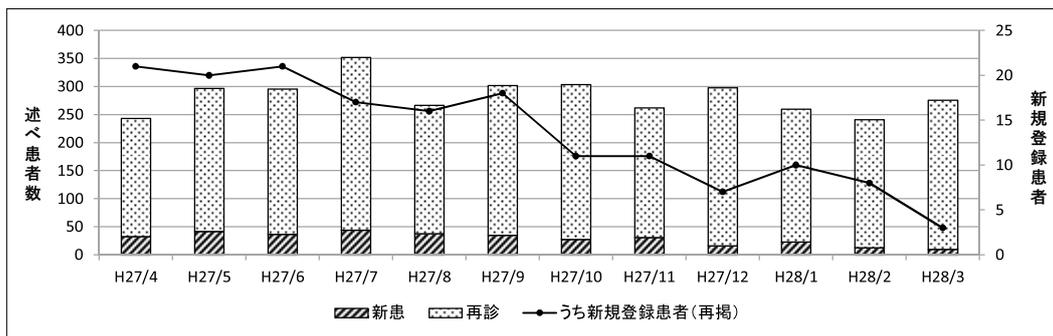
4) 神経内科

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
再診	563	477	518	570	503	381	551	419	524	438	440	554
新患	20	7	22	29	22	23	25	16	20	11	15	19
うち新規登録患者(再掲)	6	2	5	6	3	7	7	1	3	0	6	4
述べ患者数	583	484	540	599	525	404	576	435	544	449	455	573



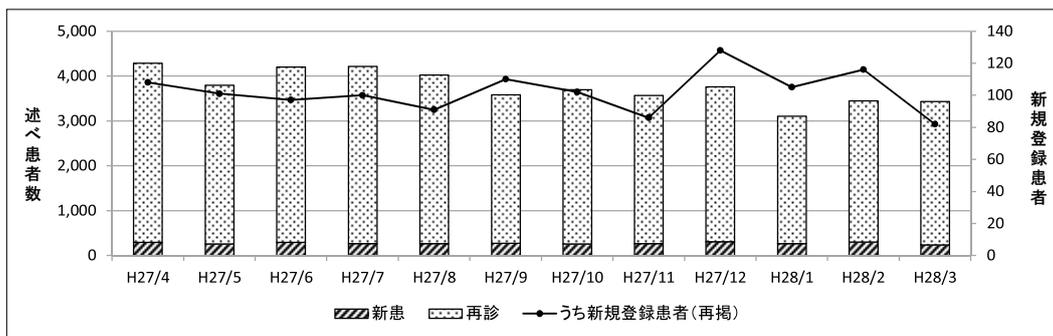
5) 外科

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
再診	210	255	259	308	229	267	276	231	282	237	228	266
新患	33	42	37	44	38	35	28	31	16	23	13	10
うち新規登録患者(再掲)	21	20	21	17	16	18	11	11	7	10	8	3
述べ患者数	243	297	296	352	267	302	304	262	298	260	241	276



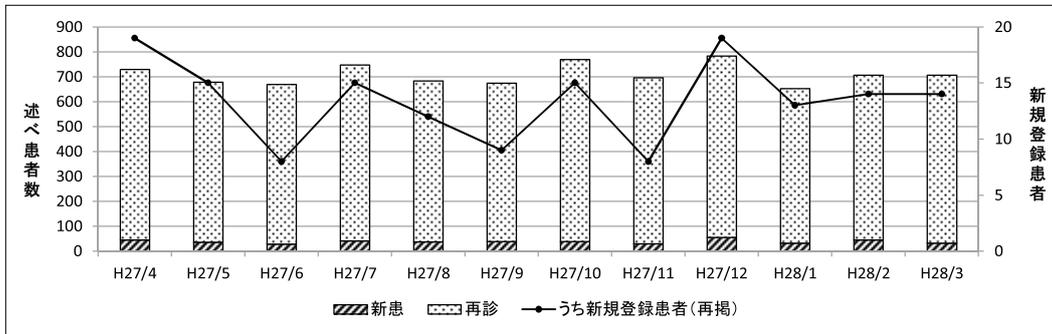
6) 整形外科

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
再診	3,990	3,538	3,912	3,944	3,755	3,307	3,435	3,303	3,456	2,838	3,147	3,194
新患	296	257	291	270	267	273	262	268	307	269	301	238
うち新規登録患者(再掲)	108	101	97	100	91	110	102	86	128	105	116	82
述べ患者数	4,286	3,795	4,203	4,214	4,022	3,580	3,697	3,571	3,763	3,107	3,448	3,432



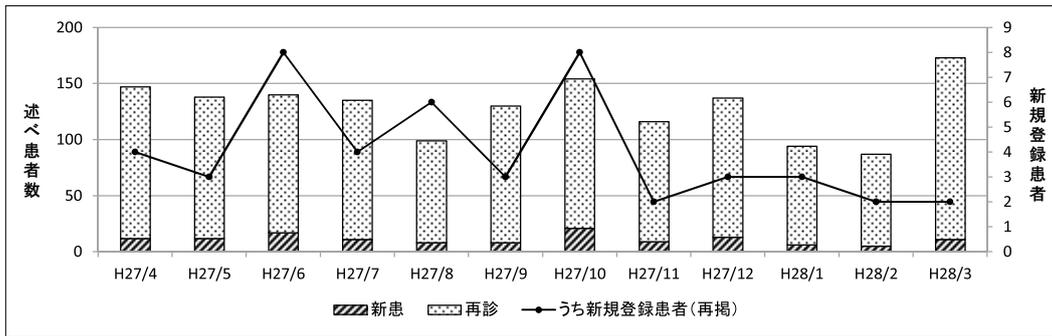
7) 泌尿器科

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
再診	684	642	640	707	646	636	730	666	728	621	662	675
新患	45	36	29	41	38	39	39	30	55	32	45	32
うち新規登録患者(再掲)	19	15	8	15	12	9	15	8	19	13	14	14
述べ患者数	729	678	669	748	684	675	769	696	783	653	707	707



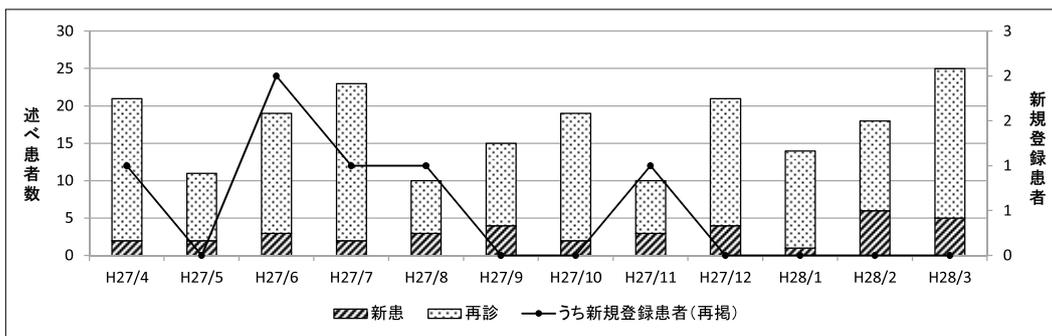
8) 耳鼻咽喉科

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
再診	135	126	123	124	91	122	133	107	124	88	82	162
新患	12	12	17	11	8	8	21	9	13	6	5	11
うち新規登録患者(再掲)	4	3	8	4	6	3	8	2	3	3	2	2
述べ患者数	147	138	140	135	99	130	154	116	137	94	87	173



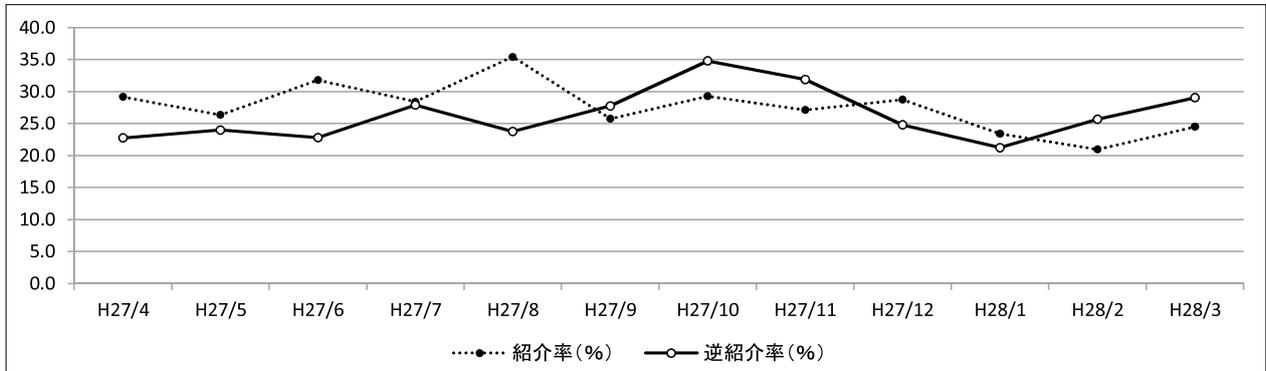
9) 婦人科

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
再診	19	9	16	21	7	11	17	7	17	13	12	20
新患	2	2	3	2	3	4	2	3	4	1	6	5
うち新規登録患者(再掲)	1	0	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0
述べ患者数	21	11	19	23	10	15	19	10	21	14	18	25



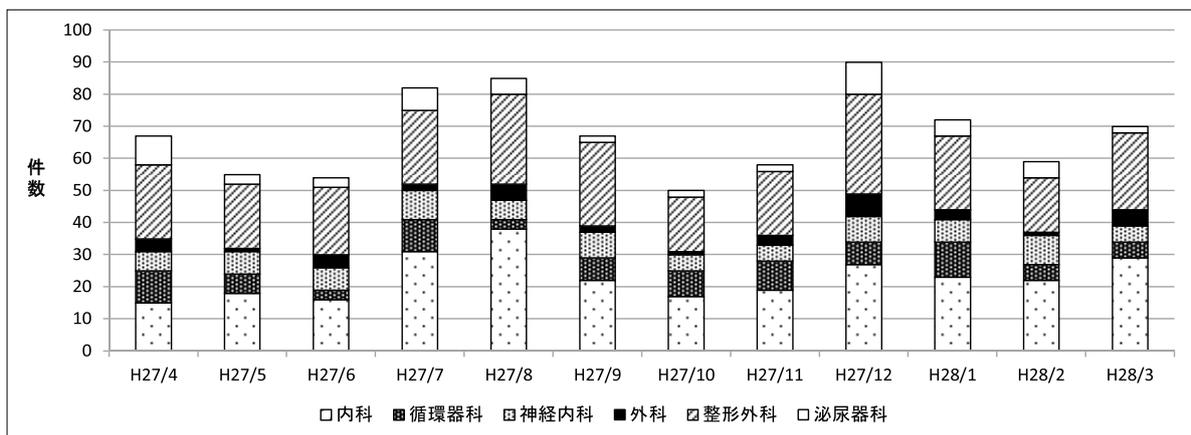
紹介率・逆紹介率

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
紹介率(%)	29.2	26.3	31.8	28.4	35.4	25.7	29.3	27.1	28.7	23.4	20.9	24.5
逆紹介率(%)	22.8	24.0	22.8	27.9	23.7	27.7	34.8	31.9	24.8	21.2	25.6	29.0



救急患者数

		H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
内科	外来	4	4	3	2	8	6	5	4	6	6	7	10
	入院	11	14	13	29	30	16	12	15	21	17	15	19
	合計	15	18	16	31	38	22	17	19	27	23	22	29
循環器科	外来	1	2	1	2	1	3	2	4	1	4	1	2
	入院	9	4	2	8	2	4	6	5	6	7	4	3
	合計	10	6	3	10	3	7	8	9	7	11	5	5
神経内科	外来	2	0	2	4	0	2	0	3	2	3	2	0
	入院	4	7	5	5	6	6	5	2	6	4	7	5
	合計	6	7	7	9	6	8	5	5	8	7	9	5
外科	外来	1	0	1	0	0	0	1	0	2	1	1	1
	入院	3	1	3	2	5	2	0	3	5	2	0	4
	合計	4	1	4	2	5	2	1	3	7	3	1	5
整形外科	外来	9	3	6	6	5	10	4	8	8	2	7	7
	入院	14	17	15	17	23	16	13	12	23	21	10	17
	合計	23	20	21	23	28	26	17	20	31	23	17	24
泌尿器科	外来	5	2	0	3	2	1	1	0	6	3	3	0
	入院	4	1	3	4	3	1	1	2	4	2	2	2
	合計	9	3	3	7	5	2	2	2	10	5	5	2
総計	67	55	54	82	85	67	50	58	58	90	72	59	70



入院患者数

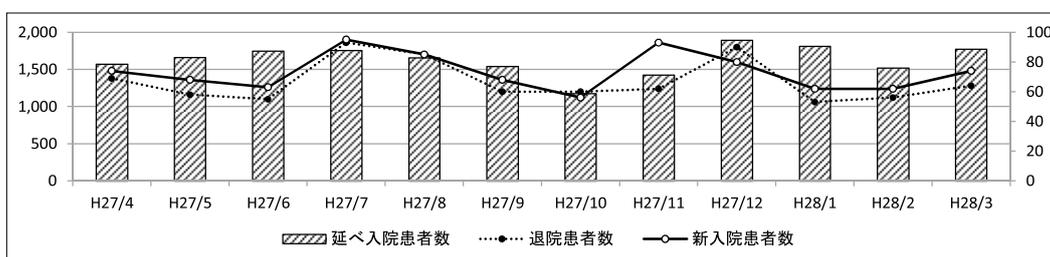
1) 病院全体

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
延べ入院患者数	5,819	6,094	6,165	6,314	6,154	5,686	6,100	6,370	6,786	6,664	6,516	6,551
退院患者数	221	197	239	273	267	203	228	237	304	205	223	230
新入院患者数	223	201	229	277	250	225	231	247	273	256	201	226

2) 診療科別入院患者数

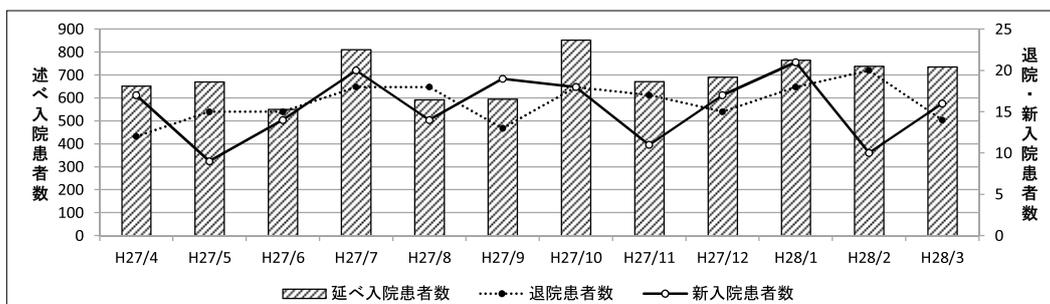
内科

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
延べ入院患者数	1,573	1,662	1,749	1,758	1,656	1,540	1,173	1,426	1,894	1,811	1,518	1,772
退院患者数	69	58	55	93	85	60	60	62	90	53	56	64
新入院患者数	74	68	63	95	85	68	56	93	80	62	62	74



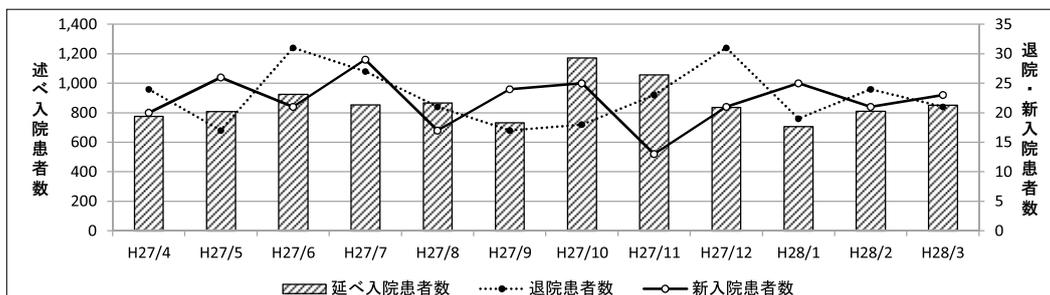
循環器科

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
延べ入院患者数	653	671	550	811	592	596	852	672	692	766	739	736
退院患者数	12	15	15	18	18	13	18	17	15	18	20	14
新入院患者数	17	9	14	20	14	19	18	11	17	21	10	16



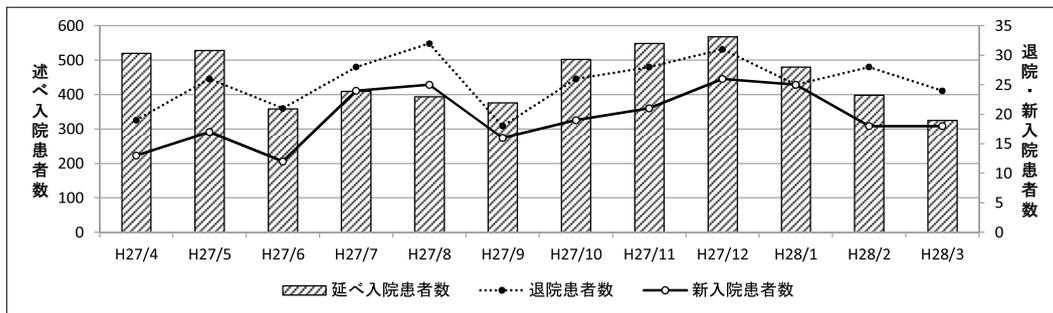
神経内科

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
延べ入院患者数	777	811	926	855	869	733	1,174	1,059	838	708	812	853
退院患者数	24	17	31	27	21	17	18	23	31	19	24	21
新入院患者数	20	26	21	29	17	24	25	13	21	25	21	23



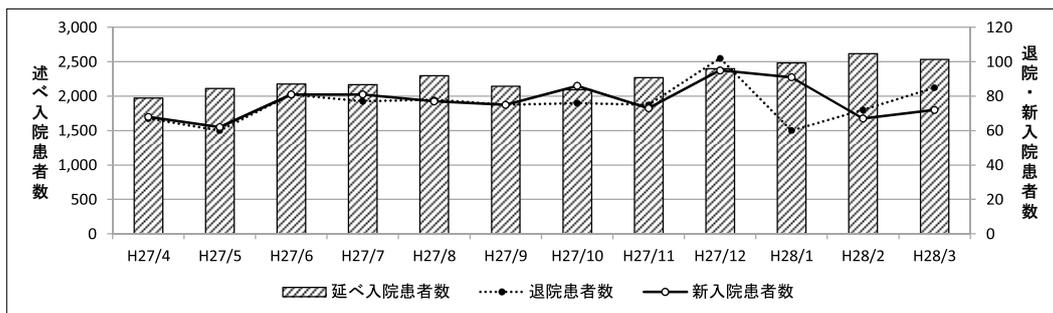
外科

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
延べ入院患者数	520	529	359	410	394	377	503	549	569	481	399	326
退院患者数	19	26	21	28	32	18	26	28	31	25	28	24
新入院患者数	13	17	12	24	25	16	19	21	26	25	18	18



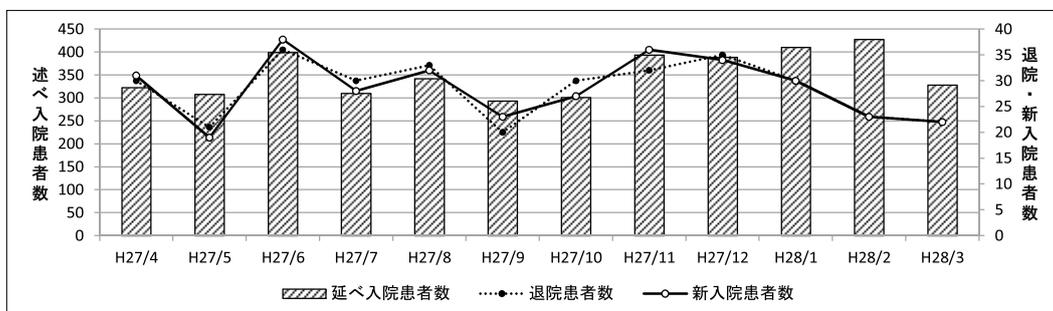
整形外科

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
延べ入院患者数	1,973	2,113	2,182	2,170	2,301	2,146	2,097	2,270	2,404	2,484	2,620	2,534
退院患者数	67	60	81	77	78	75	76	75	102	60	72	85
新入院患者数	68	62	81	81	77	75	86	73	95	91	67	72



泌尿器科

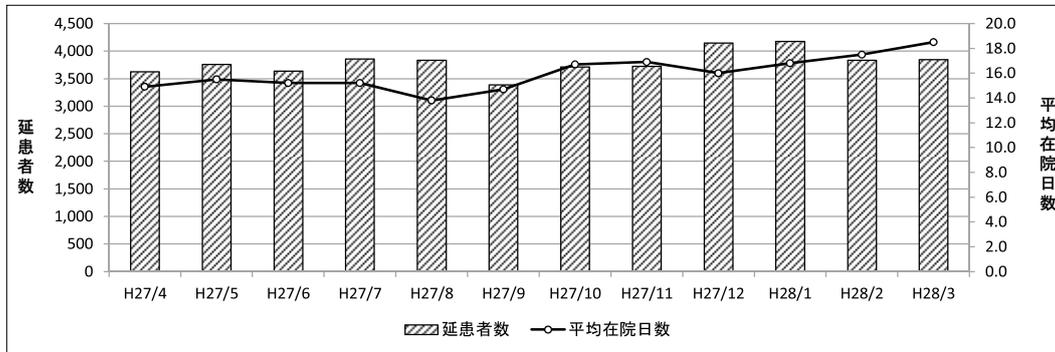
	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
延べ入院患者数	323	308	399	310	342	294	301	394	389	410	428	328
退院患者数	30	21	36	30	33	20	30	32	35	30	23	22
新入院患者数	31	19	38	28	32	23	27	36	34	30	23	22



病棟別入院患者数

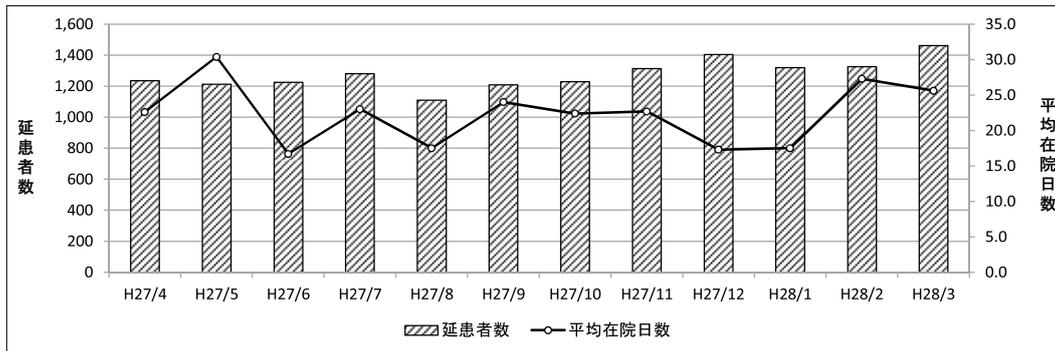
1) 一般病棟入院患者数・平均在院日数

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
延患者数	3,628	3,762	3,640	3,860	3,834	3,388	3,712	3,728	4,148	4,181	3,838	3,845
1日平均患者数	120.9	121.4	121.3	124.5	123.7	112.9	119.7	168.0	133.8	134.9	132.6	124.0
平均在院日数	14.9	15.5	15.2	15.2	13.8	14.7	16.7	16.9	16.0	16.8	17.5	18.5



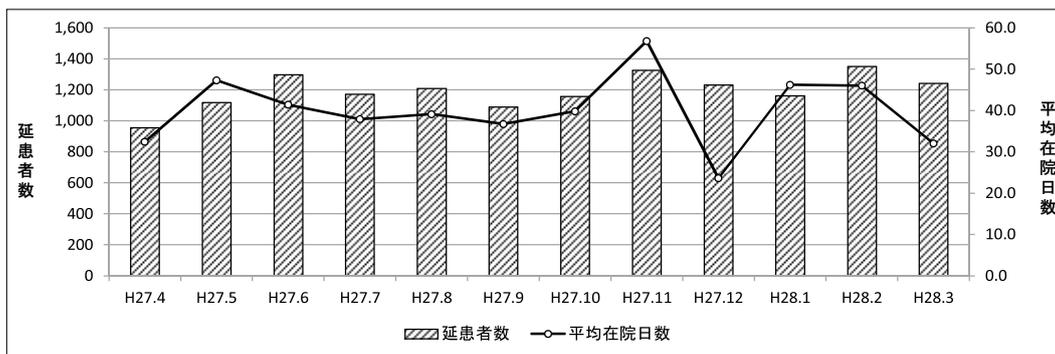
2) 地域包括ケア病棟入院患者数・平均在院日数

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
延患者数	1,235	1,213	1,226	1,282	1,110	1,209	1,230	1,315	1,405	1,320	1,326	1,464
1日平均患者数	41.2	39.1	40.9	41.4	35.8	40.3	39.7	43.8	45.3	42.6	50.5	47.2
平均在院日数	22.6	30.4	16.7	23.0	17.5	24.0	22.4	22.7	17.3	17.5	27.3	25.6



3) 回復期リハ病棟入院患者数・平均在院日数

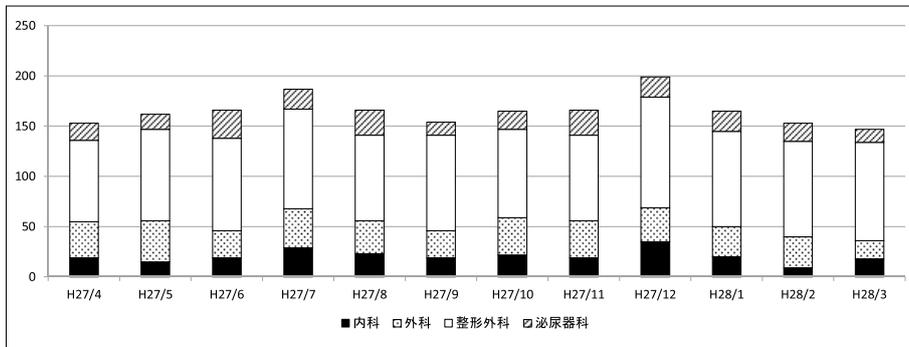
	H27.4	H27.5	H27.6	H27.7	H27.8	H27.9	H27.10	H27.11	H27.12	H28.1	H28.2	H28.3
延患者数	956	1,119	1,299	1,172	1,210	1,089	1,158	1,327	1,233	1,163	1,352	1,242
1日平均患者数	31.9	36.1	43.3	37.8	39.0	36.3	37.4	44.2	39.8	37.5	42.8	40.1
平均在院日数	32.4	47.3	41.4	37.9	39.1	36.7	39.8	56.8	23.6	46.2	46.0	32.0



手術

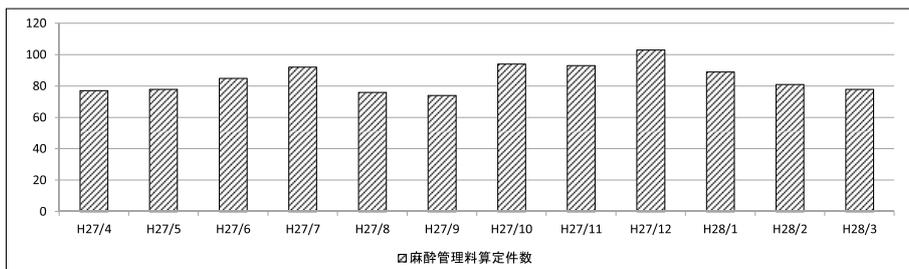
1) 診療科別手術件数

		H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
内科	入院	18	13	15	27	23	17	18	19	32	18	6	17
	外来	1	2	4	2	0	2	4	0	3	2	3	1
	合計	19	15	19	29	23	19	22	19	35	20	9	18
外科	入院	16	23	12	22	23	12	30	28	24	22	17	12
	外来	20	18	15	17	10	15	7	9	10	8	14	6
	合計	36	41	27	39	33	27	37	37	34	30	31	18
整形外科	入院	64	70	68	72	60	68	70	65	85	72	72	74
	外来	17	21	24	27	25	27	18	20	25	23	23	24
	合計	81	91	92	99	85	95	88	85	110	95	95	98
泌尿器科	入院	17	14	24	20	24	11	18	25	18	19	17	13
	外来	0	1	4	0	1	2	0	0	2	1	1	0
	合計	17	15	28	20	25	13	18	25	20	20	18	13
総計		153	162	166	187	166	154	165	166	199	165	153	147



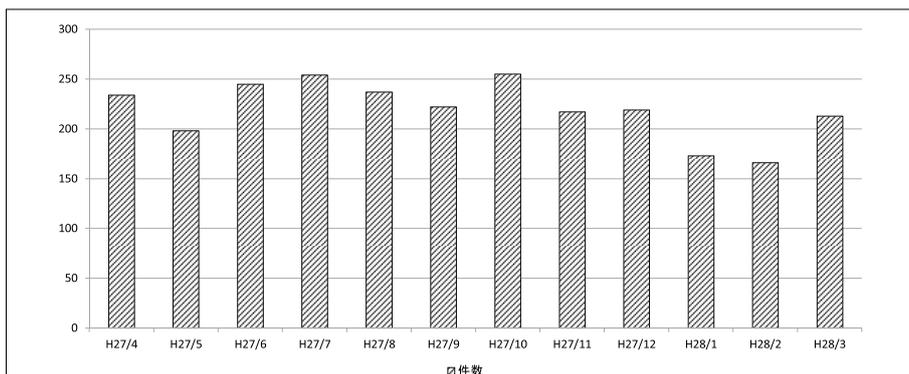
2) 麻酔管理料算定件数

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
件数	77	78	85	92	76	74	94	93	103	89	81	78



3) 内視鏡検査件数

	H27/4	H27/5	H27/6	H27/7	H27/8	H27/9	H27/10	H27/11	H27/12	H28/1	H28/2	H28/3
件数	234	198	245	254	237	222	255	217	219	173	166	213



学生実習受け入れ

■診療部

平成27年度 実習受け入れ実績

診療部では平成27年度、札幌医科大学より計117名の神経内科臨床実習（選択・必修クリニカルクラークシップ）と1名の地域包括型診療参加臨床実習の受け入れを致しました。今後も臨床実習受け入れを継続して行う予定です。

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
医師	札幌医科大学	6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	H27年 4月 8日～ 9日	6名
		6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	H27年 5月13日～14日	6名
		6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	H27年 6月17日～18日	4名
		6年	地域包括型診療参加型臨床実習	H27年 7月13日～8月6日	1名
		6年	神経内科臨床実習（選択クリクラ）	H27年 7月15日～16日	6名
		5年	神経内科臨床実習（必修クリクラ）	H27年 6月 3日	6名
		5年	神経内科臨床実習（必修クリクラ）	H27年 6月24日	6名
		5年	神経内科臨床実習（必修クリクラ）	H27年 7月 8日	6名
		5年	神経内科臨床実習（必修クリクラ）	H27年 8月19日	6名
		5年	神経内科臨床実習（必修クリクラ）	H27年 9月 2日	5名
		5年	神経内科臨床実習（必修クリクラ）	H27年 9月16日	6名
		5年	神経内科臨床実習（必修クリクラ）	H27年10月 7日	6名
		5年	神経内科臨床実習（必修クリクラ）	H27年10月28日	6名
		5年	神経内科臨床実習（必修クリクラ）	H27年11月11日	6名
		5年	神経内科臨床実習（必修クリクラ）	H27年11月25日	6名
		5年	神経内科臨床実習（必修クリクラ）	H27年12月 9日	6名
		5年	神経内科臨床実習（必修クリクラ）	H28年 1月 6日	6名
		5年	神経内科臨床実習（必修クリクラ）	H28年 1月20日	6名
		5年	神経内科臨床実習（必修クリクラ）	H28年 2月 3日	6名
		5年	神経内科臨床実習（必修クリクラ）	H28年 2月17日	6名
5年	神経内科臨床実習（必修クリクラ）	H28年 3月 2日	6名		

■医療技術部

医療技術部における平成27年度の実習受け入れ実績としては、5部署において計8校からの実習生受け入れ依頼に応じ、8職種、50名の学生が当院で実習を行いました。今後も地域の基幹病院として積極的に教育機関からの実習受け入れを行なうとともに、実習内容の質向上に努めます。

【薬剤室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
薬剤師	北海道薬科大学	6年	薬学実務実習	H27年 5月11日～H27年 7月24日	2名
		5年	薬学実務実習	H27年 9月 7日～H27年11月20日	2名
		5年	薬学実務実習	H28年 1月 6日～H28年 3月18日	2名
		1年	早期体験実習	H27年 7月15日	5名

【臨床検査室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
臨床検査技師	札幌医学技術福祉歯科専門学校	3年	臨床実務実習	H27年 5月 7日～H27年 7月10日	2名

【リハビリテーション室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
理学療法士	北海道医療大学	1年	見学実習	H27年 7月27日～H27年 7月29日	2名
		2年	検査・測定実習	H28年 1月18日～H28年 1月29日	2名
		3年	評価実習	H28年 1月25日～H28年 3月 4日	2名
		1年	見学実習	H28年 2月15日～H28年 2月17日	1名
	北海道文教大学	1年	見学実習	H27年 8月31日～H27年 9月 4日	2名
		4年	総合実習	H27年 8月31日～H27年10月 9日	1名
		2年	検査・測定実習	H27年12月 7日～H27年12月18日	2名
		3年	評価実習	H28年 2月 8日～H28年 2月26日	1名
	札幌医学技術福祉歯科専門学校	1年	見学実習	H27年10月26日～H27年11月 2日	2名
		2年	検査・測定実習	H27年11月24日～H27年12月 9日	2名
作業療法士	北海道文教大学	4年	総合臨床実習	H27年 4月 6日～H27年 5月29日	1名
		3年	評価実習	H27年 8月31日～H27年 9月18日	1名
		1年	見学実習	H28年 2月22日～H28年 2月26日	1名
	北海道医療大学	1年	臨床見学実習	H27年 7月27日～H27年 7月30日	4名
言語聴覚士	北海道医療大学	2年	見学実習	H27年 8月17日～H27年 8月18日	2名
	日本福祉教育専門学校	2年	総合実習	H27年10月19日～H27年12月12日	1名

【栄養管理室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
管理栄養士	藤女子大学	3年	臨床栄養学実習	H27年 9月28日～H27年10月 9日	4名
	天使大学	3年	臨床栄養学実習	H27年11月 9日～H27年11月20日	4名

【臨床工学室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
臨床工学技士	北海道科学大学	3年	実務実習	H27年11月30日～H27年12月 7日	2名

■看護部

看護部では3校からの看護臨地実習の受け入れを行いました。臨地実習開始前には半日から1日の実習オリエンテーションを実施し、済生会としての使命やチーム医療について講義をし、早く現場に慣れるよう努めています。基礎看護実習では学生が初めて出会う看護師の姿ですので、看護の楽しさとやりがいを感じていただける様に各部署の実習指導者は指導を頑

張っています。

又、北海道で行っている保健師助産師看護師実習指導講習会を受講したメンバーで構成された看護学生実習指導委員会では、各部署の実習指導者の意見を取り入れ検討する会議や研修、指導を行っており、学生に適切な指導が出来る様取り組んでいます。

平成27年度実習受け入れ実績

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
看護師	北海道科学大学	2年	基礎実習Ⅱ	H27年 7月21日～ 8月13日	74名
		1年	基礎看護学実習Ⅰ	H28年 2月 1日～ 2月 3日	41名
看護師	小樽看護専門学校	3年	母性看護実習	H27年 4月10日～ 9月25日	31名
		3年	看護の統合と実践実習	H27年10月 5日～10月20日	21名
		2年	基礎看護実習	H28年 2月29日～ 3月11日	22名
准看護師	小樽市医師会看護高等専修学校	2年	基礎看護実習	H27年 5月27日～ 6月18日	19名
		2年	成人・老年看護実習	H27年 6月22日～12月11日	39名



看護臨地実習オリエンテーションの様子

■事務部

平成27年度 実習受け入れ実績

事務部では平成27年度1校より1名の診療情報管理に係る学生実習の受け入れを致しました。今後も医

療事務・医療クラーク・診療情報管理等の実習受け入れを継続して行う予定です。

【医事課】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
診療情報管理	北海道情報大学	3年	診療情報管理	H27年8月17日～ 8月28日	1名

Ⅲ 部門報告

診療部

■総括

済生会小樽病院診療部は、2015年24名の常勤医により構成されております。また1ヶ月で100名以上の非常勤医のサポートを受けております。札幌医科大学を中心として派遣をいただいておりますが、当院の診療レベルの向上につながっていることは論を待ちません。これらの多くの医師に加えて、平成27年度からは札幌医大の地域包括型診療参加臨床実習が開始となり、6年生が1ヶ月単位で研鑽を積んでおります。また済生会吹田病院から研修医がこちらも1ヶ月単位で

研修中であります。これら多くの医師のおかげで医局はとてにぎやかとなりました。そして常勤医、非常勤医、研修医のいずれの医師も快適な環境で診療ができることが重要であり、これらが実現するように良好な環境づくりを心がけております。今年も水越医局長ならびに吉田医局秘書を中心に、快適な医局を目指しております。

診療部長 堀田 浩貴



内 科

【スタッフ】

舩谷治郎	副院長	日本消化器内視鏡学会専門医
宮地敏樹	内科部長	
水越常德	診療部長	日本内科学会認定医・指導医、 日本内分泌学会専門医・指導医、 日本甲状腺学会専門医、日本消化 器病学会専門医、日本環境感 染学会ICD、日本人間ドック学 会認定医
明石浩史	内科部長	日本内科学会認定医、日本消化 器病学会専門医、日本がん治療 認定医機構がん治療認定医
田中道寛	内科部長	日本内科学会認定医、日本消化 器内視鏡学会専門医

【当科の特徴】

消化器を中心に、内分泌疾患、血液疾患、免疫疾患、呼吸器疾患まで幅広い分野の総合的な診察、治療を行っています。消化器に関しては常勤の5名の医師に加えて、札幌医科大学第一内科と連携し、同大学のスタッフが月、水に胆・膵チームスタッフ、火曜日に消化管・化学療法チームスタッフが毎週非常勤で勤務しており、最新で高度な医療を提供しています。また週1回の合同カンファレンスにより外科とも密接に連携して診療しています。内分泌に関しては甲状腺を中心に後志地区の他の医療機関から多くの紹介を受け、集約的に診察しています。血液疾患に関しても診断から化学療法まで、免疫疾患に関しても診断から生物学的製剤を含む治療まで行っています。呼吸器疾患もCOPD、喘息の治療を呼吸器リハビリチームと共同で行い、肺炎、特に誤嚥性肺炎に関しては神経内科と連携し再発予防を含めた診療を行っています。

以下の内科関連の学会認定施設となっており、診療の質の確保に加え、医師の教育にも力をいれています。

- ・日本内科学会教育関連施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設

【実績】

1) 外来

内科外来として午前は月曜日から金曜日各2枠、平日午後および土曜日午前1枠の合計16枠で診療を行っています。また土曜日午前に甲状腺専門外来を開設しています。外来患者数は24,060人、紹介率は33.8%、逆紹介率は23.7%です。主病名による上位疾患は、高血圧、糖尿病、胃潰瘍、脂質異常症などで、

消化器疾患に加えて生活習慣病患者が多くいます。また甲状腺専門外来開設により小樽はもとより後志地区の甲状腺疾患の診療拠点となっています。地区の高齢化に伴い癌患者が増加しており、外来化学療法・緩和医療患者も増加傾向にあります。

2) 入院

2015年の入院総数は888人、緊急入院は376人、平均在院日数は23.1日で、入院疾患・入院目的の上位には大腸ポリープ・胃ポリープの粘膜切除・粘膜下切除、糖尿病（教育入院、糖尿病性ケトアシドーシスなど）、肺炎（主に誤嚥性）、イレウス、各種消化器癌（胃癌、膵癌）、虚血性腸炎、大腸憩室出血、脱水症など消化器を中心に多岐にわたります。小樽地区の高齢化を反映し呼吸器系感染症、各種悪性腫瘍、脱水症などの入院が多く、全体の約1/3が緊急入院であり小樽市の救急医療の一端を担っています。

3) 学会発表・講演など

<座長>

- ・水越常德 第33回北海道甲状腺談話会
平成27年7月18日 札幌市かでの2・7

<講演会講師>

- ・水越常德 小樽市医師会健康教室 糖尿病
平成27年5月28日 小樽市桜ヶ丘会館
内分泌疾患の診療（甲状腺）について
- ・水越常德 後志医療連携を考える会 協和発酵キリン
平成27年7月30日 余市町ニッカ会館
甲状腺・副甲状腺の内科的治療
- ・水越常德 日本外科学会北海道地区生涯教育セミナー
平成28年1月9日 北大フラテ会館

<学会発表>

- ・第15回内分泌学会北海道地方会
平成27年11月15日 旭川グランドホテル
術中CGMを装着し血糖変動を評価し得たインスリンノーマの一例
水越常德¹、田中道寛¹、明石浩史¹、宮地敏樹¹、舩谷治郎¹、田山誠²、孫誠一²、長谷川格²、高嶋和磨³、本谷雅代⁴、¹済生会小樽病院内科、²同外科、³同整形外科、⁴札幌医科大学消化器内科
- ・第25回臨床内分泌代謝Update
平成27年11月27日 東京国際フォーラム
グルルギンでの低親和性高結合能抗体を認めた2型糖尿病の1例
水越常德¹、田中道寛¹、明石浩史¹、宮地敏樹¹、舩谷治郎¹、¹済生会小樽病院内科

- ・第5回小樽・後志緩和医療研究会
平成27年8月5日 小樽市立病院
当院でのオピオイドスイッチングの実際、オキファスト、タペンタへのスイッチングを中心に
明石浩史^{1,5}、鈴木景就^{2,5}、石渡明子^{3,5}、木谷友洋^{4,5}、柴田麻里子^{2,4}、藤原大地^{3,5}、長谷川格⁶、¹済生会小樽病院内科、²同薬剤室、³看護部、⁴麻酔科、⁵緩和ケアチーム、⁶同外科
- ・第275回日本内科学会北海道地方会
平成27年12月5日 北海道大学
緊急透析にて救命し得た大腸内視鏡前処置を契機に発症した敗血症、急性腎不全症例
明石浩史¹、水越常德¹、舩谷治郎¹、宮地敏樹¹、田中道寛¹、堀田浩貴²、安達秀樹²、¹済生会小樽病院内科、²同泌尿器科

【平成27年度の取り組み】

- 1) 超音波内視鏡を導入し消化管粘膜下腫瘍、胆膵疾患のより詳細な診断を可能にしました。
- 2) 内科3科（神経内科、循環器内科と当科）共同で札幌医科大学6年生のICT連動型地域実習の受け入れを開始しました。

【今後の目標】

診療自体に関しては、消化器疾患の診療の質の向上を図ります。またがん診療体制の強化によりがん診療連携指定病院の取得を目指します。

また、市民向け講演会の開催により医学や医療の知識の普及による疾患予防や早期の治療介入につなげたいと考えています。

当院は札幌医科大学附属病院の協力型臨床研修病院であり、初期研修医の受け入れや、卒前学生の研修受け入れなどによる医学・医療教育への貢献と、内科系3科共同の総合的な内科教育をさらに発展させていきます。

以上のような取り組みにより地域に信頼される病院・診療科を目指していきます。

内科部長 明石 浩史

【スタッフ】

森 喜弘	循環器内科部長
高田美喜生	循環器内科部長
國分 宣明	非常勤

【当科の特徴】

当科は、虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)、心不全、不整脈、弁膜症、大動脈疾患、先天性心疾患などの心血管疾患全般を専門的に扱うとともに、腎疾患および高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病も対象に幅広い分野の診察・治療を行なっています。

特に腎機能が低下する原因は多様ですが、原疾患が何であろうとも進行した状態においては体液組成を中心とした共通かつ複数の代謝異常が生じます。

しかも、それぞれの代謝異常自体が腎障害の進行因子として作用し、同時に他臓器の障害も進行させることが多くあります。

高齢化にともない、慢性腎臓病に代表される腎臓病は増加しており、当科外来の患者さんの多くも、腎機能障害を有しています。当科は日常診療において1人、1人病態を理解し、対策を講じることに つとめています。

【平成27年度の取り組み】

慢性腎臓病 (CKD) の原因疾患である糖尿病性腎症、高血圧性腎硬化症の治療に特に力を注ぎ、末期腎不全 (ESRD) への進行の抑制と心血管病変の発症の予防を目的として、高齢化社会に対応した実践的なCKD対策に努力しています。

【今後の目標】

慢性腎臓病 (CKD) が注目されるのは、1つは透析療法や腎移植などの腎代替療法を必要とする末期腎不全 (ESRD) 患者の増加です。多くの患者のQOLを低下させるだけでなく、経済的、人的に多大なコストを要しています。

2つ目は、CKDは末期腎不全のリスクのみならず、心血管事故や死亡あるいは入院のリスクファクターとして重要であることが、多くの疫学研究により明らかにされています。

すなわち、CKDはその数の多さと腎臓以外の健康障害の危険因子として人々の健康を脅かす重要な疾患として位置づけられています。

CKDは高血圧・糖尿病などの生活習慣病や加齢など、今後も増え続けることが確実な背景因子と深い関連があります。したがって、増え続けるESRDの発生を抑えるため、そして、心血管事故を予防するために、CKDの早期発見と、原因疾患に対する適切な治療に取り組んで行くことが大切であると考えています。

循環器内科部長 森 喜弘

神経内科

【スタッフ】

松谷 学	副診療部長
津田 玲子	医長
外山祐一郎	医長
松浦 洋介	副医長

【診療科紹介】

現在常勤医師4名及び札幌医科大学からの出張医1名（日本神経学会専門医、週1回外来）で診療を行っております。外来では近隣の病院からのご紹介やご相談を頂く場合が多く、神経内科の初診には時間がかかりますのでお待ち頂く時間の短縮のためにも予めお電話にて予約をして頂くようお願い致します。

【当科の特徴】

神経内科と言うとまだ馴染みのない方も多いと思いますが、この「神経」とは脳や脊髄、末梢神経のことを指します。精神科や心療内科と間違えられやすいのですが、扱う疾患は全く異なります。具体的には、体の動きがゆっくりになって歩き辛くなったり手足がふるえるパーキンソン病やその類縁疾患、脛が下がって物が二重に見えたり疲れやすくて筋力が低下する重症筋無力症、短期記憶や遂行機能が徐々に低下していくアルツハイマー型認知症、手足の麻痺や喋り辛さが急性の経過で出現する脳卒中などが挙げられます。これらの疾患の内科的な治療を行い、必要に応じて脳神経外科や整形外科などとも連携をとりながら診療にあたっています。また、脳卒中や一部の慢性神経疾患の入院患者様において、急性期の治療が落ち着いた後、更に集中的なリハビリが必要と判断した場合、回復期病棟に移って重点的にリハビリを行うこともあります。実際に住んでいる家屋を訪問させて頂き、必要な修正や福祉用具を提案したり、家族の協力のもとでの外出や外泊訓練をして頂いたり、医師、看護師、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカーの医療チームがそれぞれの視点から意見をだし合って患者様に関わり安心して在宅に復帰できるようにサポートさせて頂いて

おります。

外来で行う画像検査の代表としてCT、MRI検査がありそれ以外に診断のために核医学検査が必要な場合には近隣の他医療機関に依頼して予約を取り検査を行っております。また、投薬のみが治療ではなく、パーキンソン症候群の患者様などでは継続したリハビリテーションが効果的な場合があるため、外来リハビリや介護保険のサービスを利用したりリハビリテーションなどを提案させて頂くこともあります。認知症の患者様が受診される場合、本人ではなく同居のご家族や周りの人達が困っている場合も多く、医療ソーシャルワーカーと相談の上で介護保険サービスなど社会資源の利用、環境調整の提案もさせて頂いております。

【今後の目標】

平成24年までは神経内科は2人体制で外来及び入院診療を行っていましたが、現在は4名（＋非常勤医1名）へと増員され、週に一度のカンファレンスも行いながら急性期疾患及び慢性期疾患の診療に邁進しております。協力型研修施設として初期臨床研修医も受け入れている他、札幌医科大学からの神経内科クリニカルクラークシップ選択学生及びICT連動参加型実習（平成27年度1名、平成28年度2名予定）の受け入れも行っており、地域の中核的病院としての役割を体感して頂けるよう学生指導を行っております。

また、近年では整形外科で手根管症候群（手首の真ん中を通る正中神経の圧迫による障害）や肘部管症候群（肘の内側を通る尺骨神経の圧迫による障害）の手術が必要と判断された患者様の術前の評価のために電気生理学的検査（皮膚の上から神経に沿って電気刺激を行い神経の障害の程度や部位を調べる検査）も連携して積極的に行っております。筋電計も新しい機器が導入され今後も検査数が増加することが予想され、一層検査スキルの向上にも努めて参ります。

神経内科医長 津田 玲子

外 科

【スタッフ】

氏名	役職名	専門・認定資格等
長谷川 格	副院長	日本消化器病学会 指導医・専門医 日本外科学会 指導医・専門医・認定医 日本消化器外科学会 認定医 消化器がん外科治療認定医 日本内視鏡外科学会 技術認定医
孫 誠一	外科部長	日本消化器病学会 専門医 日本外科学会 指導医・専門医・認定医 日本消化器外科学会 専門医・消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医・暫定教育医 検診マンモグラフィ読影認定医
田山 誠	外科医長	
茶木 良	非常勤医師	日本消化器病学会 専門医 日本外科学会 専門医・認定医 日本医師会 認定産業医 検診マンモグラフィ読影認定医
島 宏彰	非常勤医師	日本外科学会 指導医・専門医 日本乳癌学会 専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医
前田 豪樹	非常勤医師	日本消化器病学会 専門医 日本外科学会 専門医

【部署の特徴】

当科では消化器疾患、甲状腺疾患の外科治療と、ヘルニア、乳腺疾患、肛門疾患の診断と治療を行っています。また、手術症例を中心に術後補助化学療法、進行・再発症例に対する化学療法、緩和治療も担当しています。

当科では「体にやさしい手術」を追求し、道内でも先駆的となる平成3年より腹腔鏡下胆嚢摘出術を導入し、その後も適応を拡大し、現在では胃十二指腸疾患、大腸疾患、ヘルニアなど様々な腹部疾患に対して腹腔鏡手術を実施しています。また、常勤の日本内視鏡外科学会技術認定医の指導により安全かつ質の高い腹腔鏡手術を提供していると自負しています。特筆すべきは、総胆管結石症に対し一期的治療が行える腹腔鏡下胆管切石術を実施できる道内でも数少ない施設の一つとして知られています。

消化器疾患については内科放射線科とのカンファレンスを通して緊密に連携し診療を行っています。また、消化管穿孔、急性虫垂炎、急性胆嚢炎などの腹部救急疾患についてはスピーディーな対応ができる体制を整備しています。

【実績】

	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度
胃切除術	4 (2)	12 (4)	12 (5)	9 (7)
胃全摘術	5 (1)	4 (1)	3 (0)	1 (0)
胆嚢摘出術	46 (44)	63 (59)	59 (57)	38 (37)
胆管切石術	6 (6)	6 (6)	11 (11)	12 (12)
結腸切除術	19 (10)	28 (13)	22 (18)	27 (17)
直腸切除術	7 (4)	8 (3)	8 (5)	2 (2)
直腸切断術	2 (2)	2 (2)	3 (3)	2 (1)
虫垂切除術	12 (9)	10 (9)	11 (9)	16 (15)
鼠径部ヘルニア手術	30 (22)	23 (13)	43 (18)	25 (8)
腹壁疝ヘルニア手術	4 (0)	7 (2)	5 (0)	3 (0)
甲状腺手術	13	17	13	13
乳腺手術	1	1	4	5
肛門手術	8	7	8	4
外来手術	139	113	137	116

※総手術件数（腹腔鏡手術件数）

【平成27年度の取り組み】

常勤医が減員となり3人体制となりましたが、これまでと同様に安全かつ質の高い外科診療を行えるように努めました。

週1回定期の医師、病棟看護師、リハビリテーションスタッフ、医療ソーシャルワーカー参加による病棟カンファレンスを開始しました。症例の情報を共有し、診療の内容や退院に向けた方向性について討議を行うなど、チーム医療の推進を図りました。

札幌医科大学消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座の協力により、乳腺専門医による乳腺専門外来を開設しました。地域の乳癌検診の推進や当院の診療内容の向上に寄与しています。

【今後の目標】

我々の診療の大きな柱の一つは消化器がん治療です。近年、消化器がん治療は腹腔鏡手術の導入による低侵襲化や集学的治療による予後の改善など飛躍的な進歩を遂げています。当科では早くから胃癌や大腸癌に対して腹腔鏡手術を導入し良好な成績を残してきました。今後も学会研究会等に積極的に発表や参加を行うことにより診療のレベルのさらなる向上を図り、地域の医療連携を推進し、高齢化率の高い小樽後志地区での消化器がん治療のニーズの高まりに答えていきたいと考えています。

外科部長 孫 誠一

整形外科

【スタッフ】

近藤 真章 院長 整形外科専門医 脊椎専門
和田 卓郎 副院長 整形外科専門医、手外科専門医、
上肢専門
三名木泰彦 整形外科部長 整形外科専門医、脊椎・
脊髄病指導医、脊椎専門
目良 伸介 副診療部長 整形外科専門医、下肢専門
織田 崇 整形外科部長 整形外科専門医、手外科
専門医、上肢専門
高嶋 和磨 整形外科医長 後期研修医

【当科の特徴】

手・肘センター、脊椎・腰痛センター、関節外科センターを開設し専門的治療に取り組んでいます。また、札幌医大整形外科と連携し肩関節専門外来、骨粗鬆症専門外来を行っています。地域の皆様に日本トップレベルの診療を提供できるよう努めています。小樽後志地区のみならず、北海道内各地、また道外からも患者さんが受診されています。

当院では地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟を有しており、50人を超えるリハビリスタッフが常勤しています。手術直後から回復期までの一貫性のある充実したリハビリテーションを受けることができます。整形外科医とリハビリスタッフ、看護師、医療ソーシャルワーカーが連携を取り、患者さんの退院に向けた支援を行っています。

【平成27年度の取り組み】

元日本ハムファイターズの稲葉篤紀選手、プロバスケットボール・レガンバ北海道の多嶋朝飛選手、西川貴之選手を招いての市民公開講座、少年野球検診などを積極的に行うことで、スポーツ障害の予防意識啓発に取り組みました。また、済生会健康フェスタではロコモティブシンドロームに関する講演を行い、高齢化の進む小樽で健康寿命を延ばす意識の向上を呼び掛けました。

学会発表、論文執筆を積極的に行うことで、整形外科の学際的レベルの向上、ひいては診療の質向上をめざしました。済生会グループから研究補助をいただき、山形済生会病院と骨粗鬆症に関する共同研究を行いました。

専門医を目指す後期研修医の教育に力をいれました。

【今後の取り組み】

骨粗鬆症に伴う脆弱性骨折の中で最も重篤な大腿骨近位骨折の予防。実際に受傷した患者さんには早期に手術、リハビリを行い日常生活復帰を目指すシステムを地域と連携して構築して行きます。

整形外科専門医を目指す専攻医の研修プログラムを作成し、それに沿った研修を行います。

副院長 和田 卓郎

【スタッフ】

堀田 浩貴 診療部長
安達 秀樹 泌尿器科部長

済生会小樽病院泌尿器科では、2016年3月19日に第26回日本性機能学会東部総会を主催いたしました。全国から約70名の性機能を学ぶ医師が、ここ小樽の地に集い活発な討論を行いました。これまで最も北の地での開催となりましたが、何とか成功裏に終了しました。これも済生会小樽病院職員の皆さんと、多大なるご尽力をいただいた札幌医大泌尿器科学教室の皆さんのおかげであります。

これを記念してという訳ではないのですが、これまで要望の高かった性機能外来を火曜日午後到新設することといたしました。ただでさえ押し寄せる多くの業務がある中で、新しい専門外来を始めることに躊躇いたしました。道内には16名の性機能専門医がいるのですが、そのうち2名が在籍している当科ですので、その特徴を生かして当地の性機能診療の一端を担っていきたいと思っております。

診療部長 堀田 浩貴

放射線科

【スタッフ】

武田 美貴 部長 日本医学放射線学会診断専門医

【部署の特徴】

CT・MRI画像の迅速かつ正確な診断を目指し、日々業務に取り組んでいます。

【平成27年度の取り組み】

昨年同様、画像管理加算2の維持を目標に、読影率8割以上を目指します。

【今後の目標】

新病院に移転してから外来の数がやや減少している様なので、小樽市内の開業医の先生にもっと検査を利用して頂けるようにアピールしていきます。

放射線科部長 武田 美貴

医療技術部

■ 総 括

【医療技術部について】

※平成27年4月1日時点の状況を記載。

◆部門構成

- ・ 医療技術部長
- ・ 医療技術部次長
- ・ 薬剤室
- ・ 臨床検査室
- ・ 放射線室
- ・ リハビリテーション室
- ・ 栄養管理室
- ・ 臨床工学室
- ・ 臨床心理室

◆医療技術部職員数 104名

◆職員構成

医 師 1 名 (医療技術部長、診療部兼任)
薬 剤 師 13 名
臨床検査技師 8 名
診療放射線技師 8 名
理学療法士 33 名
作業療法士 17 名
言語聴覚士 5 名
柔道整復師 1 名
管理栄養士 5 名
臨床工学技士 8 名
臨床心理士 1 名
助 手 4 名

【医療技術部理念】

私たちは、専門職種の壁を越えた協力体制を築き、患者さんが安心できる専門技術を提供します。

当日の風景 (薬剤室)



【平成27年度医療技術部目標】

- 新たな診療支援への取り組み
- 病院増収への創意工夫
- 地域に向けた新たな価値提供
- 病院機能評価受審に向けた業務の見直し

【平成27年度の活動】

平成26年度は部門の第一目標として、病院機能評価の受審に向けた業務の見直しについて年度を通じて進めてきました。各室においては、マニュアルや手順書等を整備していくとともに、コンサルタントからのアドバイスに基づき、様々な業務改善を行いました。結果、受審時には自信を持って臨むことができ、良好な評価を頂くことができました。

部門の第二の目標として、主に自分の進路について考えている高校生を対象とし、未来の人材育成により医療提供以外に地域社会への貢献することを目指してコメディカル職場体験ツアーを企画・実施しました。松尾放射線室長と笹山臨床工学室課長が中心となり企画・準備を進め、「覗いてみよう！医療を支えるプロフェッショナルな世界」の題で学生が夏休みの8月8日に開催しました。参加者は市内の高校を中心に5校から53名

が参加し、参加後のアンケートでも非常に好評を頂き、無事成功を取ることができました。

当日の風景 (朝)



当日の風景 (放射線室)



当日の風景（検査室）



当日の風景（リハビリテーション室）



当日の風景（栄養管理室）



当日の風景（臨床工学室）



その他、新たな医療への参加としては、院内の糖尿病チーム診療に医療技術部各職種が参加し糖尿病チーム外来や糖尿病教育入院の導入に貢献したことや、術前心エコー検査を開始したことに加え、増収面では、リハビリテーションスタッフのタイムスケジュール管理の強化により、取得単位数の向上に繋げる等、種々の施策を実施し、病院の医療の質向上および収入増に貢献しました。

【今後の目標】

平成28年度に関しては、今後のDPC算定に向け、業務の効率化を推進するとともに、より地域に密着した病院づくりに向け、医師を始め多職種と積極的に協力し合いながら、病院理念及び部門理念の推進に努めます。

医療技術部長 宮地 敏樹

薬 剤 室

【スタッフ】

氏 名	役職	認定・専門資格
上野 誠子	室長	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
		日本アンチドーピング機構 スポーツファーマシスト
		介護支援専門員
鈴木 景就	係長	緩和薬物療法認定薬剤師(日本緩和医療薬学会)
		NST専門療法士(日本静脈経腸栄養学会)
		認定実務実習指導薬剤師
		日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
		日本病院薬剤師会 生涯研修認定薬剤師
小野 徹	主任	抗菌化学療法認定薬剤師(日本化学療法学会)
		感染制御認定薬剤師
		認定実務実習指導薬剤師
		日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
笠井 一憲	薬剤師	NST専門療法士(日本静脈経腸栄養学会)
		健康食品管理士
		認定実務実習指導薬剤師
		日本病院薬剤師会認定指導薬剤師
		日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
		日本病院薬剤師会 生涯研修認定薬剤師
		日本アンチドーピング機構 スポーツファーマシスト
		介護支援専門員
柴田麻里子	薬剤師	日本糖尿病療養指導士
一野 勇太	薬剤師	
青木有希子	薬剤師	糖尿病薬物療法准認定薬剤師(日本くすりと糖尿病学会)
		日本糖尿病療養指導士
		日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
中村 圭介	薬剤師	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
		日本アンチドーピング機構 スポーツファーマシスト
芦名 正生	薬剤師	
木谷 梨絵	薬剤師	日本糖尿病療養指導士
寺嶋 望	薬剤師	
又村 健太	薬剤師	
松倉 瑞希	薬剤師	
西野 純子	助手	

【部署の特徴】

当院薬剤室は安全で確実な調剤を基本に薬を通してチーム医療の一員として業務を行う事を目標としています。平成27年度は薬剤師数13名（7月より1名産休）・調剤助手1名のスタッフで、調剤・注射調剤・院内製剤・無菌製剤・薬品管理・麻薬管理・医薬品情報管理（D I）・薬剤管理指導業務（病棟業務）・チーム医療への参画（感染対策チーム、栄養サポートチーム、がん化学療法、緩和ケアチーム、糖尿病チーム）を行いました。平成27年度も薬剤師の病棟常駐体制を維持し、週20時間以上の業務を行っています。医薬品の選定では薬事委員会の事務局を担い、採用品目

数は増減なくほぼ前年並みになっています。取り組みの一つとして後発医薬品導入を推進し採用品目数は30%を超えています。がん化学療法の分野では治療を安全に行うため、新規申請レジメンの承認審査並びに登録、オーダ内容の確認、抗がん剤の混注などによりがん化学療法の安全性の確保に努めています。薬剤室では薬剤師業務を「臨床業務」「教育」「研究」を根幹に据えた業務展開を目指しており、病院内のみならず地域への貢献も図るべく業務を行っています。教育に関しては薬学部長期実務実習の受け入れ体制を整備し、平成27年度は6名受け入れることができました。また、薬学生の病院見学や、高校生の病院薬剤師職場

体験を行うことにより病院薬剤師の社会的役割について周知させることができています。院外処方せんへの関与として、当院の院外処方せんの大部分を応需している門前の保険薬局3軒の管理薬剤師と当院薬剤師との懇談会を月1回継続し、情報伝達・共有の場として

活用しています。研究については、病院薬剤師として日常業務の中で問題点から研究テーマを選定し、学会等で発表することにより、多くの患者さんに貢献できる可能性があります。平成27年度は9演題の発表を行う事ができました。

【実績】

採用薬品数

本採用	958品目
(後発品)	300品目
後発品割合	31.31%

調剤業務件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
処方箋枚数	院外処方箋	6445	5945	6236	6436	5699	5797	6435	5774	6536	5511	6334	6896
	院内処方箋	19	21	27	21	9	20	18	14	15	14	14	8
院外処方箋発行率(%)	99.7	99.6	99.6	99.7	99.8	99.7	99.7	99.7	99.8	99.8	99.7	99.8	99.9
入院処方箋	4224	3781	3838	4200	3827	3558	4116	3839	4264	3872	4194	4280	
注射処方箋	4179	4675	4963	4533	4441	3835	4736	4653	4935	4776	4547	4530	

診療報酬関連

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
薬剤管理 指導料	ハイリスク薬	182	144	182	165	146	126	139	126	141	144	119	115
	その他の薬	137	121	165	147	148	154	168	151	157	159	140	126
	合計	319	265	347	312	294	280	307	277	298	303	259	241
	退院時薬剤情報提供管理料	26	11	17	16	3	29	93	49	49	25	25	24
	麻薬管理加算件数	2	3	1	3	1	1	0	2	3	1	4	1
無菌製剤 処理料	無菌製剤処理料1	15	20	16	25	13	9	16	26	28	24	25	27
	無菌製剤処理料2	187	306	312	162	141	160	140	251	199	306	283	206
抗悪性腫瘍薬処方管理加算	0	0	0	0	0	2	3	0	0	4	2	1	
病棟薬剤業務加算	514	517	557	603	627	573	607	610	679	661	640	632	
特定薬剤使用管理料(TDM)	1	2	3	4	0	2	1	0	2	0	1	1	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
病棟薬剤業務実施時間	551.2	506.2	643.5	620.4	599	527.7	583.8	519.3	578.9	486	544.3	606.2
持参薬処理件数	327	339	378	399	344	327	364	403	423	401	327	389

【平成27年度の取り組み】

通常業務のほか、新たな取り組みとして緊急・臨時注射薬の調剤の開始、病棟配置薬の管理の充実、後発医薬品への変更促進を行いました。注射薬調剤は緊急処方には対応していませんでしたが、薬剤師の関与により配合変化の確認、投与経路の確認等を行う事ができます。これにより医療安全面、廃棄薬剤の減少により経営面に貢献できていると思います。病棟配置薬の管理として、病棟配置薬マニュアルを整備し、病棟配置薬を安全に使用できる体制を整えています。後発医薬品の採用に関して、後発医薬品使用体制加算算定の方針の下、変更品目の絞り込みと具体的な導入品目の選定、採用医薬品見直しを行い、削除品目の選定等、薬事委員会へ提案しました。向精神薬の管理体制も強化し実施しています。

【今後の目標】

平成28年度の取り組みとして薬剤師外来（持参薬、がん化学療法）の開設、周術期薬剤師業務の充実、化学療法レジメン管理方法の見直しを中心としています。また、薬剤師による専門性を高めることを目標に平成27年度は抗菌化学療法認定薬剤師、糖尿病薬物療法准認定薬剤師、糖尿病療養指導士を取得しました。チーム医療の一員として質の高い業務を行うため、専門薬剤師の養成などの人材育成も進めていきたいと考えています。またDPC制度参加に向け、採用薬の後発品への切り替えを促進していきます。

技術係長 鈴木 景就

薬剤師になって

医療技術部 薬剤室 又村 健太

薬剤師になり、済生会小樽病院に勤めて3年目になります。

まだまだ知識・経験不足を痛感している毎日です。

国家試験合格発表の次の日から当院に勤め、約5カ月の実務実習と6年間の大学生活で学んだことを存分に発揮し…と意気込んでいましたが臨床現場では様々な应用能力が必要とされ、先輩薬剤師に教えて頂くことばかりです。

薬剤師免許が届いてから内服・外用調剤、注射調剤を経て、1年目の秋頃から4A病棟の専従薬剤師として病棟に上がるようになりました。他病院に勤めている友人に聞くと1年目から病棟の専従薬剤師として働いている人は少ないと聞きます。私は早い段階から病棟業務に携わる事ができ、看護師や医師など多職種とのかかわりと責任感が増え、大変いい経験になっていると感じています。

4A病棟は神経内科・内科病棟で最近では化学療法を行う患者も増えてきており、現在は病棟薬剤師業務と並行して化学療法の調剤に関わらせて頂き、レジメンや抗がん剤投与に伴う副作用対策などについて勉強する機会が増えています。

しかしながら、日々の経験値は得られていると感じられるものの想像していたほどの成長はしていないと感じています。

今年で3年目。まだまだ先輩薬剤師、医師、看護師や他の職種の方々に教えて頂く日々を過ごしていますが、今後は専従病棟の診療科に関わらず、薬剤師としてより多くの薬剤の知識を蓄え、応用し、患者さんのより良い治療の為に自己研鑽に励んでいこうと思いません。

ニセコにて友人とラフティング（最前列左が筆者）



臨床検査室

【概要】

- * 検体検査室
生化学検査、血液学的検査、一般検査、細菌学的検査、免疫学的検査
外注検査（細菌・病理・細胞診など）、輸血検査及び輸血製剤管理
細菌検査室、洗浄室
- * 生理検査室
受付、心電図検査室1・2、負荷心電図室兼超音波検査室（頸動脈、UCG）、呼吸機能検査室、聴力検査室、眼底カメラ室、脳波検査室、筋電図室（医師・技師）、中待合
- * 採血業務 健診・ちょこっと健診採血、外来処置室採血業務支援
- * 病棟予約採血管作成支援
- * 糖尿病治療検査支援
- * 感染対策関連業務支援
- * NST関連業務支援

【スタッフ】

室長 坂上 延雄
技術課長 辻田 早苗
技術主任 逢坂裕美子、木谷 洋介
技師 末藤智枝子、一條 周一、高橋 賢規、中山紗矢香、三富 智博
助手 森 尚美

【認定資格】

総合監理検査技師制度認定管理検査技師 1名
診療情報管理士 1名
認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師 1名
NST専門療法士 2名
超音波検査士（循環器）1名

【業務内容】

- * 検体検査では、患者さんから採取された血液・尿等種々の検体を測定し迅速な結果報告を目指しています。細菌検査室では、グラム染色、抗酸菌染色、真

【実績】

検体検査

生化学	免疫	血液	検尿	血糖・HbA1c	止血機能	血型	交差試験	輸血人数	CGM
38764	9552	33542	25606	33332	4128	2154	1153	563	40

菌鏡検や感染症関連の迅速検査をしています。外注検査項目では、検査室で対応していない特殊検査検体検査や、細菌検査、病理・細胞診検査の受付・処理・検査結果の問合せに対応しています。

- * 生理検査では、患者さん自身の主に体表から検査させてもらい、得られた情報を報告しています。
- * 夜間・及び休祭日の緊急検査に呼び出し対応しています。
- * 輸血療法委員会を開催して、適切な輸血製剤管理を支援しています。
- * 採血業務では、外来処置室に技師を午前中1名配置して、健診者の採血や外来患者さんの採血を行っている他、ちょこっと健診を希望された患者さんに対しては、午前中に限らずに随時、採血を担当しています。
- * ちょこっと健診を受けられた患者さんの検査値に関する電話の問い合わせに対応しています。
- * 病棟と透析室の予約採血管を作成して看護師業務を支援しています。
- * 外来糖尿病患者さんの治療関連検査で、CGM・SMBG等の検査値の管理を受け持ち糖尿病療法指導士（看護部）の支援を行っています。
- * 感染対策関連業務 感染対策チームの一員として、検査値の管理、院内ラウンド、感染対策委員会に参加しています。
- * NST関連業務 NSTの一員として、検査値の管理、NST回診、NST委員会への参加や実地教練講師などを受け持っています。
- * 他にクリニカルパス委員会、褥瘡委員会、安全対策委員会、患者サービス検討委員会等に参加しチーム医療に携わっています。

【臨床検査室の特徴】

検体検査や生理検査等の検査が主業務となりますが、上記の様な様々な支援業務を行い、医療技術部の枠を超えて、診療部、看護部、事務部などの連携がスムーズに流れる様に技術支援を行っている部門と考えています。

生理検査

心電図	ホルター心電図	肺機能検査	眼底検査	聴力検査	トレッドミル
7161	173	1038	146	2631	7
ABI	頸動脈エコー	NCV (技師)	脳波	睡眠検査	心エコー
333	124	14	86	21	368

【平成27年度の主な取り組み】

- * 迅速な検体検査報告の取り組みを維持・強化すると共に、パニック値を設定して報告フローを作成し医師へ迅速な異常値報告が出来る様にしました。
- * 病院機能評価取得の為に、各手順書・マニュアルの整備・見直しを強化しました。
特に、輸血関連業務は、関係各所と連携して打合せを重ねました。
- * 輸血製剤の出庫は複数個の依頼があっても、1製剤毎とし、副作用報告の強化にも取り組んでいます。製剤廃棄率を下げる事が今後の課題です。現在、輸血製剤の在庫管理に役立てる様に取り組んでいる事は、Hb8.0未満のデータに対して、緊急報告書をFAXしてお知らせすると共に、製剤使用期限が5日をきるものに対して在庫情報も各外来・病棟・透析室にFAXしていましたが、H27年度からは結果使用して頂いた製剤の情報も付け加えてコール&レスポンスに取り組みました。医師からは好評価を受けています。
- * 安全対策面では、トレッドミル検査の運用・安全面整備に対して機能評価予備審査から本審査まで一貫して最高評価を頂いています。
- * 糖尿病療法関連検査支援としてCGM/SMBG検査データ管理に対応出来る技師を3名に育成しました。
- * 術前心機能スクリーニングとして検査室専用の超音波検査機を配置して、心エコー検査に取り組み、対応技師の育成に努めました。循環器医師の緊急対応時には、代わりに心エコー精査も行い、診療業務を支援しています。
- * 整形外科医より、将来的には検査技師にも協力をお願いしたいとの要望があり、野球検診時の超音波検査を見学研修し始めています。

【今後の目標】

- * 平成28年度はFMSに於ける検査機器の見直しをし、より良い検査報告と迅速な報告が出来る様努めていきます。
- * 昨年同様に、診療部・看護部など病院全体から、検査に関して必要とされる様々な事柄に丁寧に対応していきます。医療技術部の横の繋がりをより密にして、患者さん病院運営に更に貢献できる様に活動していきます。
- * 若手技師への潤滑な業務の移行、教育支援を強化していきます。
- * 健診検査項目の特に生理検査関連（眼底カメラ件数増加、心エコースクリーニング新規採用）に対応出来る様に努めます。

技術課長 辻田 早苗



永年勤続35年表彰を受けました
左から、坂上、末藤、一條

放射線室

【概要】

前年度に2名の退職者が出たため、4月より新卒者を2名補充し、8名の診療放射線技師と助手1名の総勢9名にて日々の検査業務に従事しております。

業務は技師8名により各モダリティー部門を1週間交代のローテーションとし、お昼の休み時間は交代制で対応し、時間外及び日曜祝日はPHSの呼び出しにて、まさにシームレスに24時間態勢で日夜業務にあたっています。

また我々放射線技師は患者さんの放射線被曝を管理しながら撮影し、診断に必要な良質な画像を提供しつつ装置の整備・管理も行い、常に患者さんにやさしい撮影を心がけております。

【スタッフ】

放射線室長 松尾 覚志
 技術係長 釜石 明
 技術主任 舟見 基
 技 師 久保田裕美、丹羽 詩織、但木 勇太、
 内藤 格、小林 洸貴
 助 手 伊藤 千春

【設備機器】

・一般撮影装置 (FPD 2台、CR 1台)
 ・ポータブル撮影装置 (2台)
 ・乳房撮影装置 (1台)
 ・外科用イメージ (2台)
 ・骨密度測定 (DEXA 1台)
 ・X線TV装置 (2台)
 ・CT (64列1台)
 ・MRI (1.5T 1台)
 ・超音波装置 (1台)
 ・放射線情報システム (1式)

【平成27年度検査実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般撮影検査	2,082	1,926	2,094	2,099	1,972	1,884	2,101	2,221	2,022	1,724	1,960	1,965
ポータブル撮影	161	165	208	180	203	164	205	183	163	189	189	193
透視・造影検査	32	51	64	88	67	81	62	64	49	39	61	56
嚥下造影	14	9	12	12	6	10	13	9	11	6	9	8
乳房撮影	10	13	19	20	12	14	26	29	24	17	24	9
骨塩定量検査	73	65	86	64	73	55	74	74	85	54	61	73
MRI検査	257	242	302	312	265	247	259	231	264	228	264	277
CT検査	443	422	440	482	449	381	443	453	440	405	372	449
オベ室X線透視	57	57	57	62	62	60	76	69	75	67	63	67
超音波検査(腹部・頸部)	52	91	88	129	73	67	69	69	60	57	51	64

【平成27年度の取り組み】

- ・腹部及び甲状腺超音波検査の業務拡大を行いました。検査件数が前年比50%アップとなりました。
- ・手術室における外科用イメージの2台体制が定着しました。
- ・病院機能評価に向けた取り組みの一環として、各業務マニュアルの作成および、見直しを行いました。
- ・毎週水曜日に行われる内科外科合同カンファレンスへの参加とお手伝いを開始しました。
- ・知識やスキルアップを目的に学会、研修会、勉強会、講演会、各種セミナーへ積極的に参加をしました。

【今後の目標】

放射線技師の業務内容は年々拡大しています。当放射線室は概要でも触れましたが、マンモグラフィーや超音波検査のような特殊なモダリティーを除き、1つの持ち場を技師8名でのローテーションとしているため、広くかつ最新の知識が要求されます。しかし、これからはある程度専門性をもたせたより高いレベルでのローテーションも必要になってくると考えられることから、さらなるスキルアップが望まれます。また、それに伴い患者さんとのコミュニケーション能力や、他職種との連携能力も高めていかなければならないと考えています。放射線室での検査は我々放射線技師だけではなく、医師や看護師など様々な職種が関わりあ

い成り立っています。日本放射線技師会でもチーム医療推進協議会において、チーム医療を通じた診療放射線技師としての役割やその思いが議論されています。

医療技術部理念である『私たちは、専門職種の壁を越えた協力体制を築き、患者さんが安心できる専門技

術を提供します。』を遂行させるためにも、今後はチーム医療を通じた放射線技師としてのスキル向上を目指していきたいと考えております。

技術係長 釜石 明

社会人1年目を振り返って

医療技術部 放射線室 内藤 格

小樽という街は、札幌出身の私にとって不思議な縁がある街です。反抗期真っ只中だった中学生の頃、両親と些細なことで喧嘩をして家出を決意し、なぜか当時大切にしていたギターと釣り竿を背負い自転車で向かったのが小樽でした。中学生だった私はどういうわけか、小樽にいけば生きられると思いこんでいたようです。そんな私が大人になって、当院に入職してから1年が経ちました。入職当初は26歳にして初めての1人暮らし、アルバイト以外では初めての就職という状況で、新鮮さを感じながらも肩の力がなかなか抜けないままでのスタートでした。現在はというと、料理や洗濯など1年前はろくにやったこともなかった家事ができるようになり、仕事も技術的にはまだまだ稚拙ながら適度な緊張感を保ちつつ落ち着いて患者さんと向き合うことができるようになった気がします。

また、病棟スタッフの方にお誘いをいただき、週末に小学校の体育館を借りて地域の方々とバドミントン

をできるようになりました。これからは小樽市総合体育館で年に数回行われる大会などにも積極的に参加していきたいと思っています。小樽には大学生の頃からよく釣りをしに来ていましたが、サバやマメイカなどの魚介類以外に友人と呼べる存在がいなかったのも、新たな人との繋がりができて嬉しく思います。

医療の仕事を始めて気がついたことが1つあります。それは、医療スタッフは皆“何者か”であるべきだということです。整形外科の先生が「私の専門は脊椎です。」というように、放射線室の先輩方も基本的な業務がこなせる以外に何らかの得意分野のようなものを持って医療に従事していることがわかりました。それに対し、私はまだ基本の業務すらままならない新米の診療放射線技師です。そう考えると私はまだ何者でもなく、患者さんの目にも得体の知れない職員に映るのかもしれないと思いました。今よりも1つでも多くの知識や技術を身につけて得意分野を磨き、患者さんや周りのスタッフに頼られる存在になりたいと思う次第です。尊敬できる先輩方、そして競い合える同期がいて、日々恵まれているなど感じます。この職場に就職できてよかったと心から思います。



小樽南防波堤にて、根魚のクロソイ

リハビリテーション室

【概要】

リハビリテーション室 算定疾患別リハビリテーション料

- ・脳血管疾患等リハビリテーション料 I
- ・運動器リハビリテーション料 I
- ・心大血管疾患リハビリテーション料 I
- ・呼吸器リハビリテーション料 I
- ・がん患者リハビリテーション料

【スタッフ】

室長：野村 信平
 係長：西谷 淳、三崎 一彦、須藤 榮、
 髭内 紀幸
 主任：山中 佑香、松村 真満
 理学療法士：33名 作業療法士：17名
 言語聴覚士：5名 柔道整復師：1名
 助手：1名

【業務内容】

地域の中核的医療機関として地域に密着し、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が各々の専門性を生かして協働し、患者さんを中心としたリハビリテーション

を提供することで、患者さんの生活・社会復帰を支援しております。

対象としては運動器疾患、脳血管疾患、神経難病、内部障害（呼吸器疾患、循環器疾患、癌、糖尿病など）、平成27年度よりがん患者リハビリテーションが開始され多種多様な患者さんへ病気に問わず介入しております。

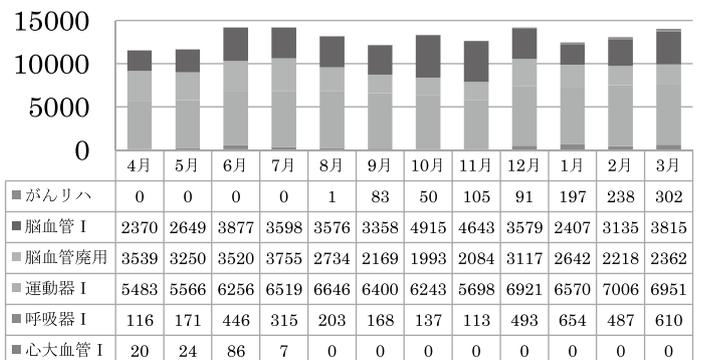
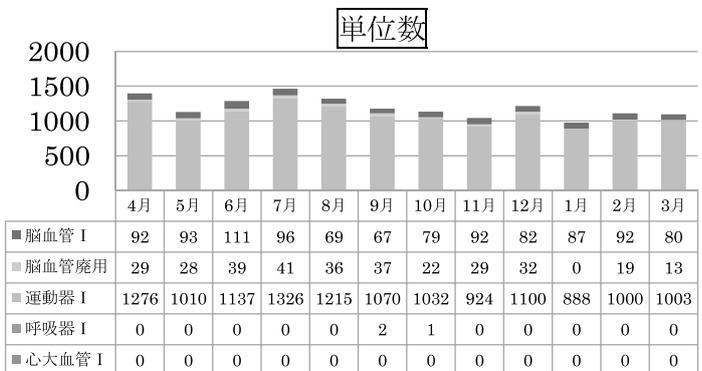
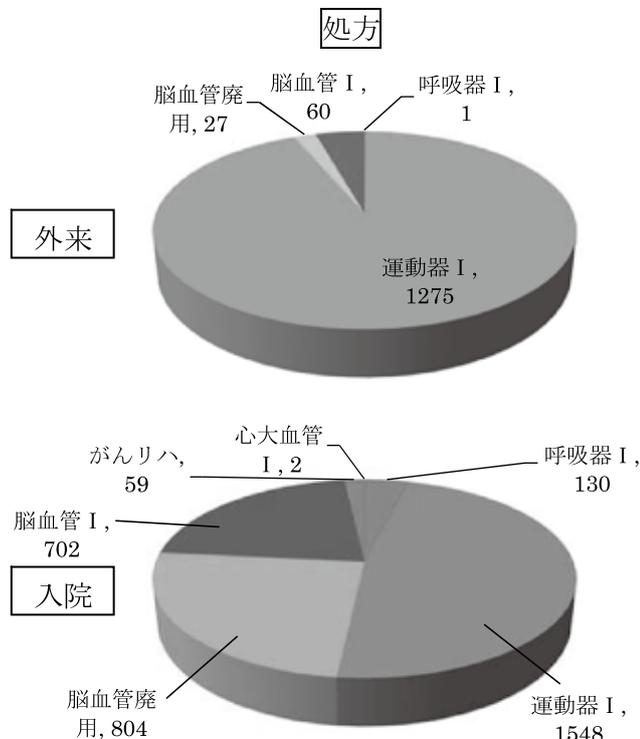
【リハビリテーション室の特徴】

急性期より早期に介入し、多職種と協働しながら早期離床を促しており、院内でシームレスに地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟へと連携を図り、リハビリテーションを提供しております。

回復期リハビリテーション病棟では365日チーム一丸となって協働しながら患者さんへリハビリテーションを提供し、在宅での生活を意識していきいきとした生活を送れる事が出来るよう支援しております。

また各種専門外来（スポーツ、栄養サポート）、センター（手・肘、関節外科、脊椎・腰痛、内分泌・糖尿病診療）、チーム（緩和ケア、呼吸・摂食）へ積極的に協力し、より高い専門技術の提供へも努力しております。

【実績】



【平成27年度の取り組み】

平成27年度は効率的なリハビリテーションの実践を目標に、リハビリテーション室内のスタッフ間業務量格差の是正、質・量ともに安定した患者さんへのリハビリテーション提供などを目指して取り組み、一定の成果をあげることができました。

さらに、各職種の専門性を高めつつ、済生会小樽病院の地域包括ケアシステム構築へ貢献してまいりました。

また、地域への貢献として中高生のコメディカル体験ツアーや野球検診、スポーツセミナー、済生健康フェスタ等へ積極的に企画・協力をし、学術活動と致しなくても全国学会、道内学会と多くの学術大会で報告を致しました。

【今後の目標】

平成28年度は、更なる効率的なリハビリテーションの実践を目標に、より一層安定した患者さんへのリハビリテーション提供の達成を目指してまいります。

また、平成28年度よりリハビリテーション科医師が非常勤で勤務されることとなります。回復期リハビリテーション病棟を中心に協働して質の向上を図り、地域から期待されるようなアウトカムを達成していき

がん終末期患者へのリハビリ

医療技術部 リハビリテーション室 米田健太郎

“リハビリ”というと骨折した人や脳梗塞によって麻痺がある人などを“良くする・治す”というイメージを持った人が沢山いると思います。私もこの職場・環境で働くまではそうでした。そんな中、私は一年目のときにがんの患者さんを担当しました。その患者さんは膵臓がんの終末期で、コミュニケーションをとる事もできず、寝たきりの方でした。この人に何をすればよいのだろうか？リハビリをする意味はあるのか？と疑問に思いながらも先輩に怒られないようにと指示されたとおりに関節可動域訓練をしていました。その患者さんは亡くなってしまいましたが、数日後に家族の方から「米田先生が一生懸命手足を動かしてくれたから綺麗に伸びたまま最期を迎えることが出来ました。ありがとうございました」と言っただけで、リハビリというのは患者を“良くする・治す”ことだけではないと学びました。患者さんが最期をどのような姿で、どのような気持ちで迎えるのかを考えることもセラピストとして重要です。近年がんのリハビリテーションが注目され、このときに学んだことを生かす機会が増えてきています。いつまでもこの時の気持ちを

たいと考えています。そして、積極的に広報活動するとともに、引き続き顧客の視点の調査も進めて患者満足度を高め、地域住民から選ばれるリハビリテーション室を目指します。

【理学療法 PR】

可能な限り早急に住み慣れた処へ戻れるよう、早期より関わり、質の高い技術を提供出来るよう努めています。また地域の施設、学校からの依頼に対して若いエネルギーで積極的に取り組んでいます。

【作業療法 PR】

退院後も住み慣れた小樽、後志で安心して暮らせるよう、病院内のみならず、地域で働く他職種のの人たちと連携できるように積極的に院外の勉強会、事例検討会に参加しています。

【言語聴覚療法 PR】

円滑なコミュニケーションスキルや、口から食べる幸せを少しでも長く続けられる手段の獲得を目指し、住み慣れた地域での暮らしを支援します。

技術係長 髭内 紀幸

忘れずにリハビリに励んでいきたいです。

当院では平成27年度9月より「がん患者リハビリテーション料」の算定を開始し、理学療法士3名、作業療法士2名、言語聴覚士2名が講習会を受講しました。がん患者へのリハビリは、他職種との情報共有が非常に重要となります。たくさんの人とどうすれば最期の瞬間を良いものにできるかを考えていけることを楽しみにしています。



リハビリテーション室の仲間と（後列中央が筆者）

栄養管理室

【スタッフ】

(1) 職員構成

・栄養管理業務

技術係長：多田 梨保

管理栄養士：4名（1名8月から育休より復帰
1名10月産休代理退職）

・給食管理業務

日清医療食品株式会社 計19名

管理栄養士 3名 栄養士 2名

調理師 2名 調理員 12名

(2) 認定・専門資格の現状（同一管理栄養士の重複資格取得あり）

・NST専門療法士 3名

・糖尿病療養指導士 4名

・病態栄養認定管理栄養士 1名

・栄養経営士 1名

・人間ドック健診情報管理指導士 5名

・栄養教諭普通免許 1名

【部署の特徴】

栄養管理業務と給食管理業務は、二分して行っています。入院早期に栄養計画書を立案し、患者個別に必要な栄養量を算出、病態を把握し適切な食事が提供されるよう働きかけています。提供された食事が、きちんと摂取されるよう個別に嗜好調査を行い患者が食べられるような工夫を行っています。栄養管理・給食管理のどちらの知識も持ち合わせていなければ、患者の栄養管理は行えないため給食提供における運営方法、臨床栄養学に基づいた献立作成についてまとめた給食管理業務マニュアルを作成しています。給食委託業者の栄養士にも、当院で行っている勉強会にできる限り参加してもらっています。チーム医療にも積極的に参画し、NSTをはじめ、緩和ケア、回復期病棟、糖尿病領域において、管理栄養士の立場で臨床栄養管理を行っています。外来患者に継続的に様々な栄養指導を行い、疾病の改善・予防に努めています。その他に地域住民への、健康改善を伝えるため出前健康教室を積極的に実施しています。

【実績】

(1) 栄養指導実施件数

入院 個人指導	186件
外来 個人指導	368件
糖尿病透析予防指導	100件
糖尿病集団指導	76件
健康教室	21件
特定保健指導	動機付け支援 14件
	積極的支援 78件
合計	843件

(2) 給食延数

常食	85,394食
流動軟菜食	33,083食
ハーフ食	9,020食
嚥下食	6,892食
特別食	加算有 39,052食
	加算無 7,686食
経管濃厚流動食	3,251食
外来透析	2,464食
患者合計	186,842食
職員食	2,312食
総合計	189,154食

(3) お楽しみ食提供回数

行事食	20回
日本全国味めぐり給食	12回
あんかけ薬膳焼きそば	6回
石原裕次郎御膳	14回
伊藤整御膳	1回

(4) 嗜好調査

・対象食種：入院患者で、塩分制限食を対象とする。

嗜好調査（前期）

	入院患者
目的	食事の質の向上と家庭料理に近い食事の提供に向けて、患者さんの嗜好や満足度を調査する。
実施回数	1回
実施日	5月26日～5月29日

対象食種：入院患者全食種（但し、経管濃厚流動食・嚥下食・きざみ食・ミキサー食・流動食を喫食している患者さんは除く）

外来透析

嗜好調査（後期）

	入院患者	外来透析患者
目的	食事の質の向上と家庭料理に近い食事の提供に向けて、患者さんの嗜好や満足度を調査する。	治療食という制限のある中で、食事の質の向上に向け、患者さんの嗜好や満足度を調査する。
実施回数	1回	1回
実施日	9月29日～10月2日	9月29日～10月3日

(5) 実習受け入れ

学校名	学年	期間	人数	実習目的
藤女子大学	3年	9月28日～10月 9日	4名	臨床栄養学実II
天使大学	3年	11月 9日～11月20日	4名	臨床栄養学実習III

【平成27年度の取り組み】

- ・地域住民の栄養改善を目的に栄養士が勤務していないクリニックの医院と連携し、地域連携栄養指導のシステムを構築し、指導を開始しました。
- ・管理栄養士の知識向上と栄養管理の強化を目的に栄養管理室内の、栄養カンファレンスを開始しました。
- ・小樽市民の高血圧症予防・改善への働きかけとして行っている減塩食（小樽ゆかりの著名人に関連した食事）の第2弾として、石原裕次郎御膳に続く、伊藤整御膳を提供しました。
- ・行事食・日本全国味めぐり給食、あんかけ葉膳焼きそばなど、お楽しみ食の継続的な提供を実施しました。
- ・嗜好調査を年1回から年2回に増やし、患者さんのご意見を取り入れ、提供される食事の健全化と患者満足度の向上を図りました。

糖尿病療養指導士になって

医療技術部 栄養管理室 松村亜貴子

管理栄養士になって3年の平成27年5月に糖尿病療養指導士の資格を取得しました。この資格は、糖尿病とその療養指導全般に関する正しい知識を持ち、試験に合格した人に与えられる資格で、当院には10名の糖尿病療養指導士がいます。

祖父が糖尿病だったこともあり、糖尿病は小さい頃から身近な病気でした。祖父は祖母に怒られながらも一生懸命食事療法に取り組んでいました。しかし、私が大学に入学して2か月後に亡くなりました。栄養指導をしていると祖父母のような夫婦を見かけ懐かしくなることもあります。糖尿病の治療は患者さんのやる気や自己管理能力が治療に大きく左右します。患者さんへの指導の中でどうしたら良いか悩むことも多いですが、頑張っている患者さんの姿を見るとやりがいを感じます。糖尿病療養指導士2年目、まだまだ勉強中で、患者さんから学ぶこともたくさんあります。祖父にしてあげられなかったこと、縁あって出会った患者さんにしてあげたいと思います。



(6) 地域住民への健康教育の取り組み

出前健康教室	2回
健康セミナー	3回

- ・全国病院レシピコンテスト「生活習慣病部門」へ応募し、銀賞を受賞しました。

【今後の目標】

- ・入院・外来患者の栄養指導の充実を図ります。
- ・他病院の指導状況を比較できるベンチマークを利用して、栄養指導件数の増加を図ります。
- ・特定保健指導業務の拡大・充実を図ります。
- ・小樽にゆかりの著名人「減塩食シリーズ」の第3弾を考案、提供します。
- ・安全で安心して食べられる給食提供と共に、厨房内業務の効率化を図ります。

栄養管理室 権城 泉

病院レシピコンテスト 高血圧症予防メニューで銀賞受賞

技術係長 多田 梨保

病院などに勤務する管理栄養士・栄養士を対象に、地域健康社会研究所主催第1回全国病院レシピコンテストが開催され、当院より応募したレシピが見事銀賞を受賞しました。

コンテストは、スイーツ・生活習慣病・乳和食（牛乳を使用した減塩食）3部門。当院の権城泉管理栄養士と給食委託会社日清医療食品の櫻井亜紀管理栄養士が考案したオリジナルメニューを、生活習慣病部門に応募しました。高血圧症の予防・改善を目的としたメニューで、鶏肉の梅ジュレ添え、3種キノコと根菜のペペロンチーノ、いんげんの柚子胡椒マヨ和えを考案。彩りや食感にもこだわり、また、梅・にんにく・柚子胡椒など味にインパクトのある食材を使用することで、薄味でも美味しく食べられるように工夫しました。次回はグランプリを取ります！



臨床工学室

【スタッフ】

技術課長 笹山 貴司
 技術主任 佐々木和也
 技術主任 横道 宏幸
 臨床工学技士 奥嶋 一允 吉田 昌也 今野 義大
 中村 友洋 及川 尚也 山崎 悠貴
 3学会認定呼吸療法認定士：2名

【業務内容】

臨床工学室は医師や看護師、その他コメディカルとともにチーム医療の一員として、生命維持管理装置と呼ばれる人工呼吸器や血液浄化装置を始めとした医療機器操作から保守点検までを行う重要な役割を担っております。また、高度化・複雑化する医療機器に対応できるように、最新の知識と技術を習得し、安全で安心な医療の提供に努めております。

【当部署の特徴】

当院の臨床工学技士は、血液浄化業務・医療機器管理業務・手術センター業務と幅広い分野で他の医療職と協働して業務を遂行しており、急なトラブルにも迅速に対応できるように、24時間・365日のオンコール体制を整えております。また、適切で安全な医療機器の操作方法を啓蒙するため、新人看護師を初めとする幅広い職員に対する研修や、当院独自の医療機器操作マニュアルの作成を行っております。

1. 血液浄化業務

透析センターでは、看護師とチーム制で慢性腎不全患者さんに血液浄化療法を提供しており、人工腎臓用装置の保守管理や水質管理、リスクマネジメント業務も担っております。また、体外循環によって血液を体外へ導き、病気の原因となる物質を分離除去する治療法（アフェレシス療法：血漿交換や吸着療法等）にも対応しております。その他、肝硬変やがんなどによって貯まった腹水（又は胸水）を濾過・濃縮して、アルブミンなどの有用なタンパク成分を回収して安全に体内に戻す治療法（KM-CART）も施行しております。

2. 医療機器管理業務

院内の高度医療機器を一括管理し、年間点検計画に基づいた定期点検や終業点検を実施しております。また、停電時に備えてバッテリーの定期交換や、院内で人工呼吸器が使用されている場合には、日常的なラウンドによる機器の点検や呼吸回路交換のサポート等も行っております。

3. 手術センター業務

麻酔器や内視鏡装置等の手術用機器の始業点検や準備を施行する他、内視鏡関連装置の操作や人工関節置換手術時の機器操作・管理も行っております。また、新たに看護師と協働して清潔野に於ける直接介助業務を始めるなど、ますます活躍の場が広がっております。

【過去3年の実績】

1. 血液浄化業務

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
血液透析・血液濾過透析	8960件	8626件	8629件
持続的血液濾過透析	11件	6件	26件
単純血漿交換療法	0件	20件	12件
エンドトキシン吸着療法	2件	2件	6件
腹水濾過濃縮再静注法	46件	48件	75件

2. 医療機器管理業務

(1) 終業点検件数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
シリンジポンプ	229件	244件	241件
輸液ポンプ	400件	495件	744件
人工呼吸器	22件	9件	27件
除細動器	2件	1件	0件
フットポンプ	439件	510件	432件
低圧持続吸引器	24件	6件	16件
エアマット	145件	170件	139件
その他	48件	117件	73件

(2) 医療機器修理件数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
シリンジポンプ	23件	3件	7件
輸液ポンプ	21件	9件	13件
人工呼吸器	2件	3件	3件
除細動器	1件	3件	0件
フットポンプ	14件	5件	3件
低圧持続吸引器	0件	0件	0件
生体情報モニター	8件	8件	10件
透析関連機器	27件	22件	72件
手術関連機器	29件	40件	15件
エアマット	6件	9件	1件
その他	1件	1件	1件

3. 手術センター業務

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外科腹腔鏡操作	136件	119件	111件
整形関節鏡操作	82件	143件	103件
泌尿器膀胱鏡操作	194件	175件	187件
清潔野に於ける直接介助業務	0件	0件	322件

【平成27年度の取り組み】

医療機器のメンテナンス研修や学会参加を通じて得た知識を活かし、医療機器の安全使用に向けた院内研修会の開催や安全情報の周知に努めてまいりました。特に習熟した知識が必要とされる人工呼吸器の安全使用への対応として、年5回の「呼吸器マイスター研修」を行い、マイスターの称号を得た4名の看護師さんには、各病棟で安全使用に向けて尽力していただいております。また、医療機器を安全かつ安心して使用していただく為に、院内スタッフ向け広報紙を定期的に発行しております。透析室に於いても、習得したメンテナンス技術を活かして、定期部品交換や定期点検・早期修理を行い、トラブルを未然に防いでおります。



【今後の目標】

病院移転後3年が経過し、移転当時に新規購入した医療機器はメンテナンスが必要な時期に差し掛かります。透析装置及び水質管理関連装置や病棟で継続使用されている生体情報モニターを始めとした医療機器の安全性確保・維持に向けて、管理体制を更に強化しながら保守・点検・管理を適切かつ効果的に行い、機器トラブルの未然防止に努めます。

また、アフレス業務の拡大や手術センター業務の充実を図りながら、チーム医療の一員として地域住民の皆さんの健康と安全を支えてまいります。

技術主任 横道 宏幸

「4年目」

医療技術部 臨床工学室 中村 友洋

臨床工学技士となり4年目を迎えました。入職した頃のことは…あまり思い出したいとは思わないくらい、何もわからない日々が続き、そりゃもう挫けそうになることがたくさんありました。極端な例でいうと、些細な日常会話でさえ、世代が違うというだけで何を話せばいいのやらと思悩む程でした。

しかし、先輩方の優しい手助けや患者さんからの優しい言葉がけにより、少しずつ仕事に対し自信が持て、悩みも小さくなっていきました。

また、悩みを共有できる仲間であり、好敵手となるよう存在である同期のおかげで、挫けそうなときも自身を奮い立たせることができ、困難を乗り越えることができました。

そんな中、3年目の時には初めての後輩もでき、プリセプターを務める機会がありました。後輩への指導をしながら、人に教えることで改めて自分も学習でき、とても有意義な経験になったと思います。

ゆとりと揶揄される世代ではございますが、凡事徹

底を志し、これからも技士として患者さんやスタッフに信頼されるように日々精進したいと思います。



昨年から取り組んでいる技士が作成した院内広報紙です。



看護部

■総 括

【看護部概要】

- 看護職員：222名 平成27年3月31日現在
- 看護師：145名 准看護師：34名(看護学生18名)
看護助手：43名(看護学生2名)
- 看護師平均年齢36歳
- 平成27年度 病床稼働率
 - ・一般病棟80.3% (在院日数17.5)・地域包括ケア病棟76.2%・回復期リハビリ病棟78.2%
- 平成27年度看護師離職率9.8%
 - ・新採用看護師離職率0%
- 看護方式：固定チームナーシング

【病棟の特徴】

当院は、急性期から慢性期の病床を持つ多機能病床を保有しています。2008年回復期リハビリ病棟を開設、2015年小樽市南部地域支援センターを併設し2016年には地域包括ケア病棟を開設しました。地域のニーズにこたえるため病棟編成を行いながら地域に根ざした医療、看護の提供を目指しています。

【看護部管理者の紹介】(課長職以上)

- 看護部長 大橋とも子
- 看護部次長 松江知加子 (外来室長兼務)
- 病棟室長 金澤ひかり (4 B病棟課長兼務)
- 看護課長 浅田 孝章 (3 A病棟)
伊藤 瑞代 (3 B病棟)
兒玉真夕美 (4 A病棟)
小松多津子 (5 B病棟)
今野 晶子 (透析)
澤 裕美 (外来)
谷川原智恵子 (手術室)
早川 明美 (教育専従) 看護課長8名
- 看護部主幹 石渡 明子 (緩和認定看護師)
- 看護係長 11名
- 看護主任 8名

【看護部理念】

済生会の創立精神『施薬救療』に則り患者さん一人ひとりに「安心できる質の高い看護を提供します」

【平成27年度 看護部重点目標】

1. 継続した入院から退院への支援
2. 看護の質向上、患者満足度向上
3. 円滑な病床管理
4. 働きやすい職場づくり

【平成27年度 看護部目標評価】

《財務の視点》

◆病床稼働率の向上は、外来患者数、入院患者数の減少により困難な状況でした。一般病棟の平均在院日は17.5日と包括ケア病棟、回復期病棟への転棟により7対1算定用件であります平均在院日数18.0日の調整可能となりました。次年度は、回復期リハビリ病棟、包括ケア病棟のみならず看護のリーダーシップによる退院支援(患者が安心・納得して退院できる)と退院支援が財務へ結びつくことができる事を課題と考えます。

◆経費削減については全部署1件以上の改善、取り組みが行われました。SPD物品の在庫見直し、感染ボックスの削減、超過勤務時間の削減など多くの成果をもたらしました。中でも外来看護課では残り番業務、昼休みの超過勤務時間削減の取り組みにより3ヶ月で38万円以上の削減という結果となりました。

《顧客の視点》

◆患者、家族からのご意見について、肯定的ご意見をいただくことも多くなっている中、クレーム件数は減少しておりません。患者満足度調査でも5点中、4.2点と看護師に対する全体評価は悪くはありませんが、次年度も看護者の倫理綱領の振り返りと相手の立場に立った対応が全看護職員できることを目標に接遇・倫理強化に取り組みます。

◆働きやすい職場作りに関しては、新人看護師の離職率が0となりました。今後も離職率低下に向けた人間関係構築とアサーティブ強化に努めるとともに、看護師確保に向けた活動を行い夜勤回数の減少に向けた改善を行います。

《内部プロセス》

◆今年度の転倒・転落件数は昨年度より増となりました。高齢化率35%の小樽市は2025年には高齢化率40%となります。当院の入院患者も60%が60歳以上であり、3b以上の怪我は4件でした。転倒の多い疾患や、時間帯などを把握し巡回体制を整えるなど患者一人ひとりにあった予防対策への取り組みを強化しなければならないと考えています。

《学習と成長》

・ラダー制度導入により、管理者との面談でスタッフの目指すべき目標も明確となり認定看護師を目指したい、という看護師も増えてきました。看護の質が病院の評価となることから今後も看護の質向上に向け教育体制を強化し、楽しみながら学べる環境づくりも検討しなければならないと考えています。

【平成27年度の取り組み】

今年度の大きな取り組みは機能評価受審でした。平成28年2月の受審に向け1年前から松江次長をリーダーに看護管理者が中心となり各種基準、手順、マニュアルの整備を行ってまいりました。医療安全、感染、管理については組織体系を見直し、リンクナースを配置しました。さらに感染管理に関しては札幌医科大学付属病院感染制御部、感染管理認定看護師の教育、指導を受け、ICT、リンクナースの活動を強化し、組織全体が感染管理について意識が高まったことを実感しています。また、機能評価受審におけるケアプロセスのプレゼンではチーム医療の中心的役割を看護師が果たし、リーダーシップを発揮していたことを大変嬉しく感じました。

【今後の目標】

在院日数の短縮化が進む中、退院後の患者の生活を見据えた早期からの退院支援・退院調整の重要性はさらに高まっています。平成28年度診療報酬改定では、退院調整加算が新設され、病院における退院支援の積極的な取り組みが必要とされています。高齢化率の高い小樽市に於いては退院支援が経営にも影響を及ぼしかねません。高齢者の看護、認知症の看護とともに退院支援の強化を院内全体で取り組んでいきたいと考えます。

これからは、看護師一人ひとりが包括的視点を持ち地域で生活をする人を支援する患者を支えることができる医療・看護の提供を目指し、介護制度や、地域の福祉資源についても理解できるようにすることを次年度の目標と考えています。

看護部長 大橋とも子

平成27年度新人看護師13名全員が2年目に向けてステップアップしています。



教育担当者との集合写真

平成27年4月入職 岡山済生会看護学校卒業生5名



平成27年4月入職 北海道看護専門学校・北見医師会看護専門学校准看護学科・河原医療大学看護学課・京都府立看護学校、卒業生4名

平成27年4月入職 深川医師会付属看護学院卒業生4名



3 A病棟

【スタッフ】

看護課長：浅田 孝章 係長：原田 真里
主 任：佐野 舞
看護 師：24名
（うち短時間正職員：2名 夜勤専従：1名）
准看護師：3名
看護助手：7名 医療クラーク：1名

【部署の特徴】

入院患者さんは前立腺の検査から消化器系の癌の手術、透析療法、うっ血性心不全と幅広く、手術前・後の状態だけでなく健康レベルも様々です。また、高齢者が多く、患者さんだけでなく家族を含めた援助が多く、高い看護スキルが求められます。

患者さんが早期に退院できるよう看護師が中心となり、医師や他のメディカルスタッフと連携を図り、定期的にカンファレンスを開催し、チーム一丸となって取り組んでいます。これからも病態の知識を深めるとともに、あらゆる健康問題を抱える患者さんに寄り添い、思いをくみ取り、必要な看護を提供していきます。

【実績】

一般病床：49床

	平成27年度
入院患者数	838人
退院患者数	716人
利用率	81.8%
平均在院日数	18.0日
手術件数	473件

【平成27年度の取り組み】

平成27年度の病棟目標は『患者・家族への継続した看護、支援ができる』『専門職業人として必要な接遇を身に付ける』『統一した看護を提供する』の3点を掲げました。

病棟目標の達成をめざし、各チーム目標を掲げ取り組んできました。目標に向かって一丸となり、チーム力が増し、また情報交換・共有の重要性、連携をとることが必要と理解し、そのためには情報を共有する場を設ける事が大切と感じ、カンファレンスを開催する

機会も増えました。目標の達成には至りませんでした。が、チームで継続・統一した看護の提供をしようという意識付けができました。

【今後の目標】

平成28年度の看護部の重点項目は・退院支援の強化・人材育成・思いやりの行動です。

専門職業人として、知識・技術の向上は重要であり、日々進歩していく医療現場において自己研鑽は欠かせません。知識の習得、看護技術の向上が必要となります。

社会情勢の変化や診療報酬の改定で、在院日数の短縮や病院から在宅への移行が求められ、病棟間での移動や早期退院となり、複雑さが増しています。患者さんやその家族が安心して退院できる支援をしていかなければなりません。そのためには外来、病棟、地域との連携強化が必要で多職種が力を合わせ、チーム医療を実践していくことが重要です。また、看護は一人ではできません。誰が関わっても同じ看護を提供できることが求められます。

そこで平成28年度の当病棟の目標は

「看護ケアを向上し、患者さんにされるべきケアを提供する」とし、1年間この目標に向かって、チーム一丸となり取り組んでいきたいと思えます。



看護係長 原田 真里

看護師になって

3A病棟 越智 瑞季

当院で看護師となり外科病棟で働き始め、今年で2年目となりました。入職当時は、仕事内容を覚えることに必死でしたが、まずは職場の環境に慣れることが大変でした。毎日不安と緊張で押しつぶされそうな日々の中で、支えとなっていたのは一緒に外科病棟に入職した同期2人の存在でした。なかなか職場に馴染めなかったり、業務を覚えてもうまく実践することができず、落ち込んでいたそんな1年目の私にとって、同期の支えは本当に大きく心強いものでした。1年目を乗り越え、今年も同期3人一緒に働いていることをとても嬉しく思います。

業務では覚えることが多く、2年目となり徐々に仕

事も覚え、仕事で少しずつ任せられる場面が増えてきています。任せられることにプレッシャーを感じ、小さなミスで落ち込んだり、立ち直ることに時間がかかってしまうこともあります。分からないことは積極的に聞いてから動くという姿勢は1年目の頃から変わらないよう毎日意識して業務を行っています。プリセプターさんや周りのスタッフのみなさんは4月から入ってきた新人の指導をしながらも私たち2年目にも目を配り、丁寧に指導して下さり、もっと知識や技術を身に付け成長していきたいと感じています。

業務は大変ですが、患者さんと関わり、患者さんの笑顔を見る事がとても嬉しく、看護師になってよかったと思いながら仕事ができています。どんなに忙しくてもまっすぐに患者さんと家族を見つめ、どんなときも患者さんと患者さんを支える家族の笑顔を引き出せるような看護師になっていきたいです。



3B病棟

【スタッフ】

看護課長 伊藤 瑞代
看護係長 岡本 麻理
看護主任 白杵 美花
看護師25名 准看護師3名 看護助手6名

【部署の特徴】

3B病棟は整形外科疾患患者さんが入院される単科の急性期病棟です。当病棟の看護スタッフは全病棟の

【実績】

(患者数・手術件数などは、別項目にて記載します)

平成27年度

病床利用率	平均在院日数	入院数(転入数)	退院数(転室数)	手術件数
73.4%	17.0日	921名(23名)	507名(440名)	838件

【平成27年度の取り組み】

個々の患者さんに合った看護計画の立案や計画的な看護ケアの提供を行う事を目標に取り組みを行いました。小チーム活動として個別性のある看護計画の立案や看護計画とケア予定を連動させるために積極的にカンファレンスを行い、内容も充実させることができました。また、他職種との連携を深めることを目標とし、これまで行っていたリハビリカンファレンス、関節外科センターカンファレンスの他に医師との病棟カンファレンス(1回/月)、手・肘センターとの勉強会(1回/月)の開催を行い情報を共有し患者さんのケアに役立てることができました。

中で一番平均年齢が若い、フレッシュな病棟です。私たちが心掛けている事は患者さんに寄り添い、患者さんと目標を共有し、望む状態で退院ができるよう、医師、リハビリテーションスタッフ、メディカルソーシャルワーカー、他全スタッフが協力し、チーム一丸となって患者さんと関わることです。急性期病棟として手術や治療を受ける患者さんがスムーズに次の段階に移行できるように看護の力を発揮しチームの要となるよう日々努力しています。

【今後の目標】

平成28年度は「患者さんと目標を共有し、計画的な看護ケアを提供する」と「チーム内外での情報共有の強化」2つの目標を立て活動を行っていきます。患者さんの目標を看護師が理解し、患者さんと一緒に目標達成に向けた生活が送れるように看護ケアを提供していきます。また、新たに看護師とリハビリスタッフで週に1度カンファレンスの場を設け情報の共有や看護師が介入できるリハビリのアドバイス受け、看護計画に取り入れていきたいと考えています。

看護係長 岡本 麻理



1年看護師として働いて

3B病棟 森内 彩音

当院へ就職してから1年が経過しました。入職当初は病棟の雰囲気に慣れずに緊張の毎日でした。先輩看護師に付き業務を見学し、出来る援助から徐々に実施させていただき、現在では一人で行うことが出来る援助も多くなってきました。先輩看護師と比較すると技術面では未熟な面も多いですが、患者さんからお礼を言われることも多くありやりがいを感じながら業務を行うことができます。

整形病棟は入院や手術で忙しいことも多いですが、入院時から徐々に回復していく過程を見ていくことができ、患者さんと共に回復への喜びを感じることもできます。

1年経過した今でもプリセプターだった先輩看護師、周りの皆さんに見守っていただき、時には指導をしてもらいながら業務を行わせていただいています。整形病棟ではありますが、既往歴を多く抱えた患者さんや、整形以外の疾患で入院が入ることもあります。1年働いた中で疾患や病態を学習していますが、まだ知らない疾患や関わったことのない疾患の患者さんと関わる機会もあります。これからも疾患や病態についての学習を日々深めていき、患者さんからは親しみやすい看護師であることができるように日々の業務を頑張っていきたいと思います。



(右が筆者)

はじめまして、今井です

3B病棟 今井 友裕

はじめまして、3月に済生会小樽病院に入職した看護師の今井です。スタッフの皆さんに暖かく迎えて頂いて、まだまだ至りませんが楽しく働いています。

そんな私には、謙虚に言っても十分すぎるほどに可愛い2人の息子がいます。最近外では「オレ」と言い、生意気になってきた5歳と、兄を「にー」と呼べるようになった1歳半、この2人のおかげでデレデレの幸せな毎日を送っています。

自分の“Work & LIFEバランス”を考え、通勤時間の大幅な短縮や、夜勤を3交代にすることでなるべく家族と共に過ごす時間を増やそうと考えました。もう少し急性期の大型病院で経験を積んだほうがいいのかなど、悩みもりましたが、遅く帰って寝ている子供の顔にチューすると、「起きたら困るからやめて」という、嫁の冷たい後押しもありました。

その選択から3ヶ月がたちました。家族と過ごす時間が増えました。家族の中に笑いもさらに増えました。そこで生まれた気持ちの余裕があることで、患者様やそのご家族に、より笑顔で優しさを持って接することができているのだと思います。

最近長男が「大きくなったら、仮面ライダーか、お父さんと同じ病院で働く」と言ってくれるようになりました。是非前者になって欲しいと強く思いますが、正直少し嬉しくもあります。息子たちに恥じないように看護師として、より成長していきたいと思います。これからも、早くこの病院・3B病棟の一員として貢献できるように頑張っていこうと思います。どうかよろしくをお願いします。



4 A病棟

【概要】

53床（うちHCU2床）内科・神経内科疾患急性期

【スタッフ】

看護課長 児玉真夕美

看護係長 中山 優子

看護主任 岸本 悦子

看護師25名 准看護師6名

（うち短時間正職員4名 パート看護師2名、内視鏡技師1名 呼吸療法認定士1名、糖尿病療養指導士1名）

看護助手7名、クラーク1名

【業務内容】

4A病棟は、内科、神経内科の急性期患者の看護にあたっています。

24時間、祝祭日問わず、当院かかりつけ患者の内科、神経内科の対応を行っています。

消化器内科における内視鏡手術、糖尿病教育、化学療法、緩和ケア、重症患者ケアを安全に行い安心していただけるよう確実な看護スキルが要求されます。

神経内科は後志管内の病床数が少なく、脳血管疾患、認知症、神経難病の精査から診断、告知、予後の対処

【過去2年間の実績】

	平成26年度	平成27年度
入院患者数(うち転入数)	924 (93)	983 (77)
退院患者数(うち転出数)	921 (293)	986 (342)
病床利用率	85.2	85.9
平均在院日数	17.6	18.6
内視鏡手術件数	121	154

【平成27年度の取り組み】

1. カンファレンスの充実を図り、統一した看護を実践する

2. 働きやすい職場作り（看護部重点目標）

これら病棟目標を達成するべく固定チーム小集団活動を実践し成果をあげることができました。前年度の取り組みより、業務や看護上の統一がはかられていない現状から患者さんから看護師の対応がそれぞれ違うなどのご意見がありました。カンファレンスをする意識ができたことで、患者さんに寄り添い情報共有することが徐々にでき、統一した看護につなげることができました。小チーム活動では受け持ち看護師のベットのピクトグラムの徹底、化学療法の手順を写真付きでマニュアルを作成し手技統一、助手業務マニュアルを作成し活用しています。

法と療養支援、緩和ケアを多職種と協力し患者、家族の思いを大切に看護提供しています。

【当病棟の特徴】

内科、神経内科ともに患者さんの高齢化率が高く、急性期において重症化からせん妄になる方が多くいらっしゃいます。内科は肺炎、糖尿病治療の教育入院、内視鏡手術や外科術前精査、がん化学療法、ターミナル期の緩和ケア、神経内科は脳血管疾患の急性期（血栓溶解療法など）から慢性期、認知症、神経難病治療ケア（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症など）の看護スキルが求められます。病状で数日から週単位、月単位と患者さん、ご家族の関わりは多様です。入院早期に治療、看護方針を立案し固定チームで責任をもち、患者さん一人ひとりが最も適した方向で計画が実践できるよう、カンファレンスをします。看護師、MSW、PT、OT、ST、緩和ケアチームなど他部門と連携を図り、週1回実施している合同カンファレンスで状況の確認と計画修正を行っています。受け持ち看護師中心にチームで情報共有し患者さんやご家族にとって必要なケアと治療において最善の選択できるよう共に考え、思いに寄り添いながら統一した看護ケアを目指し実践しています。

また看護研究においては、当科の特徴から糖尿病療養指導士と協力し教育入院フロー、血糖測定、インスリン手技チェック表を作成しました。それらを利用したことにより統一した指導につながりました。

働きやすい職場づくりについては高回転稼働病棟として、スタッフが忙しい、人員が不足と感じながらもやりがいを持ち、前向きに仕事へ取り組める一案として有給取得日数向上をめざしました。前年度より4A全体では87.5日増加となり目標は達成されています。また超過勤務に関して、夜勤帯の休憩をルール化し、リーダーが時間配することで休憩時間の確保ができるようになり、超過勤務軽減に繋げることができました。

【今後の目標】

看護部理念の看護の質を考えると、日々の看護から患者、職員ともに信頼関係を築くことの重要性を感じています。専門職として、看護の責任を果たすための知識、技術を身に付け実践したことで患者さんが改善していく喜びを感じていける病棟を目指します。またコミュニケーションは看護の基本ですが接遇（おもてなし）を身につけ、おもてなし意識ができることで治療や病気に立ち向う患者さん、ご家族に寄り添い、職場スタッフとの信頼関係が築ける病棟を目指します。

また「忙しい」を口癖にするのではなく、考えて、実践して「大変だけど、やりがいがある」が口癖になるように、働きやすい職場のためさらなる業務改善と、看護の責任をはたすことを目指します。

【平成28年度目標】

1. 病棟内の業務の統一化を図る
2. 受け持ち看護師として責任を持って看護を展開する
3. 接遇5原則を実践する（挨拶・笑顔表情・態度・言葉使い・身だしなみ）



看護係長 中山 優子

看護助手になって

4 A病棟 江良智恵美

私は看護助手として就職して25年目になりました。働きだした頃は、私より若い人は誰もいなく珍しがられたものです。病室掃除、オムツ交換が主な仕事でした。

10年経った頃、私は療養病棟に勤務異動になりその病棟は回復期病棟へ移行しました。今の私があるのは、回復期病棟での経験と上司、看護師、リハビリスタッフそして看護助手の仲間のお蔭だと思っています。患者様にとって何が良いのかを考え、全て行ってしまうのではなく、出来ることはやっていただく、この患者様にとって何が一番良いのかを考えるという「考える力」を教えてもらいました。

看護研究やQC活動、看護助手もメンバーに加わり経験もないのに「江良さんは〇〇日までに」と期限を付けられ泣いたこともありましたが、しかしそういう経験があったからこそ今の自分があるのだと思います。今後も患者様にとっての良いことを考え4 A病棟のスタッフの一員として、患者様一人ひとりに質の高い看護を提供できるように看護助手としての立場から頑張っていきたいと思っています。



(左が筆者)

看護の現場にもどって

4 A病棟 田中 友香

私は復職セミナーを機に今の職場で働き始めて3年目になります。それまで10年間専業主婦をしており、もう看護師として働くことはないかと思っていましたが、復職セミナーのチラシをみた家族に勧められ、思い切って受講しました。その時“ブランクがあっても大丈夫”“短時間正職員やパートなど、働く時間も相談に乗る”という言葉に信じて復職することを決めました。それでも正直不安でいっぱいでした。でも言葉通り、新人ナース研修を受講したり、個人的に技術練習をする時間をくれたり、手厚くサポートしてもらいました。また、午前中のパートという短時間の勤務も家事と仕事を両立させ、子供とも今までと変わらぬ時間がとれ自分に合ったペースで働けていると思います。今でも初めての事、解らない事も多いですが、いつでも相談でき、教えてくれる環境で、この職場で復帰できて良かったと思います。

これからも看護師としてレベルアップ出来るよう、日々励んでいきたいと思っています。



4 B病棟

【スタッフ】

金澤ひかり 看護部室長（病棟課長兼務）
伊井 洋子 病棟係長
千坂あかね 病棟主任
看護師19名
准看護師3名
看護助手8名

【部署の特徴】

地域包括ケア病棟は、急性期治療後の患者さんを中心に院内・院外から受け入れ、患者さんが安心して地域へと退院できるように支援を行なっています。

疾患に制限はなく、様々な診療科から患者さんを受け入れるため、幅広い知識が必要なうえ若いスタッフも多く、患者さんやご家族との関わり方や、多職種との連携について日々実践を重ね勉強中です。

【実績】

（患者数・手術件数などは、別項目にて記載します）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院(院内)	49	37	64	48	51	45	49	58	63	58	40	45
(院外)	2	3	6	5	7	5	3	0	5	9	3	3
退院	49	42	60	52	61	43	48	52	71	53	44	43
病床稼働率(%)	77.7	73.8	77.1	78.0	67.6	76.0	74.9	82.7	85.5	80.3	86.3	89.1

【平成27年度の取り組み】

今年度は受持ち看護師を中心に、患者さんや御家族に寄り添いより良い退院支援を実現するために、カンファレンスの内容の工夫に取り組みました。カンファレンスがただの報告会にならないように、必要な情報は関係者が事前に見られるようにしました。カンファレンスのリーダーシップを看護師が取ることで、情報の取りまとめもスムーズになったと思います。

また、個人の知識を深め病棟に還元してもらうために、スタッフには院内・外の研修に積極的に参加することを奨励し、勉強する意欲を持てるよう働きかけています。

【今後の目標】

28年度は、昨年同様『多職種と協働し、患者・家族に寄り添う看護』に加え『安全・安心な療養環境を提供する』を目標に掲げました。個人の力では達成できない事も、チーム一丸となって患者さん一人一人と向き合っていきたいと思います。

患者さんの笑顔のために ♡♡♡

看護係長 伊井 洋子



助手さんになって3年

4 B病棟 看護助手 駒形 優菜

入職して3年になります。前職は事務職でしたが、身体を動かす仕事がしたいと思い、偶然に出会ったのが看護助手でした。看護助手という職種はこれまでの私には無縁で、すべてが初めてのことばかりでした。一緒に働く先輩方は自分の親と同年代、もしくはもっと上の方が多く、仕事のことはもちろん色々なことをとても親身になって教えてくださいました。初めの1年目はそんな先輩方の後ろ姿をついていくのに一生懸命でした。今では患者さんとのコミュニケーションが楽しく、とてもやりがいを感じています。日々、スタッフの皆さんと話し合い、患者さんが安心して安全な入院生活が過ごせる様、環境整備や接遇面を中心に力を入れ取り組んでいます。

今年の春からは4 B病棟の助手リーダーをさせていただくことになりました。

昨年、サブリーダーとしてリーダーをサポートしてきましたが、最年少の私がリーダーをしていくには不安や課題はとてまたたくさんあり、毎日奮闘しています。ですが、看護助手は看護師さんが患者さんと関わっていく上でなくてはならない存在なので、これからは助手会議などを定期的に行い、話し合う場を増やし、助手メンバー全員が看護師さんと患者さんの力になり、よりよいサポートができるように頑張っていきたいです。



(右が筆者)

看護師としてのスキルアップ

4 B病棟 看護師 澤田 涼子

正看護師資格を取得して7年目、当院に就職し3年目になります。ふと、いつも考えるのは「看護師として自分はどうなりたいか」という事が頭に浮かんできます。今まで看護師になってから、明確な目標はなく過ごしてきました。しかし、目標を2つ明確に見出すことが出来ました。

1つ目は以前から興味があった「認知症看護」への取り組みです。勤務する中で認知症患者さんへの対応や看護には悩む事も多く、また小樽市は高齢化が進み初期認知症や予備軍を含めると約12~13人に1人の割合で認知症だそうです。自分の成長のため、新しい視点で患者さんと向き合うために認知症ケア専門士を目指したいと考えています。

2つ目は、緩和ケアチームの一員となり研修や勉強会に参加し病態や緩和の特徴などを学び、更に興味を湧いてきています。地域包括ケア病棟の緩和リンクナースとしての役割、在宅療養支援、退院調整を行なっていきたいと考えています。今後は、「認知症看護」と「緩和ケア」この2つを習得してスキルアップし、向上心を高めていき自分の看護に活かしていきたいと思えます。



(右が筆者)

5B病棟

【スタッフ】

看護課長 小松多津子
係長 藤田真由美
主任 伊藤理恵
看護師 18名
皮膚・排泄ケア認定看護師 1名
介護福祉士 6名 看護補助者 2名

【部署の特徴】

脳血管疾患または大腿骨近位部骨折などの患者さんが急性期での治療を終えて家庭復帰・社会復帰を目的に集中的にリハビリを行うための病棟です。患者さんやご家族と共に医師、看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなどがそれぞれの専門性を活かして日々カンファレンスを行いチームで目標に向かってリハビリテーションを行います。患者さんの家庭復帰、職場復帰、寝たきり防止のため、病棟では退院後の生活を想定した練習を繰り返すことで、退院後の生活によりスムーズに移れるように日常生活動作の能力の向上を目指しています。

【実績】

入院患者数	病床利用率	平均在院数	在宅復帰率
325	71.6	36.3	86.9



【平成27年度の取り組み】

平成27年度は具体的に退院支援にむけて患者・家族が望む看護を提供したいと考え「多職種との連携をはかり、患者・家族が望む退院支援をする」を目標に活動を行いました。担当看護師が患者・家族と話し合い患者自身がどのようになりたいかなど目標を聞き看護計画を立案しました。多職種とカンファレンスの充実に努めコミュニケーションを図り情報共有に努めました。また入院生活での楽しみや気分転換を図れるように週に3回レクリエーションとして体操や風船バレー、塗り絵、貼り絵など、また季節の行事として節分、七夕、花火鑑賞、ハロウィン、クリスマス会などを開催しました。

【今後の目標】

今年度は患者・家族の退院先が一致している場合も、差がある場合も看護計画を立案して解決してきましたが、今後はより退院後の環境に応じた計画と目標が設定できるように多職種とも協働していきます。

看護係長 藤田真由美



6年間の学校生活を終えて

5 B病棟 岸 瞳

准看護師として7年働いてきた中で、知識不足を痛感していました。知識を深めて、より良い看護を提供したいと考えていました。認知症患者さんの関わりが難しいと感じたこと、今後増えていく認知症看護に興味があり、認知症の認定看護師を目指したいと思い、正看護師の免許取得を目標としました。

入学時は9か月・2歳の子の育児、家事、仕事を行っていましたが、体調不良となり、2年間の休学をしてしまいました。その為もう後はなく、必死に頑張り走り続けました。

実習で学んだことは、メンバー間の人間関係、チームワークの大切さです。またアセスメントにおいては、疾患を把握した上で患者さんの思いを確認し、患者さんに寄り添うことの大切さです。更に自分の気づいていない部分を知ることが出来ました。

実習中は眠ることも出来ず、必死に記録をこなし、気が付くと朝になっているという繰り返しでした。休みの日も事前学習や記録の直し等で子供達と遊ぶ時間も殆どなく、辛い思いや迷惑をかけてきたと思います。しかし振り返ると、非常に大変でしたがとても充実していたと思います。この経験を今後の看護に生かしていきたいと考えます。

実習中、家族や職場の方々を支えられ、乗り越えることができ、とても感謝しています。

卒業後、休みの日は子供達と遊びに行くようにしています。「ワーク・ライフ・バランス」はとても大切だと思います。

現在は新人指導者として、新人や学生を支えていけるように頑張りたいと思います。

今後は、認知症の認定看護師を目指し、研修等にも参加していきたいと考えています。



「一年を振り返って」

5 B病棟 荒川 香織

当院に就職してからもう一年が経ちました。入職した当初は、とにかく緊張の毎日で業務をこなす事で精一杯でした。それでも、少しずつ病棟の雰囲気にも慣れ、ある程度の業務の流れを理解してきた頃に、私は大きな壁に当たり中々乗り越えることができませんでした。この頃の私は、恐怖心や不安ばかりで何をしても自信がなくて、心にも全く余裕がありませんでした。「技術ができない、このままでは一人立ちができない」とそればかり考え、全く患者さんを見る事が出来ていなかったと思います。入職した頃に、「心に余裕がなくなることも沢山あると思いますが、私はそういう時こそ常に笑顔で患者様と接することのできる看護師になりたいです」と目標を書きましたが、そんな事も忘れていた頃に「いつも優しくしてくれてありがとう」「あなたの笑った顔を見ると元気が出るよ」と患者さんに言われた一言ですごく支えられ、勇気づけられた事を今でも覚えています。もちろん技術も大切ですが、病気や障害、治療に対する様々な思いを抱えて生活している患者さんと毎日顔を合わせて話をする機会のある看護師にとって、まずは患者さんをしっかり見る事が大切だと先輩看護師や患者さんの言葉で学ぶことができました。大変な事や辛い事、沢山ありましたがプリセプターや先輩看護師に沢山指導して頂き、励まして頂き、支えてもらう事でここまで来れたと感じます。そして、同期のおかげでいつも前向きでいれたと思います。本当に恵まれた環境の中で仕事をする事ができています。これからも、患者さんはもちろんですが一緒に働くスタッフにも感謝や思いやりの気持ちを忘れず、人としても看護師としても成長できるように日々努力していきます。



(右が筆者)

外来看護課

【概要】

外科・消化器外科（専門外来…肛門疾患・ヘルニア・睡眠時無呼吸・栄養サポート・乳腺）女性診療科、リハビリテーション科、化学療法室

整形外科（専門外来…脊椎・腰痛・膝、人口関節・肩・骨粗鬆症・手、肘は午前外来診察で予約対応）

内科・消化器内科（専門外来…内分泌・甲状腺は午前外来診察で予約対応）、神経内科

循環器内科、内視鏡センター、中央処置室

泌尿器科（専門外来…性機能）、耳鼻咽喉科

【スタッフ】

看護課長 澤 裕美

看護係長 瀬川 信子 吉田真知子 丸山まり子

看護主任 高橋 恵

看護スタッフ 23名（職員3名…うち内視鏡技師1名、短時間職員10名…うち内視鏡技師1名、糖尿病療養指導士1名、パート職員10名）、看護助手2名

【業務内容】

内科・消化器内科、循環器内科、神経内科、耳鼻咽喉科、外科・消化器外科、整形外科、リハビリテーション科、泌尿器科、女性診療科、内視鏡センター、中央処置室その他各科専門外来があり、看護体制は固定チームナーシングを導入し、内科系、外科系の2チームに分かれ診療や検査の介助を行っております。また各チームとも専門外来が増え、新たな知識や技術を身に付け、専門性と質の高い看護が提供できるよう努めております。

また、1日平均350人程の患者さんが来院されており、その中にはご自身の症状に合った診療科を選択し受診される方や、何科を受診してよいかを窓口の事務職員にご相談される方もいらっしゃいます。その際、事務職員より連絡が入りトリアージ後に的確な診療科へご案内させて頂いておりますが、不安や苦痛などお持ちの中での患者さんの1分1秒はご本人にとって大変長く感じるものです。速やかにご案内できるよう他職種である事務職員と連携をとっております。

【当外来の特徴】

小樽市は少子高齢化が進んでいる中、当院はその背景を受けて、従業員が出産・育児、介護などを理由に離職することなく働き続けられるようにワークライフバランスの取り組みを行っております。当外来においても勤務時間や出勤曜日が様々な形態で看護師が勤務しているため、応援機能を生かして業務をしています。

平成25年度移転時より専門外来が増設され、より専門性の高い診療を行えるよう努め、また以前は旧病

院近隣の患者さんが多数を占めておりましたが、現在では市内全域、後志全域、札幌方面からの患者さんも多く、紹介患者さんが速やかに受診して頂けるように他部署と連携を取っております。

【実績】（患者数・手術件数などは、別項目にて記載します）

平成27年度 外来受診患者数

	外来患者延数	1日平均患者数
内科	31,564	86.5
外科	3,558	9.7
整形外科	45,208	123.9
婦人科	206	0.6
泌尿器科外来	8,767	24.0
耳鼻科咽喉科	1,550	4.2
循環器内科	13,386	36.7
透析	7,345	20.1
神経内科	6,329	17.3
総計	117,913	323.0

【平成27年度の取り組み】

チームを超えての応援機能体制の強化をめざしましたが、子供の感染症罹患による短時間正職員の長期休暇や産休・育休に入るスタッフが続き、人員不足のため思うように進みませんでした。しかし、各チーム内の応援機能体制は昨年度より強化できております。

また、自宅で学習できないスタッフのため、時間外にeラーニングを視聴する場を設けたことにより、個人のスキルアップに繋がったと考えます。

院内研修・セミナーにおいても、朝礼時に参加するよう周知したことでパート職員や短時間正職員の参加が多くみられました。

【平成28年度の目標】

平成28年度は“患者さんが看護師の技術・接遇ともに満足でき、また外来診療を安全・安楽に受ける事が出来る看護”を目指し、以下の目標を設定いたしました。

1. 外来共通および各科マニュアルの見直しを行い、修正・作成し外来全職員が周知・活用出来ている状態
2. 各科内および共有部署内での患者情報が共有出来ている状態
3. 患者の待ち時間に対する苦痛の緩和が出来ている状態
4. 看護師が1時間休憩出来ている状態

看護係長 丸山まり子

毎日楽しい

整形外科外来 早川 晃子

入職してから13年が経ちました。

入職時は1歳だった可愛い娘も最強の反抗期14歳となり、今は4歳の息子に癒される日々です。

私は整形外科病棟に6年間勤務後、外来へと異動となり、整形外科一般外来の他、脊椎・腰痛センター、関節外科センターと、忙しいながらも毎日楽しく仕事をしています。

10何年かぶりに新人看護師が外来配置となり、プリセプターもさせてもらいました。プリセプティーか

ら学ぶことは沢山ありました。伝える事の難しさも改めて知りました。

看護師に必要な知識・技術はもちろんですが、「患者さん想いであること。愛される看護師に。」ということをもットーに1年間、悩んだり、落ち込んだり、迷ったり、泣いたり、笑ったり、美味しいものを食べに行ったりしながら過ごしてきました。これからも、一緒に成長していけたらと思っています。

患者さんからのひと言で救われたり、頑張れたり、泣くほど嬉しかったり。

これからもそんな患者さんとの関わりを大切にしたい、毎日笑っていたいと思います。

なりたくてなった看護師、どうしてもなりたかった看護師、楽しくないわけがない!!



外来看護課16年ぶりの新人と一緒に（右が筆者）

透析センター

【スタッフ】

看護課長 今野 晶子
看護係長 本間美穂子
看護主任 中山 祐子
看護師 6名 看護補助者 2名

【部署の特徴】

ベッド数25床（うち1床は個室）、月水金午前・午後、火木土午前の3クールで血液透析を行っています。

地域の基幹病院として他の透析施設からの転入患者さんの受け入れや、観光地小樽ならではの旅行透析の受け入れも積極的に行っております。

慢性疾患である透析患者さんに安らぎと癒しを与えるような透析看護をめざし、透析導入期から維持期の患者さん1人ひとりに、受け持ち看護師が看護計画を立案し看護ケアを実践しています。また、臨床工学技士と連携し、週1回のスタッフミーティングでは患者さんに関する情報共有や業務改善の検討を行い、日々の業務は看護師と臨床工学技士でペアを組んで受け持ち患者さんの援助にあたっています。

【実績】

(件)

	平成26年度	平成27年度
血液透析件数	8629	8443
入院	1055	1042
外来	7574	7401
新規導入件数	13	23
他院からの転入件数	29	22
旅行透析件数	10	15

【平成27年度の取り組み】

「維持透析患者さんがその人らしい透析生活が送れるように支えていくこと」をやりたい看護に掲げ、患者さんの思いをくみ取り患者さん自身がありたい姿に近づくための『患者参加型看護計画』を導入しました。今まで受け身であった立場から、看護師と共に目標を設定し自己管理をしていくというこの取り組みにより、患者さんの透析生活への意欲が増すことが期待されます。また、看護師の責任ある看護とやりがいにつながることができました。

【今後の目標】

今後は継続した看護のシステムづくりを目標に看護計画に活かせるカンファレンス方法の見直しと、新規導入患者さんへの病棟との連携を強化した退院支援を中心に取り組んでいく予定です。

看護係長 本間美穂子



透析センターで看護補助者として働いて

透析センター 佐々木拓子

私が透析センターで看護補助者として働くようになって1年2か月が過ぎました。初めはわからない事ばかりで仕事も随分時間がかかっていたと思います。そんな中透析センターのスタッフや患者さんたちは、いつも温かく見守って下さり、みなさんの支えがあったから頑張ってきたと思います。

私は現在12時半から17時までの勤務をしています。家では午前中2人の孫の面倒を見ているので朝から大忙しです。かわいい孫たちとお風呂に入ってから出勤しています。なので、午後からの勤務はとても助かっています。その分出勤してからは、感謝の気持ちを持って頑張ることができます。

透析が毎日の生活の一部となっている患者さんやそのご家族の気持ちに寄り添える様な、またスタッフの皆さんがスムーズに働けるような環境作りができる、そんな看護補助者になりたいと努力しています。そしてより一層透析センター全体がいつも笑顔でいられる様スタッフの一員として、元気で明るい看護補助者を目指したいと思います。

孫との楽しいひと時



Happy Life ～新たな大海原へ～

透析センター 石山 聖子

早いもので「第2の人生」を当院で再開し気づけば1年が過ぎました。は～っ！とお思いでしょう。数十年前に北生病院で生を受け…生まれた川に戻る鮭の如く30数年間「北生病院（途中から済生会）という大海原」を大回遊し、2年前にお暇を頂いた訳です。前回の在職中、フルタイムでの勤務…時には夜勤・時間外出勤とあらゆる経験をさせて頂きました。毎日が時間に追われ身体的・肉体的にも正直ヘトヘト状態で余暇は「夢のまた夢」のような状態でした。

しかし、現在「半日勤務」ということで時間に余裕が生まれ、余暇も現実となった生活を味わうことが出来ています。不思議ですね…気持ちに余裕が出来ると優しくなれるんですよね（何せ人間が小さくできていますので…）。そうすると、自然に人間関係も良好になりますし患者さんも愛おしく思えます（ちょっと言い過ぎでした）。あと、透析センターのスタッフの皆さんが自分を受け入れてくれた事も大きな要因と思っています。

また、余暇を利用し週に3～4回プールに通い水中体操を始め半年が経ちました。私が最年少で年上の新たなお友達も沢山でき、「若い」と言う事で羨ましがられています（やった～！）。迫りくる体力の衰えに立ち向かう為、「体力維持」を目標に時間が許す限り継続したいと思っています（目標は2020年オリンピック参加!?)。



笑顔を絶やさず勤務しています！

手術センター

【概要】

手術室 3室
(クリーンレベル 1000 1室 10000 2室)

【スタッフ】

看護課長 谷川原智恵子
看護係長 杉崎 美香
看護主任 猪股 光
看護師 6名 臨床工学技士 3名

【部署の特徴】

手術センターは安全を第一に、看護師、臨床工学技士が連携し、事故が起きないように細心の注意を払い日々の業務を行っています。中材業務やピッキング業務の大半を委託業者が行っているため、少人数のスタッフであっても安全に手術が行えています。1日の手術件数は5～7件で、昨年同様、部屋使用率も100%を超えています。

【過去3年間の手術件数】

科	平成25年度	平成26年度	平成27年度
整形外科	681	1000	860
泌尿器科	228	214	207
外科	206	207	195
計	1,151	1,421	1,264

【平成27年度の取り組み】

安全な看護が提供できるよう、常に業務の見直し、改善を行ってきました。手術センターでは器械の不備・不足が最終的に患者さんに不利益をもたらすこととな

り、日々変化していく手術手技、新しいデバイス導入にも対応していかなければならないため、各マニュアル、ピッキングリスト等の再検討、改訂を行いました。また、患者の取り違え、手術部位の間違いを起こさないよう、タイムアウトを導入しました。積極的に医師へも働きかけ、全症例でのタイムアウトが確立しました。

【今後の目標】

平成28年度は、接遇の向上を目指しています。患者さんに「ここで手術を受けて良かった。」と思っただけのよう、短い関わりの中でも明るい笑顔で接し、分かりやすい説明、丁寧な言葉がけを心がけていきたいです。

看護係長 杉崎 美香



一年間の生活を振り返って

手術センター 堤 沙絵

私が済生会小樽病院に就職して一年、そして本格的に一人暮らしをはじめて一年になりました。今までも寮生活で自炊をしたりと一人暮らしに近い状況にはあったのですが、常に友人や寮母さんなど頼れる人が近くにおり、完全に一人になったのは今回がはじめてでした。最初のうちは自炊を頑張ろうという気持ちもありましたが、いざ仕事が始まってみると、疲れもありすぐ寝てしまい、夕食をとれなかったり、朝食も食べない日が多かったです。エネルギーを補給できていないので、当然ながら体調が優れなかったり、頭が働かないこともありました。その時に感じたことは、やはり食事は体調管理において欠かせないということです。

働いて一年が過ぎ、任される仕事も少しずつではありますが増えてきました。また、当院の手術室は人数が少ないこともあり、手術の件数にもよりますが人が一人欠けるとかなり忙しい状況になることもあるので、体調管理が大切になってきます。去年はあまり食事面に気を使えていなかったのですが、今年は体調管理を行い、仕事に励むためにも、三食しっかり食べられるようにしていきたいです。今年度に入ってから三食食べているので、継続できるよう努力していきたいです。



看護部教育

【概要】

看護部の教育目的、目標の到達のため教育研修の企画、運営、評価を、専任の教育課長が教育委員長となり教育委員会を運営し行っています。H27年は「参加したくなる、楽しく学んで実践できる研修」を目標に取り組みました。

【教育委員会】

教育委員長：早川明美（看護部教育課長）

教育委員：瀬川信子、中山優子、本間美穂子（以上看護部係長）、伊藤理恵、佐野舞（以上看護部主任）、菊地麻衣子、松木まさき、林敬子、小路深雪、曾根潔美、藤本園江

【活動報告】

1. 新人看護職員入職時研修

新人13名が入職し、4月3日（金）6日（月）7日（火）3日間入職時研修を行いました。看護記録、看護技術の演習を多くし、職場ですぐ使える研修内容としました。また、社会人、組織人としての心構え、看護職としての責任について強化しました。

2. 新人研修

4月～5月に看護技術（演習）を集中し、その後新人指導内容にあわせ研修を行いました。研修目的、目標に応じて看護師と准看護師を分け、研修内容も各々に合わせました。10月にリフレッシュ研修を企画、各部署からの新人へのメッセージを伝えました。この研修は、職場内でのコミュニケーションを深めることになったと考えます。年間19回という研修の多さですが、新人の成長につながったのではないかと思います。



3. ラダー研修

1人でも多く研修に参加できるように、各々のレベル2回以上の研修を行いました。今年度は「看護過程」「リフレッシュ」「看護倫理」を重点的に企画しました。また、新たに管理者研修を企画し、管理職の指導力・マネジメント能力の向上に力を入れました。eラーニングは学研ナースングサポート活用推進として、昨年より多く6回の研修を行いました。研修の参加者は昨年より多く、キャリアアップに貢献できたのではないかと考えます。



4. 集中研修

緩和集中研修は①新たな受講者、②昨年の受講者に分け、専門知識を高めました。

5. 全体研修

「看護過程」「看護倫理」を重点的に、看護部職員が全員参加できるよう同じ研修を日程を変え2日間開催しました。全員参加とはなりませんでしたが、多くの参加者が専門的知識を高めることができたと思います。

【今後の目標】

看護の動向を見据え、専門性を高める研修、職場で求めている研修を把握し、実践で役立つ研修を行っていきたいと思います。また、新人～3年目まで重点的に研修を継続していきたいと考えています。各々が目標を持ち、キャリアアップ、自己研鑽できるよう努力していきます。

教育課長 早川 明美

事務部

■総括

平成27年度は、以下の3点について重点的に取り組みました。

1点目は、病院理念および基本運営方針にもとづいた事業の推進です。地域包括ケアシステムを構築する上で中核的事业の役割をなす「小樽市南部包括支援センター」事業の立上げと運営に関与し、地域における保健・医療・福祉の総合的相談機能の強化に寄与することができました。現在、当センターの運営は順調に推移しており、北海道済生会の新たな事業価値を生み出す事業として期待されています。また患者さん中心、患者さん主体の医療を目指し、患者さん等からのご意見やご要望への対応体制を見直しました。受付担当者を配置し迅速かつ確実に取り組みを推進する仕組みを構築しています。寄せられるご意見やクレームと向き合い真摯に対応を積み重ねることで、職員の意識に変化が見られ、改善効果が実感できるようになりました。その他、地域に必要な医療人の育成や医師の研究活動を支える環境整備のため、専任の事務職員を配置し、札幌医科大学からの実習生や研修医の受け入れ体制の充実強化を図っています。

2点目は、健全経営に向けた取り組みです。収入面では、健診課が主管した健診強化プロジェクトで前年比

約800万円の成果を出しています。検診メニューの見直しや広報活動強化の取り組みは、院内のQC大会や全道大会でも高い評価を得ることができました。費用面では、経費削減プロジェクト活動を主幹し新病院開院後にあつて上昇傾向にある医業費用の削減に取り組みました。事務部門が管理する一般経費のほか、全職員の活動による光熱水費の削減や業務の見直しによる時間外手当の削減をおこない、年間で約3,000万円の効果を得ることができました。

3点目は、業務管理の徹底です。毎月定例で事務部役職者会議を開催し、病院方針の周知、前年度からの懸案事項への対応確認、各課への取り組み指示、出張成果の確認を行いました。前年度からの懸案事項は、当年度内に概ね対策を講じることができました。

27年度は、事務職員が様々な事業やプロジェクト、委員会活動等に関わり活躍しました。新しいことにチャレンジし、身をもって体験することで大きく成長した職員もいます。次年度もより多くの職員が活躍し、組織力の向上につながることを期待しています。

事務部長 櫛引 久丸

総務課

【概要】

主に下記の業務内容に掲げる業務を行っておりますが、平成27年度は特に文書管理の整備、勤怠管理システム運用による給与計算・労務管理業務の効率化、電話交換専任による応対対応強化・顧客サービス向上、臨床研修管理体制の強化に取り組みました。

【スタッフ】

- 五十嵐浩司 (室長兼課長)
- 浦見 悦子 (主任／総務人事・臨床研修・医局秘書担当)
- 成田 明美 (主事／電話交換・庶務・給与担当)
- 伝法 俊和 (主事／庶務・文書管理担当)
- 内山 泰男 (主事／総務人事・給与担当)
- 吉田 理恵 (臨時職員／医局秘書・臨床研修担当)
- 細松 有香 (臨時職員／総務人事・給与担当)
- 寺島 光代 (臨時職員／電話交換・庶務担当)
- 吉田 悦子 (臨時職員／電話交換担当)

【業務内容】

文書管理／人事管理／労務管理／給与計算／臨床研修事務／医局秘書／電話交換／防災センター受付

【部署の特徴】

総務課は外部対応（電話受付・行政団体等）だけではなく、内部対応（職員労務管理等）も行うその名称の通り「総て（すべて）」に「務める（つとめる）」課となります。

親切、丁寧であり院内外から頼りにされる部署である事が求められます。

【過去3年の実績】

常勤職員数の推移 (単位：人)

区分	平成25年4月	平成26年4月	平成27年4月
医師	21.5	26.5	25.5
看護師・准看護師	156.5	180.8	177.3
看護補助者	36.1	43.8	40.6
医療技術職	76.0	93.5	96.5
事務職員	40.0	54.5	56.1
その他職員	9.3	7.8	7.3
合計	339.3	406.9	403.3

【平成27年度の取り組み】

- 文書管理の整備
 - ・規程番号一斉改編、全冊子の入れ替え（紙媒体・イントラネット上）
 - ・各種委員会議事録の管理、要綱の整備

- ・各種契約書の洗い出し、一覧表作成、ファイル整備
- ・発信、押印簿の新様式作成、出張申請書・復命書見直し

○勤怠管理システム構築による給与計算・労務管理業務の効率化

- ・一部手当の明細書自動発行
- ・部署単位での時間外総計報告書発行
- ・保育所管理機能追加（食費・保育料請求書作成）
- ・有給休暇、リフレッシュ休暇、私傷病休暇の自動付与機能追加

○電話交換業務専任による応対強化・顧客サービスの向上

- ・専任職員配置における電話交換窓口一元化
- ・防災センターの受付

○臨床研修管理体制の強化

- ・臨床研修パンフレット作成、ホームページ更新
- ・文献検索データベースの整備
- ・総合診療医募集パンフレット作成
- ・新専門医制度研修プログラム（内科領域）作成、届出

○その他

- ・マイナンバー収集
- ・図書蔵書管理表・各月毎の新着図書リスト作成
- ・職員満足度調査実施

【今後の目標】

更なる業務改善と標準化・平準化を図り、各部門と連携していきたいと考えております。

昨年度同様、初期臨床研修医の受け入れを目指し、また平成29年度より始まる新専門医制度に向けて更なる体制強化を目指します。

職員の皆さんが安心して気持ちよく働けるよう、信頼される総務課として引き続き各業務に取り組み、また、病院の顔である電話対応窓口として患者さん・各医療機関、取引業者の方々にスムーズに対応できるよう常に心がけていきたいと考えております。

主任 浦見 悦子

経理課

【概要】

管理事務室内の一部門として、会計業務・資産管理を行っております。

【スタッフ】

武田 和博 (事務係長)

秋元かおり (主事)

【業務内容】

- 予算・決算業務 (月次・年次)
- 資産の管理
- 資金の調達・運用
- 現預金の受払・管理
- その他

【部署の特徴】

上記の経理業務の他、管理事務室メンバーの一員として、郵便物対応・来客対応・電話対応・外勤、そのほか病院広報や患者サービスに関すること等々、幅広い業務に従事しております。

【平成27年度の取り組み】

平成27年度は「病院会計準則」から「社会福祉法人会計」への移行、また済生会統一の会計システム「福祉の森」の稼働、という二つの大きな転換点となり、課員2名、仕訳の見直し、システム操作の習熟、関連する各種研修の参加等、多くの学びを得たとともに、業務プロセス見直しの必要性を感じた1年となりました。

【今後の目標】

平成29年度に開始される社会福祉法人「法定監査」を見据え、平成28年度も引き続き内部プロセスの再検証を行います。また経費削減のための資料としての部門別費用実績の作成、未収金管理のためのデータ整理等、事務部他課との連携をさらに密にいたします。

事務係長 武田 和博



院内ロビーコンサートに賛助出演



おたる潮まつり ねりこみ参加

施設用度課

【概要】

施設用度課では平成27年度、施設運用に係る各種マニュアルの整備、診療材料に関する採用品の整理、入札業務の推進を行いました。

【スタッフ】

五十嵐浩司（室長兼課長）

清水 雅成（主任／購買、委託管理、施設管理、契約担当）

成田 明美（主事／日用品購買担当）

豊川 哲康（主事／施設管理担当）

神山 拓也（主事／施設管理担当）

【業務内容】

- 施設に係る修繕、法定検査、自主検査の計画及び実施
- 防災センター、中央監視室の運用管理
- 診療材料、医療機器、医薬品などの購買及び在庫管理
- 各種契約業務

【部署の特徴】

施設用度課は主に施設管理と購買管理を行っており、機器・備品の故障や異常、施設管理上の異常等が発生した場合の対応部署となります。

【平成27年度の取り組み】

- 主な点検、検査
 - ・自動ドアメンテナンス（法定）
 - ・電気工作物点検（法定）
 - ・医療ガス設備点検（法定）
 - ・消防設備点検（法定）
 - ・貯湯槽検査（法定）
 - ・滅菌器検査（法定）
 - ・排水水質検査（法定）
 - ・受水槽水質検査（法定）
 - ・簡易専用水道検査（法定）

- ・衛生管理業務（鼠虫防除）（法定）
- ・除外設備清掃（グリーストラップ）（法定）
- ・「はかり」定期検査（法定）
- ・液酸タンク定期点検（法定）
- ・作業環境測定（法定）
- ・煤煙測定（法定）

○各種マニュアルの整備

- ・BCP（事業継続計画）
- ・防災マニュアル
- ・暴力対応マニュアル
- ・停電時対応マニュアル

○各種訓練

- ・防火訓練（総合訓練）
- ・消防主催の防火訓練指導参加
- ・緊急連絡網訓練
- ・病棟別平行避難訓練
- ・透析室避難訓練

○新規点検

- ・フロン排出抑制法の改訂に伴い、フロン使用機器の点検業務
- ・車椅子（125台）の他に歩行器、ストレッチャーの定期点検
- ・医療ガスレギュレーター管理と点検

○エネルギー

- ・電力デマンドシステムを導入し目標電力600k w以下を達成（前年622k w⇒598k w）

○実施入札

- ・8月：超音波内視鏡システム一式（平成27年度補助事業計画（日本財団））
- ・10月：筋電図・誘発電位検査装置一式
- ・11月：済生会小樽病院除排雪請負業務

○費用削減

- ・本部共同購入専門小委員会：12,210円
- ・ブロック別共同購入推奨品：780,460円
- ・独自交渉による削減：2,503,560円



○その他

- ・携帯内線網「オフィスリンク」整備

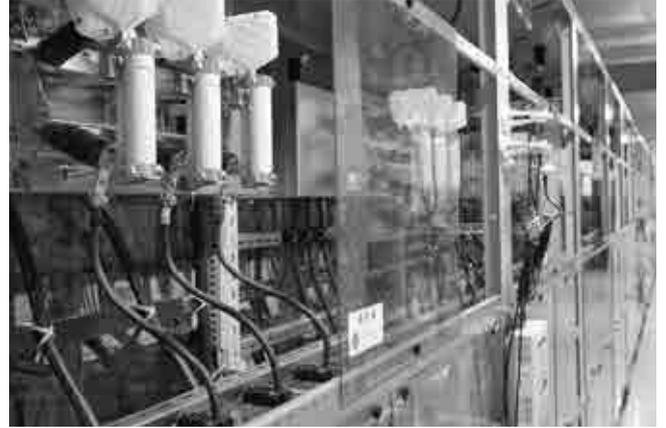
【今後の目標】

当課の業務目標は2つ、安心してご利用いただける施設を維持していくこと、そして健全な病院運営のため費用削減を常に意識し、無駄を省いていくことです。

主任 清水 雅成



この2点はこれで良いということではなく、常に日々新しいことを考え実践していかなければなりません。今後の目標はチーム一丸となって防災に対する備蓄品整備の強化や各種訓練を進めていくことと、済生会のスケールメリットを生かした購買業務に注力していきます。



旧病院と新病院の設備の違いについて

施設用度課 豊川 哲康

病院が新築移転され、設備系では旧病院と比較し、まずボイラーが冷温水機やエアコンに暖房の主体を移行する形で台数が4台から2台へ減少。また、運転はコンピューター制御による全自動化が更に進化し、国家資格も不要なボイラーのみとなりました。

次に、空調は旧病院では一部しか無かったものが新病院では全館に配置され、更に中央監視による遠隔集中管理出来るものへと大きく進化しました。

また、防災に関しては、火災時に自動放送・通報される防災監視盤・出入口やエレベーター等の映像を録画する監視カメラ・各出入口の電子錠管理システムを備える「防災センター」を設置。

その他、共用部の照明も集中管理システムが導入され遠隔操作やタイマーでのON・OFFが可能となる等、多くの設備が最新化・コンピューター制御化されました。

それに伴い、施設系の業務もシステムを効率よく運用して、より省エネ・低コストを目指すマネジメント

に変わってきています。また、新築より間もなく3年を迎え、今後は多額の費用が見込まれる設備更新の年次計画の策定等も重要な業務となります。

設備管理では、快適性や余裕を求めるとより多くのコストが発生し、コストを追求しすぎると快適性が損なわれたり業務に支障が出るといった課題が常に付きまとうと思いますが、今後も多くの方々の意見・要望を聞き、各部署と相談の上、患者さん・職員ともに出来るだけ満足のいく環境提供に努めたいと思います。



医 事 課

【概 要】

医事係（入院請求グループ・外来請求グループ・医療サービスグループ）医療情報管理係

【スタッフ紹介】

医事課長（事務部長兼任）

係 長 阿 畠 亮

主 任 村 上 京 子・柴 田 幸 子

入院請求グループ 5名（うち病棟クラーク3名）

外来請求グループ 4名

医療情報管理係 4名

【業務内容】

入院請求グループは入院患者さんの請求書作成、レセプト作成、病棟事務業務を主な業務としております。

外来請求グループは外来患者さんの受付、計算、料金徴収、レセプト作成を主な業務としております。

医療サービスグループはフロアスタッフとして来院された患者さんやそのご家族等のご案内をはじめ、患者さんの介助や院内の環境整備などを主な業務としております。

その他、医事課には施設基準の管理・入金の管理・各種統計業務・現金管理などの管理業務もごさいます。

【部署の特徴】

医事課は昨今の目まぐるしく変化する医療政策・制度を理解しながら正確な診療報酬請求を実施していく事が重要な業務となっております。

【平成27年度の取り組み】

未収金の回収・査定対策

【今後の目標】

平成28年度の診療報酬改定へ向けた対応。指導料・管理料の算定率向上。

DPC準備プロジェクトの稼働。各業務のマニュアル化を徹底し医事課職員のレベル向上を図り、医療情勢・制度・政策・診療報酬等のプロフェッショナルを目指し患者さんに満足していただけるような対応をする。また業務の可視化やデータの活用・分析をすることで医療への貢献と経営参画を目標としております。

事務係長 阿 畠 亮

医療クラーク課

【概要】

医療クラーク課では、医師事務作業補助業務を行っています。

【スタッフ紹介】

医療クラーク課長（健診課長兼務）

医療クラーク業務：15名（うち職員4名）

受付業務：半日勤務者5名

【部署の特徴】

午前には主に外来診察補助業務を中心に行っています。

各ブロック受付・各外来診察室・内視鏡室・中央処置室にスタッフを配置し、医師や看護師の事務的作業軽減になるよう各種検査等のオーダー代行入力や入院時のオーダー代行入力を行っています。午後からは外来診察補助業務はもちろんですが、診断書等の文書作成補助業務や医師が作成した完成書類の処理等行い14時～16時までには、予約センターにて患者さんの診察予約や予約変更業務なども行っております。

【平成27年度 実績】

文書取扱い件数 (件)

診断書(入院証明書・通院証明書等)	1,761
診断書(当院書式)	368
身体障害者診断書	83
特定疾患個人調査票	258
労災書類(照会書・意見書等)	252
介護保険主治医意見書	1,133
医療要否意見書(生保)	3,114
その他	605
合 計	7,574

診断書収益 (円)

4月	1,040,700	10月	1,001,900		
5月	750,500	11月	944,800		
6月	842,620	12月	991,660		
7月	833,760	1月	898,780		
8月	857,740	2月	905,040		
9月	746,120	3月	1,097,940	合計	10,911,560

【平成27年度の取り組み】

外来各ブロック内で、担当医師のみではなく他の医師の診察も見学することでお互いの業務を知り自身のスキルUP出来るよう努めました。

【今後の目標】

患者さんが安心して治療に専念出来る環境作りのサポートをして行くこと、医師・看護師の事務作業をより負担軽減する為に、各スタッフのコミュニケーション能力を高めていくこと、文書業務の作業効率の向上を目指しスキルUPを図って行きます。

課長 高橋明日美

健康診断課

【概要】

健康診断課では、主に各種健康診断を行っています。

【スタッフの紹介】

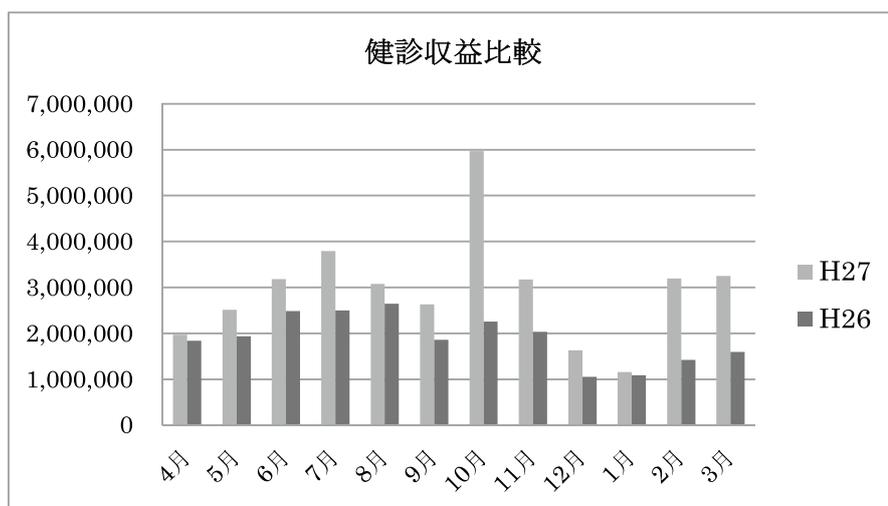
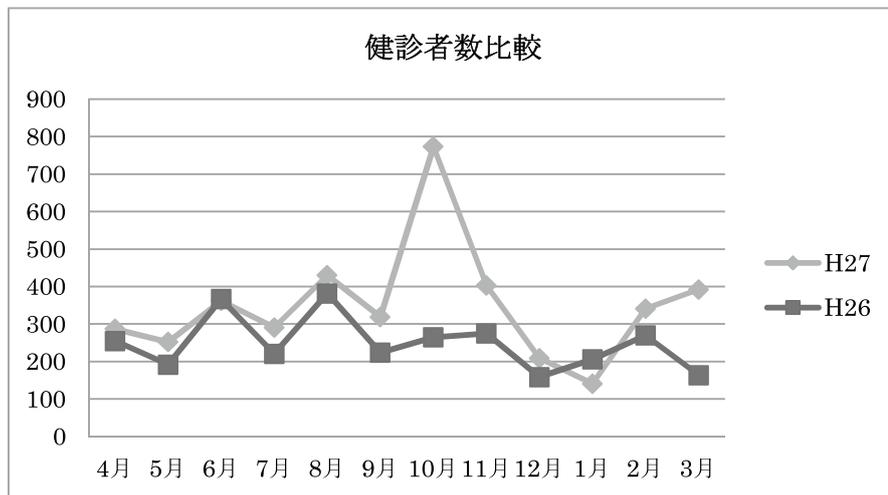
医師：小田垣榮之輔、水越 常德
 非常勤：濱本 英剛、伊庭 裕
 産業医：近藤 真章、堀田 浩貴
 健診課長：医療クラーク課長兼務
 健診係：2名（職員1名）

【部署の特徴】

個人の健診・企業健診を中心に、特定保険健診・生活習慣病予防健診や人間ドック、小樽市から委託されている、大腸がん・乳がん・子宮がん検診や5月～11月の間は早朝検診（小樽の検診）もを行っています。
 また、職員の健康診断もを行っています。

【平成27年度 実績】

	生活習慣病 予防検診	特定保険健診	人間ドック	企業健診	一般健診	ちょこっと 健診	合計
人数(人)	525	777	85	2,019	358	436	4,200
収益(円)	9,481,766	5,346,711	2,988,722	15,087,802	2,342,186	307,500	35,554,687



【平成27年度の取り組み】

『ちょこっと健診』のアピールを積極的に行い、項目に骨密度検査を新規に入れたこともあり『ちょこっと健診』の健診者数は1.7倍に上がりました。

また、健診希望者のニーズに合わせることで出来るオプション項目も増やし、健診者数・収益ともに増加しました。

【今後の目標】

企業健診の新規開拓を引き続き行くと共に、外国人の健診希望者への受け入れ対応が出来るよう、各部門との調整に努めて行きたいと思っております。

課長 高橋明日美

5年間を振り返って

健康診断課 焼田久美子

ずっとホテル等のサービス業をしていた私が医療業界に入ったのは5年前、子育てと仕事の両立を目指し、医療事務の資格を取得。たまたま求人があった済生会小樽病院を受け現在に至ります。

5年というとすっかりベテラン!と思うでしょうが、カルテ庫、病棟事務、文書担当、フロアマネージャー、外来受付、医療クラーク、新患受付…。色々な所を半年～1年おきに異動する為、仕事を覚えるは異動、覚えるは異動を繰り返してきました。初めは「せっかく仕事を覚えたのに異動かぁ」とネガティ

ブに捉えてしまっていたのですが、年数が経って来ると色々な部署の状況が想像でき、仕事をするうえでとても役立っていることに気付きました。

現在、健診室を担当するようになり1年。この1年間健康診断を増やす事を目標に、業務の見直しなど出来る事から進めてきました。院内の様々な方にご協力頂き、健診数や収益は増加となりましたが、まだまだ出来ることはたくさんあります。目先の目標としてはストレスチェック健診の運用を構築することです。2015年12月より労働者が50人以上の事業所は1年に1度ストレスチェックを実施することが厚生労働省により義務付けられました。どこの医療機関・健診機関も行うに当たりまだ手探りで実施まで至っていない状況です。運用方法を早く確立し、企業にアピールしていこうと思っております。



地域医療支援課

【概要】

地域医療連携と医療相談を担当している部門です。

【スタッフ紹介】

課長 1名
社会福祉士 4名
事務職員 1名

【業務内容】

業務としては他医療機関・施設との前方連携・後方連携を図り当院における入院・退院の調整、また外来の受診予約をスムーズに行う業務、並びに無料・低額診療事業に関する相談・基準管理等を主な業務としております。

さらに地域での医療連携協議会や研修会などの様々な活動に参加し地域包括ケアシステム構築へ向けて連携を図っています。

【部署の特徴】

社会福祉士と事務職員が相互に業務の連携を行っており病床管理業務にも携わっています。

【平成27年度の取り組み】

無料・低額診療の基準達成
出前健康教室の開催
更生保護施設への健診活動
相談業務の困難症例について事例検討会の開催
当院の情報発信

【今後の目標】

平成28年度の診療報酬改定に向けた取り組みをします。具体的には退院支援加算1算定に向けた届出及び算定までのシステム構築をし、退院支援業務を標準化します。

課長 三上 亨

学びの1年

地域医療支援課 佐藤 愛友

大学を卒業し、当院・地域医療支援課に入職致しました。ソーシャルワーカーとしては勿論、社会人としても1年目である私にとって、今年度は大きな学びを得る年となりました。

当初は何をするにも先輩方から助言や指導をいただかなければ動けない状況でしたが、病院の仕組みや各専門職についての理解を深めみずから思考し迅速に動くという姿勢が大切であると学ぶに至りました。

また患者さんとの関わりの中では、一人一人の患者さんのお話を伺っているうち、悩みの背景や生活歴などが実に千差万別であることにも悩みました。

ソーシャルワークについて勉強してきた身ですが、実際に現場で専門職として患者さんと向き合ったときに自分の無知・無力さに気づかされ、どうすればお力になることができるのか、今でも暗中模索している状況です。

様々な制度改正が重ねられ、今や我が国は「地域(在宅)生活」に主眼が置かれる時代を迎えつつあります。愛着のある地域で大切な人々と共に暮らしていく喜びがある一方、そうした生活を送るためのサポートや社

会資源にまで結びつかずやむを得ないかたちで地域を離れる方々がいらっしゃるのもまた実情です。

地域医療支援課では、退院調整スタッフが患者さんの受診・入院の早期段階から患者さんにかかわらせていただき、安心して安全な生活を送るためのお手伝いをしております。今後は退院支援加算1の取得等のサポート体制パワーアップに向け、スタッフ一丸となって取り組んで参ります。

終わりになりますが、地域医療支援課スタッフの一員として、一ソーシャルワーカーとして、これまで学び得たことを十二分に活かし皆様のお役に立てるよう一層邁進する所存です。



(前列右が筆者)

各委員会・診療チーム

NST委員会

【メンバー】

	H27.4~12	H28.1~3
Chairman	長谷川 格 医師	
Sub Chairman	笠井 一憲 薬剤師	安達 秀樹 医師
Director	西谷 淳 理学療法士	多田 梨保 管理栄養士
Sub Director	多田 梨保 管理栄養士	中山 祐子 看護師

- ・ 医師…長谷川 格、安達 秀樹、明石 浩史
 - ・ 管理栄養士…多田 梨保、権城 泉、東 紗貴
松村亜貴子、奥嶋寿美子
 - ・ 看護師…中山 祐子、中村 実菜、会津 郁美
小野寺由美、浪岡 真以、佐々木智美
 - ・ 薬剤師…鈴木 景就、笠井 一憲
 - ・ 臨床検査技師…辻田 早苗、逢坂裕美子、高橋 賢規
 - ・ 理学療法士…西谷 淳、松村 真満
 - ・ 言語聴覚士…須藤 榮
 - ・ 社会福祉士…吉田みのり
 - ・ 医事課…柴田 幸子
- ◆日本静脈経腸栄養学会認定医…長谷川 格
 - ◆日本静脈経腸栄養学会TNT研修修了（医師）…
明石 浩史、安達 秀樹、高田美喜生、長谷川 格
松谷 学、水越 常德、宮地 敏樹、目良 紳介
 - ◆日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士…
東 紗貴、逢坂裕美子、笠井 一憲、権城 泉
鈴木 景就、須藤 榮、多田 梨保、辻田 早苗
中山 祐子、西谷 淳

【活動内容】

- ◆カンファレンス・回診…毎週火曜日8：15～（第2火曜日は12：45～）
- ◆委員会…毎月第2火曜日8：15～
- ◆勉強会の開催
○小樽Metabolic Club…毎月第2火曜日18：00～19：00

回数	開催日	内容	演者	参加人数
第92回	4月14日	『NSTとは？』（初心者向け）	西谷 淳 理学療法士 多田 梨保 管理栄養士 笠井 一憲 薬剤師 逢坂裕美子 臨床検査技師 中山 祐子 看護師	30名 院外 1名 院内29名
第93回	5月12日	『SGA・ODA』（初心者向け）	長谷川 格 医師	24名 院外 0名 院内24名
第94回	6月9日	『平成26年度 年次報告』 ・ 栄養剤チーム ・ 地域連携・広報チーム ・ 呼吸・摂食チーム ・ がん診療推進室連携チーム ・ 教育チーム ・ アウトカム	笠井 一憲 薬剤師 中山 祐子 看護師 須藤 榮 言語聴覚士 鈴木 景就 薬剤師 逢坂裕美子 臨床検査技師 長谷川 格 医師	17名 院外 0名 院内17名
第95回	7月14日	『下痢について考える～腸内フローラの視点から～』	株式会社クリニコ 飯島 一樹 様	19名 院外 4名 院内15名
第96回	8月11日	『夏の暑さに打ち勝つための栄養管理！～これを知っていれば、今年の夏は一味違います～』	多田 梨保 管理栄養士	26名 院外 6名 院内20名

第97回	9月8日	『PENSA (アジア静脈経腸栄養学会学術大会)報告』	西谷 淳 理学療法士	19名 院外 0名 院内19名
第98回	10月13日	『栄養補助食品が変わった!!』	(株)明治 栄養販売課 我妻 綾子 管理栄養士	22名 院外 4名 院内18名
第99回	12月8日	『患者さんの栄養状態を看よう!』	中山 祐子 看護師	19名 院外 9名 院内10名
第101回	2月9日	『予演会』 演題1. 『外来理学療法におけるリハビリテーション栄養アプローチとリスクマネジメント』 演題2. 『強直性脊椎骨増殖症(ASH)における骨棘切除術後も経口摂取確立まで長期の嚥下リハを要した一症例』 演題3. 『血液透析患者に施行した経管栄養・3症例の検討』	西谷 淳 理学療法士 須藤 榮 言語聴覚士 安達 秀樹 医師	15名 院外 4名 院内11名
第102回	3月8日	『平成27年度 年次報告』 ・栄養剤チーム ・地域連携・広報チーム ・呼吸・摂食チーム ・がん診療推進室連携チーム ・教育チーム ・アウトカム	笠井 一憲 薬剤師 中山 祐子 看護師 須藤 榮 言語聴覚士 鈴木 景就 薬剤師 逢坂裕美子 臨床検査技師 長谷川 格 医師	20名 院外 5名 院内15名

○地域連携懇話会…年1回18:30~19:30

回数	開催日	内容	演者	参加人数
第8回	6月26日(金)	「高齢者の問題それがムセナンデス!」 演題1. 見逃すな!危険な嚥下 今日からできる 簡単嚥下トレーニング 演題2. ムセにくい食事の工夫 ~その秘密教えます~ [おまけ:量はそのままカロリーアップ術]	志田 瑛梨 言語聴覚士 松村亜貴子 管理栄養士	43名 院外23名 院内20名

○小樽・後志静脈経腸栄養講演会…年1回15:00~17:00

回数	開催日	内容	演者	参加人数
第3回	1月30日(土)	一般演題. 『当院におけるNSTの取り組み—過去と今後の展望(新旧ディレクターから)』 特別講演. 『がん終末期における栄養学的特徴を知ろう!~緩和ケアにおいてNSTはどう関わるの?~』	・座長 中山 祐子 看護師 ・演者 西谷 淳 理学療法士 多田 梨保 管理栄養士 ・座長 長谷川 格 医師 ・演者 時計台記念病院 緩和ケアセンター長 兎玉 佳之 医師	43名 院外32名 院内11名

◆NST実地修練の受け入れ

開催日	受け入れ職種・人数
10月20日～22日、 10月27日～29日 の計6日間	管理栄養士…1名 看護師…3名 の計4名

◆NSTニュース…5月・12月・3月発行

【今年度の取り組み】

- ◆2006年に日本静脈経腸栄養学会認定実地修練教育認定施設を取得し、これまで多数の実地修練受け入れを行ってきましたが、今年度これまでの実地修練カリキュラムを見直し他院より4名の受け入れを実施しました。
- ◆平成17年より開催している勉強会「小樽Metabolic Club」が第100回を迎えました。記念すべき第100回講演は第3回小樽・後志静脈経腸栄養講演会と同時開催とし、時計台記念病院 緩和ケアセンター長 児玉 佳之 医師を講師にお迎えしました。平成17年に当院がNSTを立ち上げてすぐに開いた講演会にて、児玉先生にご講演をいただいたご縁もあり、記念講演にふさわしい先生をお迎えすることができました。
- ◆Directorの交代があり、1月よりNSTの運営方法を大きく見直しました。NST専門療法士とリンクナース（病棟看護師）との連携を深めることを目標とし、これまで講堂で行っていたカンファレンスの場を病棟へ移し、リンクナース（病棟看護師）の参加を促し、患者情報を収集しやすい環境へと変更しました。

- ◆NSTのビジョンを『可能な限り消化管を使った栄養管理を実施し、適切な栄養投与で栄養状態の改善に努める！』とし、今一度NSTがやらなければならない事を明確にしました。

- ◆NSTをもっと身近に感じられるように、栄養の意味「ニュートリション」にちなんだ『ニュート君』というキャラクターをオリジナルで考案しました。



【今後の目標】

- ◆より質の高い栄養療法を提供できるように、NST専門療法士のスキルアップを図る。
- ◆病院スタッフ誰もが「この患者さんの栄養状態はどうか」という事に、自然と意識が向くような環境作りを、NSTメンバー全員で力を合わせ「ニュート君」と一緒に目指します。

栄養管理室 技術係長 多田 梨保

院内感染予防対策委員会

【メンバー】

委員会責任者 和田 卓郎
委員長 堀田 浩貴
病院長 近藤 真章
医師 水越 常德、安達 秀樹
看護部 大橋とも子（副委員長） 他9名
医療技術部 野村 信平 他8名
事務部 櫛引 久丸 他4名
透析液安全管理者 笹山 貴司
○ICD（Infection Control Doctor）
堀田 浩貴、水越 常德
○抗菌化学療法認定医 堀田 浩貴
○抗菌化学療法認定薬剤師 小野 徹
○感染制御認定薬剤師 小野 徹

≪ICT（感染対策チーム）≫

医師 堀田 浩貴
看護師 澤 裕美
薬剤師 小野 徹
臨床検査技師 逢坂裕美子
事務職 浦見 悦子

【部署の特徴】

ノロウイルス、インフルエンザなどに代表される院内感染は、感染者に様々な不利益をもたらすばかりではなく、病院そのものにも多大な影響を与えます。過去に生じた大きなアウトブレイクを二度と起こさないように、各部署より選ばれた精鋭の委員からなる委員会は月に一回、原則最終木曜日に開催されております。ただし、院内感染が懸念されるような場合には、直ちに緊急の委員会が招集されます。

定例の委員会では、一ヶ月間の院内での感染症発生状況、小樽市内での注意すべき感染症、日本ならびに世界でのトピックなど幅広い話題について、抗菌薬の使用状況、ICTラウンド時の写真などととも発表・解説を行っております。院内感染を予防するにあたり必要な対策を講じ、また啓蒙を行うのがこの委員会の大きな使命です。

27年度より札幌医科大学感染制御部より西 朝江感染管理認定看護師を感染対策指導者として招聘しており、感染対策チームの指導や感染対策委員会への提言等当院感染対策部門のレベルアップに貢献して頂いております。

【平成27年度の取り組み】

（患者数・手術件数などは、別項目にて記載します）

○委員会開催
定例 12回

○感染研修会

平成27年10月30日（金）
演題名：「感染制御の心」
講師：滝川市立病院 松川 雅則 先生

平成28年3月23日（金）

演題名：①「手術部位感染対策を考える」
②「大丈夫ですか？尿をめぐる感染防止対策」
③「血流感染対策について考える」

動画：環境感染学会 教育動画
解説：堀田 浩貴 委員長

○院内感染対策マニュアル
第3改訂 発行

【今後の目標】

今後もアウトブレイクを起こさない事を目標に取り組みます。また流行の兆しを速やかに把握し、早急な対応を取りながら感染制御活動を遂行します。

≪ICT（感染対策チーム）≫

【活動内容】

○ICTラウンド

院内の回診を行い、院内感染を発生させない安全な環境づくりに努めています。改善すべき点があれば院内感染予防対策委員会で報告し全部署で情報共有できるように努めています。

○サーベイランス（感染症調査）

院内の検出菌状況や市内の感染流行などの情報を調査し、院内感染が発生しないよう対策を行っております。また、耐性菌等が検出された場合には電子カルテ上の付箋機能を利用して情報共有を図ると共に感染対策の状況を部署の感染リンクナースに確認しています。

○抗菌薬適正使用の推進

抗菌薬の使用状況を毎朝確認し、抗菌化学療法認定薬剤師を中心に薬剤師2人で抗菌薬アセスメントを行い、処方提案や用量調整に努めています。

○地域連携

ICTは院内の活動だけではなく近隣地域との合同院内感染対策カンファレンスを行っております。当チームは札幌医大病院のカンファレンスに参加し、複数の病院と感染対策について協議を行っております。また、講習会にも参加し、新たな知識の習得に努めています。

【今後の目標】

ICTメンバーや感染リンクナースのレベルアップに努め、レベルの高い感染制御と感染症治療支援を行っていきたくと考えています。

薬剤室 主任 小野 徹

医療安全管理対策委員会

【メンバー】

委員長 長谷川 格
医療安全管理者 2名
診療部 1名
看護部 9名
医療技術部 6名
事務部 4名
医療安全管理室 2名
医薬品安全管理者 1名
医療機器安全管理責任者 1名

【医療安全セミナー】

- ①開催日：平成27年10月7日（水）
18:00～19:35
講習内容：病院での医療安全体制づくりと院内事故調査
講師：東邦大学医学部社会学講座 教授 長谷川友紀 先生
参加者人数：244名（外部参加者38名）
- ②開催日：平成28年1月14日（木）
18:00～18:45
講習内容：穿刺に伴う末梢神経損傷の予防・対策
講師：済生会小樽病院 副院長 和田 卓郎 先生
参加者人数：162名（外部参加者6名）

【レポート報告件数】

①報告総数：494件（前年度比 +16%）

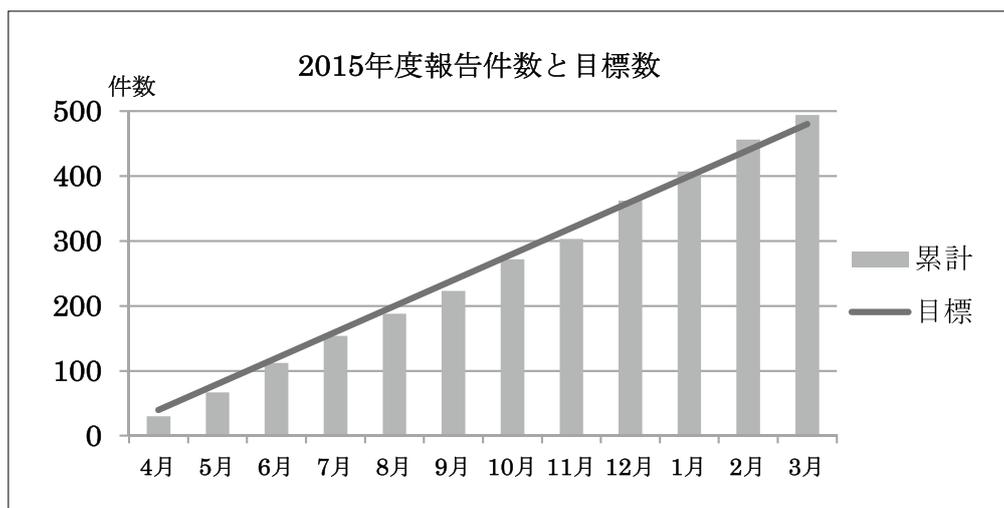
②針刺し事故報告件数：3件

③ヒヤリハット分類別報告件数 TOP5（()内は全体に対する割合）

- 1：転倒：153件（31.0%）
- 2：食事と栄養：53件（10.7%）
- 3：転落：51件（10.3%）
- 4：与薬（注射・点滴）：47件（9.5%）
- 5：与薬（内服・外用）：35件（7.1%）

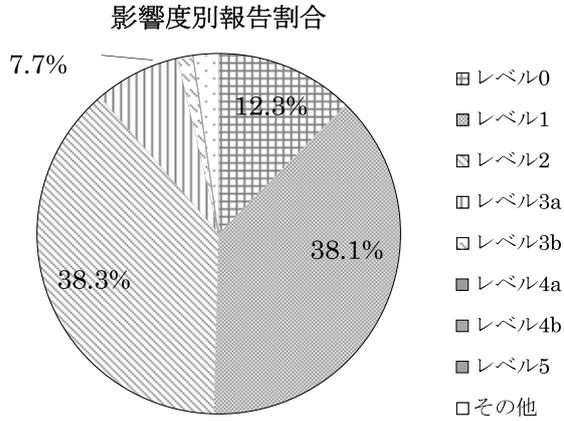
④目標インシデント報告件数と実績について

インシデント報告件数を昨年度の+10%とし、年間480件（40件/月）を目標値と設定した。

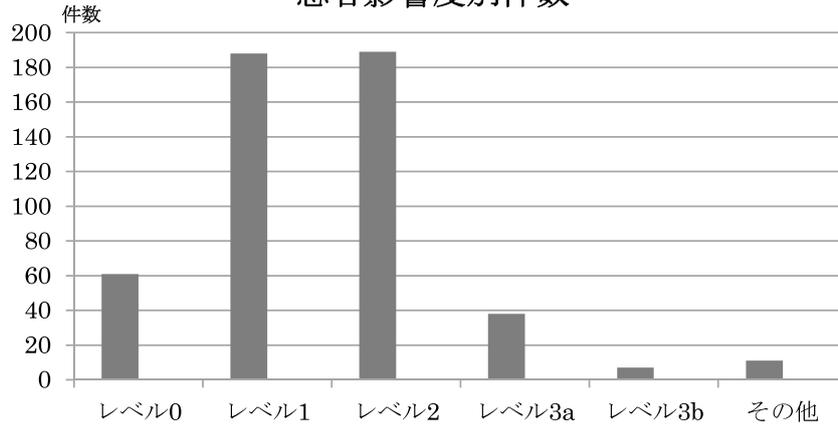


⑤影響度別件数と全報告に対する割合

患者影響度	件数	報告割合
レベル0	61件	12.3%
レベル1	189件	38.3%
レベル2	188件	38.1%
レベル3a	38件	7.7%
レベル3b	7件	1.4%
レベル4a	0件	0.0%
レベル4b	0件	0.0%
レベル5	0件	0.0%
その他	11件	2.2%

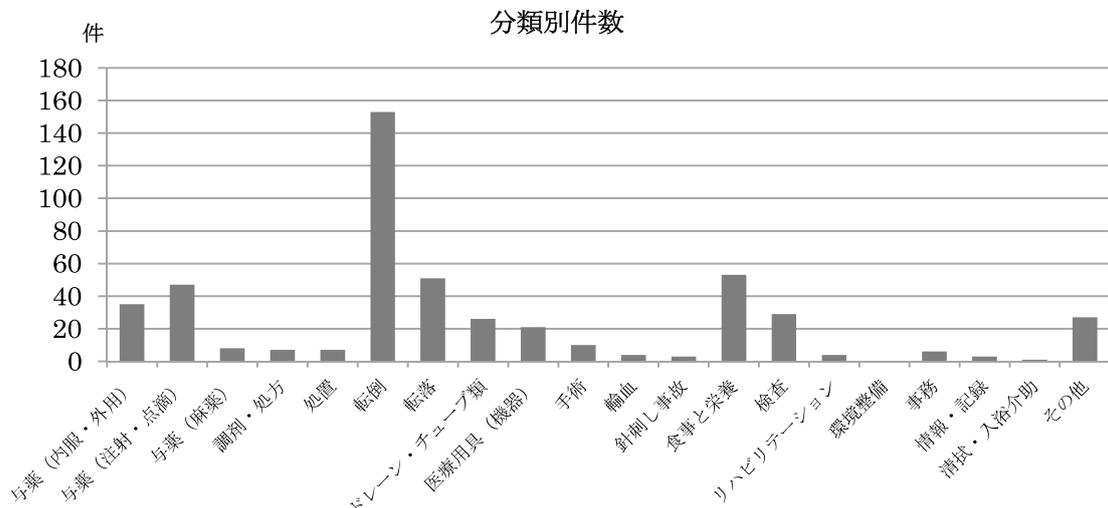


患者影響度別件数



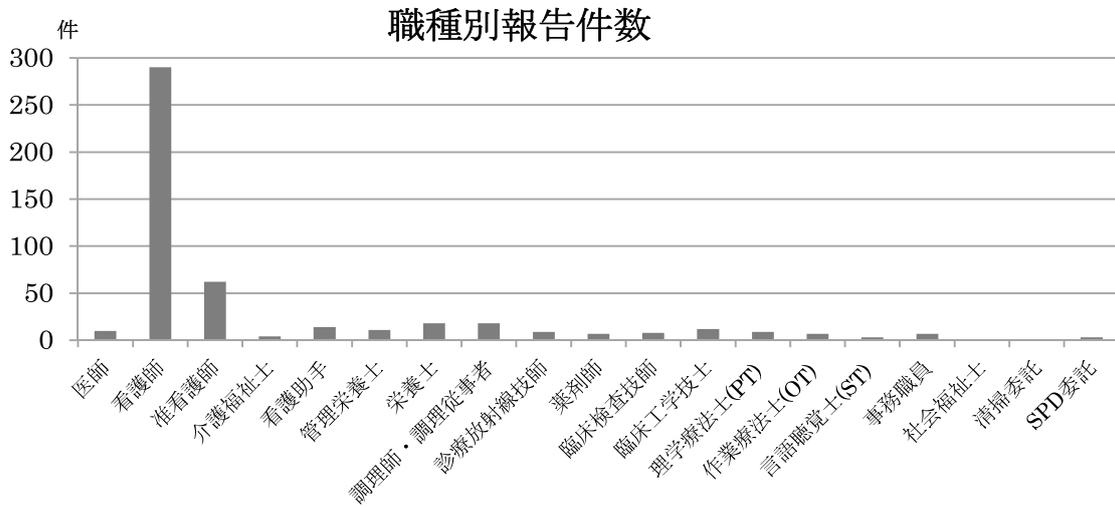
⑥分類別件数と全報告に対する割合

分類	件数	報告割合	分類	件数	報告割合
与薬(内服・外用)	35件	7.1%	手術	10件	2.0%
与薬(注射・点滴)	47件	9.5%	輸血	4件	0.81%
与薬(麻薬)	8件	1.6%	針刺し事故	3件	0.6%
調剤	3件	0.6%	食事と栄養	53件	10.7%
処方	4件	0.8%	検査	29件	5.9%
処置	7件	1.4%	リハビリテーション	4件	0.8%
転倒	153件	31.0%	事務	6件	1.21%
転落	51件	10.3%	情報・記録	3件	0.6%
ドレイン・チューブ類	26件	5.3%	清拭・入浴介助等	1件	0.2%
医療用具(機器)	21件	4.3%	その他	26件	5.3%



⑦職種別報告件数

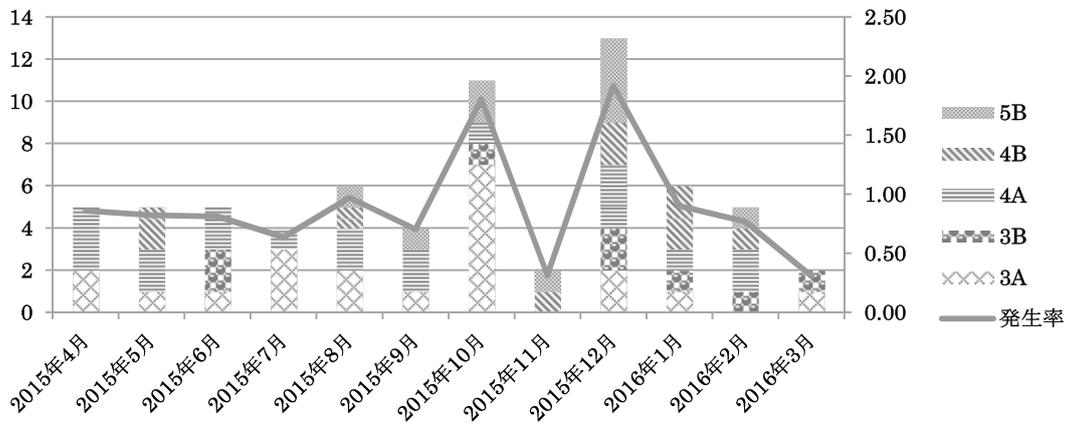
職種	医師	看護師	准看護師	介護福祉士	看護助手	管理栄養士	調理委託	診療放射線技師	薬剤師
件数	10件	290件	62件	4件	14件	11件	36件	9件	7件
職種	臨床検査技師	臨床工学技士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	技術助手	事務職員	社会福祉士	外部委託
件数	8件	12件	9件	7件	3件	2件	8件	1件	4件



【クリニカルインディケータ】

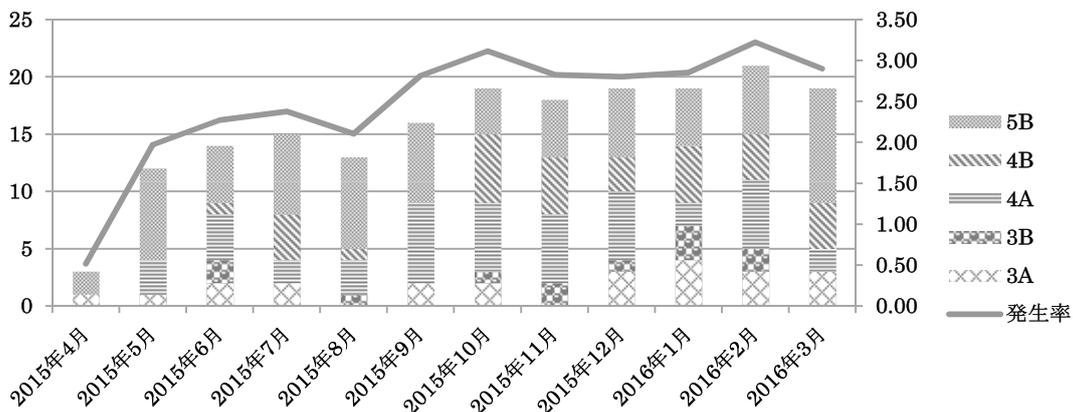
①薬剤インシデント

薬剤インシデント件数及び入院患者発生率



②転倒・転落インシデント

転倒・転落件数及び入院患者発生率



褥瘡対策委員会

【メンバー】

委員長：三名木整形外科部長

看護部：谷川原智恵子（手術室看護課長）、根布 実穂（皮膚・排泄ケア認定看護師、5 B病棟）、若松めぐみ（外来）、齋藤明日香（3 A病棟）、梅田真知子（3 B病棟）、高野恵津子（4 A病棟）、藤井 幸（4 B病棟）

医療技術部：木谷 洋介（臨床検査室主任）、松村亜貴子（栄養管理室）、米田健太郎（リハビリテーション室）、林 和代（リハビリテーション室）

事務部：清水 雅成（施設用度課主任）、成田 明美（施設用度課）

【活動内容】

褥瘡は難治性の創傷であり、一度発生すると完治するまでに時間を要するものです。褥瘡が治癒しないために入院期間が長くなり、身体的・精神的苦痛を伴います。

当院では新規褥瘡発生予防と発生時早期治癒を目標に以下の活動を行っています。

1. 毎月第3木曜日に委員会を開催
2. 有褥瘡患者に対し、週1回病棟担当医師が褥瘡回診を実施
3. 年2回褥瘡対策に関する勉強会を実施
4. 体圧分散寝具のへたりチェックを実施

【平成27年度の取り組み】

◎病院機能評価受審に伴い、マニュアルの全面改訂と「褥瘡対策に関する診療計画書」の変更を行いました。

◎今年度の勉強会

1. 第1回 平成27年10月15日（木）

参加人数：54名

「基本にかえろう！褥瘡ケア」

皮膚・排泄ケア認定看護師 根布 実穂



2. 第2回 平成28年3月28日（月）

参加人数：32名

「身体の圧の影響と対策」

株式会社モルテン 小林 幸稔 氏



【今後の目標】

◎現在、小樽市は37%を超える高齢化率となっていて、当院の平均年齢も69.5歳となっています。褥瘡発生リスクは非常に高い状態であり、発生予防を徹底して実施していきます。

看護部 皮膚・排泄ケア認定看護師 根布 実穂

クリニカルパス委員会

【概要】

平成18年よりクリニカルパス部会として発足し、紙カルテ期よりクリニカルパス作成に従事し済生会小樽病院の医療の標準化、患者インフォームドコンセントの充実の支援をしております。平成25年から電子カルテ移行に伴いクリニカルパスも電子化へと移行しております。

【スタッフ】

委員長：目良 紳介
 医師：5名
 看護師：12名
 薬剤師：1名、放射線技師：1名、臨床検査技師：1名、臨床工学技士：1名、理学療法士：2名、作業療法士：1名、管理栄養士：1名、事務職員：3名

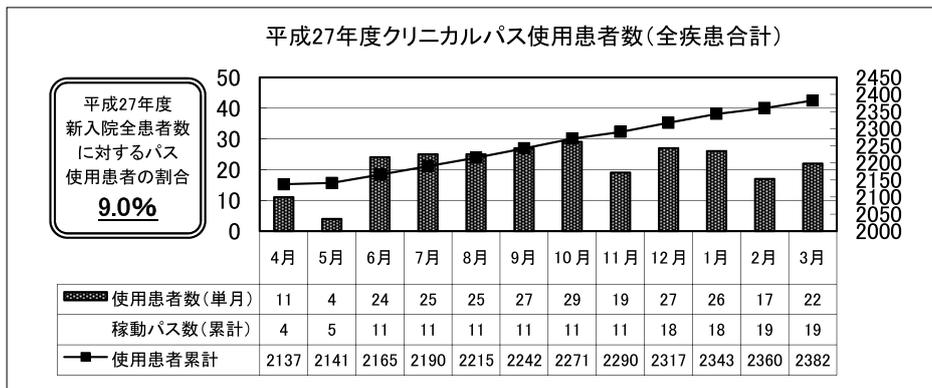
【業務内容】

済生会小樽病院の医療の標準化に向けたツールとしてクリニカルパスの作成、運用方法の検討、クリニカルパスの啓蒙、質の改善（バリエーション分析、ベンチマーキング）、患者インフォームドコンセントの充実などに従事しております。平成25年度よりクリニカルパスの電子化へも従事しております。

【当委員会の特徴】

委員会を5つのチーム（管理運用・電子化チーム、大腿骨近位部骨折パス検討チーム、バリエーション・EBM検討チーム、活動推進チーム、院内連携パス検討チーム）に編成し、各チーム単位でクリニカルパス活動の検討をしております。

【実績】



稼働クリニカルパス

胃瘻造設術（4種類）、R-CHOP療法、腹腔鏡視下胆嚢摘出術、鼠径ヘルニア手術
 腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術、膝関節鏡視下手術、左・右大腿骨近位部骨折
 前立腺生検、経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）、ESWL、尿管ステント留置・交換術
 GC（ジェムザール+シプラスチン） 計16パス

現在検討中クリニカルパス

大腸ポリープ切除術、出血性胃潰瘍・出血性十二指腸潰瘍、ERCP・EST、
 糖尿病教育入院（2種類）、インシュリン導入（2種類）、外科化学療法、甲状腺手術
 腹腔鏡下結腸切除術、腱板断裂、橈骨遠位端骨折、TKA、下肢の骨接合術後抜釘
 手根管症候群 等 計15パス

パス大会開催

平成28年2月25日

【平成27年度の取り組み】

病院機能評価受審に向け、クリニカルパス使用率向上を目指し活動を推進しました。クリニカルパス使用率向上の為に、稼働クリニカルパスを増やすことが必須となり各医療スタッフが協働して活動することで平成26年度4パス稼働であったものが、16パス稼働まで改善されました。まだ課題が残る処は多々ありますが、委員一丸となり活動することで目標に向け進むことが出来た一年となりました。

【今後の目標】

病院機能評価受審は終わりましたが、DPCに向けてクリニカルパスの必要性は更に高くなっていく為、新規パス作成、バリエーション分析、ベンチマーキングの質を向上しながら、クリニカルパス使用率向上を目指していきたいと考えております。

リハビリテーション室 技術係長 髭内 紀幸

患者サービス検討委員会

【メンバー】 21名

委員長	松江知加子（看護部）
副委員長	清水 雅成（事務部） 一條 周一（医療技術部）
事務局	伝法 俊和、焼田久美子、館林くるみ（事務部）
看護部	山本 信、臼杵 美花、岸本 悦子、 早川 優貴、藤田真由美、橋本 留美、 高橋 恵、香賀 昭子
医療技術部	小野 徹、一野 勇太、但木 勇太、 上野 直也、小梁川実沙、松村亜貴子、 奥嶋 一允

【活動内容】

患者サービスの推進向上に向けて月1回の委員会を実施、部門横断的に活動しています。今年度より、委員長が診療部の松谷副診療部長から看護部の松江にバドタッチ。これまでの活動を継承しつつ、新たな取り組みを模索しながらメンバー全員でサービス向上に取り組んで参りました。主な活動は以下の通りです。

【平成27年度の取り組み】

	活動内容	備考
5月	・ 接遇標語決定 「ほっとする やさしい笑顔と その気遣い」	サイネージ・ポスター作成
6月	・ 院内ロビーコンサート 手稲ウインドアンサンブル	1階 ロビー
9月	・ 患者満足度調査結果の院内掲示 (調査・集計は医療サービス支援室にて実施) ・ 院内携帯電話の利用エリア拡大範囲の決定	掲示：院内10か所 電波委員会より依頼
10月31日	・ アニマルセラピー 北海道介在犬研究会	2階 講堂
11月	・ 接遇投票期間 投票テーマ「すてきな気遣いができるあなたに1票」 ・ 接遇勉強会(委員会対象)	
12月	・ 接遇優良者 表彰式 ・ 接遇勉強会(委員会対象)	忘年会にて発表
接遇表彰者	患者投票 最優秀者 新井 愛未(5B) 職員投票 最優秀者 佐藤由紀枝(4A) 職員投票 2位 6名	
2月	・ 済生会プチ雪あかり 実施(雪像作成) ・ 病棟通路の写真交換	バスレーン、保育所前

27年度の新しい取り組みとしては、介在犬研究会のご協力のもと、アニマルセラピーを実施。小型～大型犬計7頭とハンドラーの方々をお迎えしました。動物との触れ合いはリラククス効果を得る、と言われていいます。当日は患者さんに笑顔が見られ、とても喜んでいただけました。短い時間ではありましたが犬と触れ合うことで安らぎの時間を持っていただけたのではないかと思います。今後もイベント等を通し、療養生活中の癒し、そして闘病意欲の促進につながるような活動を実施したいと考えています。

接遇標語は「ほっとする やさしい笑顔と その気遣い」とし、その思いが形に表れていると思われる職員を、全職員と患者さんにもご協力いただき投票行動

を実施、優秀者を表彰いたしました。接遇は日々の努力の積み重ねです。黙々と努力している職員を評価し表彰することで他職員の模範となり、院内全体のレベルアップにもつなげていきたいと思ひます。

上記以外では

- ・ 院内床屋での入院患者さんのパーマについて
 - ・ 病室の時計設置について（回復期病棟以外にも設置を検討）
 - ・ 接遇基本マニュアルの見直しについて…他
- すぐに方針が決まるものもありますが、調査をして再度審議、となるものも多く、継続的なかわりを持っています。

【今後の目標】

患者さんから選ばれる病院を目指し、よき接遇対応と、癒し・快適さを求めた療養環境の整備を行って

いきます。小さな問題を見逃さず拾い上げ、皆で検討しながら改善を進めていきたいと思っています。

アニマルセラピー



看護部 次長 松江知加子

広報委員会

【メンバー】 20名 ※平成27年4月時点

委員長 野村 信平（経営企画室）
 副委員長 中山 祐子（看護部）
 事務局 清水 雅成（事務部）
 済生記者 秋元かおり（事務部）
 医療技術部 中村 圭介、高橋 賢規、釜石 明、
 土橋 大基、多田 梨保、中村 友洋
 看護部 太田 聖子、宮下めぐみ、土田 周子、
 小田桐由梨香、伊藤 理恵、丸岡 貴子
 事務部 石橋 慶悟、葛西 淳子、坂井 智美、
 伝法 俊和（オブザーバー）

【活動内容】

広報委員会では当院の様々な広報活動について月1回の委員会を開催し、部門横断的に活動しています。今年度より、委員長交代を機に体制等も変更し、様々な広報活動に取り組んで参りました。主な活動は以下の通りです。

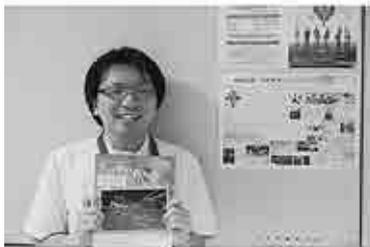
【平成27年度の取り組み】

	活動内容	備考
4月	・委員会体制の再編成(業務のグループ化) ・病院ホームページのフルリニューアル	
5月	・済生会健康セミナー開催 「実は身近な糖尿病～今日からできる血糖コントロール」	58名参加
6月	・済生会健康セミナー開催(於小樽マリンホール) 「スポーツの怪我・応急処置・トレーニングについて」 ※特別ゲスト：稲葉篤紀氏(日本ハムファイターズSCO)	500名参加
7月	・済生会健康セミナー開催 「もう一度、家で生活したい～回復期リハビリテーション病棟の挑戦」 ・院外広報紙さいせいおたる25号発行	43名参加
8月	・院外広報紙さいせいおたる26号発行	
9月	・健康フェスタin小樽開催 ※講演「防ごうロコモ、延ばそう健康寿命」(60名参加)	900名来場
10月	・院外広報紙さいせいおたる27号発行	
12月	・済生会健康セミナー開催 「トイレが近い方へのお話」 ・院外広報紙さいせいおたる28号発行	116名参加
1月	・ホームページレイアウト変更 (トップページにFacebookタイムラインを埋め込み)	
2月	・院外広報紙さいせいおたる29号発行 ・タッチパネル型サイネージ設置	

今年度は委員会運営方法の大幅な変更を行いました。具体的には、委員会メンバーを3つの小グループ(広報紙グループ・セミナーグループ・ホームページグループ)に分け、それぞれのグループにリーダーを置き、各リーダーが中心となって所管業務についての

活動を所属スタッフと共に遂行していくという仕組みへの変更を行いました。その結果、任命された各リーダーが精力的にグループをまとめながら、今まで以上に迅速かつ、質の高い成果を上げるようになりました。

グループリーダー



広報紙グループリーダー
中村 圭介
(薬剤室 薬剤師)



セミナーグループリーダー
多田 梨保
(栄養管理室 管理栄養士)



ホームページグループリーダー
石橋 慶悟
(医療サービス支援室 医事課)

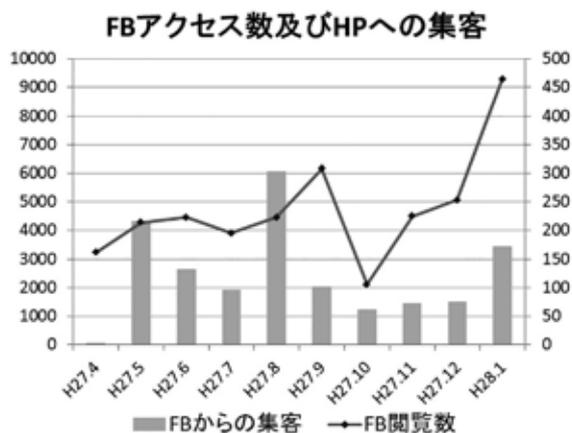
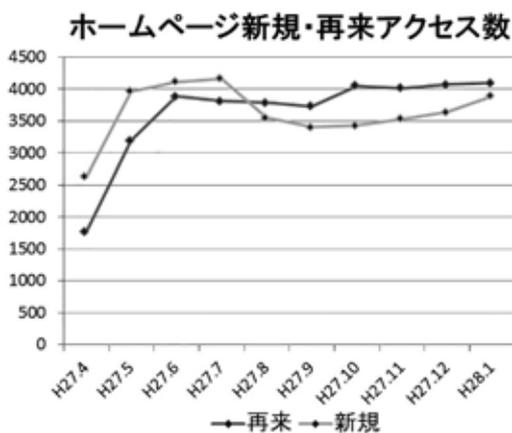
もう一つの主な取り組みとしては、委員会メンバーが全員参加で順番に担当を決め、院内行事の広報記事を作成し、ホームページやフェイスブックなどの各種広告媒体に載せていく方式にしたことが挙げられます。これにより、各スタッフの広報活動への参加意識が高まり、以前と比較して積極的にアイデア等を提案するようになっていました。また、全員が記者となることにより、記事数が大幅に増え、頻回なホームページ等の記事更新が行われ、常に患者さん等へのフレッシュな話題提供が可能となりました。

これらにより、地域住民向けの「済生会健康セミ

ナー」は年間4回、院外広報紙は年間5回発行することができました。特に院外広報紙については院内での患者配布が中心でしたが、印刷部数を倍増させ、院外の医療・介護施設等の配布先を増やすことにより、できるだけ多くの関係者に当院を知っていただけるよう取り組みを展開いたしました。

その他、主な取り組みとしては、病院ホームページのフルリニューアル、健康フェスタin小樽主催、ホームページにFacebookタイムラインを埋め込みメディア間の連携強化、外来ロビーにタッチパネル型サイネージ設置などを行いました。

ホームページ・フェイスブックのアクセス推移 (ホームページグループ)



【今後の目標】

平成28年度は、前年度の課題を改善させるため、新たに医療PRグループを追加することにより、当院の隠れた、若しくは新たな「医療の強み」を発掘し、積極的にPRに繋げていきたいと考えております。こ

のような地道な取り組みを続けながら、少しでも患者さんから選ばれる病院を目指し、様々な広報活動を進めていきたいと思ひます。

経営企画室 室長 野村 信平

内分泌・糖尿病診療センター

【メンバー】

センター長 水越 常德
看護部 早川恵美子、木藤 絢子
医療技術部 青木有希子、柴田麻里子、佐々木梨絵、
権城 泉、東 紗貴、松村亜貴子、
西谷 淳、三浦富美彦

○糖尿病療養指導士

早川恵美子、木藤 絢子、青木有希子、柴田麻里子、
権城 泉、東 紗貴、松村亜貴子、西谷 淳、
三浦富美彦

【活動内容】

当センターでは、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士など多職種でチームを組み糖尿病教育に力を入れています。定期的なセンター会議の開催やカンファレンスを行い、チーム内での情報共有も怠らず常にチームワークを大切にしています。また、市内では初めてCGMを導入し糖尿病診療に役立てています。

糖尿病療養指導士の育成にも力を入れており、現在は10名の糖尿病療養指導士が在籍し、より専門的に糖尿病教育を行える体制を整えています。

【実績】

- 糖尿病教育入院
介入件数 36件
- 糖尿病透析予防指導
指導件数 100件
- CGM装着・解析
介入件数 45件
- フットケア
介入件数 3件
- インスリン・SMBG指導
介入件数 10件

【平成27年度の取り組み】

- センター会議開催
定例 12回
- 院内勉強会
平成27年5月25日 健康セミナー
演題名：「糖尿病と言われたら」
演 者：水越 常德
演題名：「糖尿病療養指導士の立場から～当院の取り組み～」
演 者：西谷 淳、東 紗貴、柴田麻里子、
木藤 絢子
平成27年9月30日 看護部新人研修
講 師：木藤 絢子
- 院外勉強会
平成28年3月10日 第1回小樽療養指導研究会
演題名：「当院での糖尿病教育入院における理学療法士の関わり」
演 者：三浦富美彦

演題名：「当院における糖尿病透析予防指導の取り組み」
演 者：木藤 絢子
- 学会参加
平成27年8月22日
第22回全国済生会糖尿病セミナー
参 加：三浦富美彦
- 学会発表
平成28年1月9日 日本病態栄養学会
演題名：「当院における糖尿病教育入院の取り組み」
演 者：東 紗貴

平成28年2月28日 済生会学会
演題名：「当院の糖尿病教育入院患者の身体機能の特徴」
演 者：三浦富美彦

演題名：「ペン型インスリン注入用注射針の使用感の比較と各済生会支部での採用品目の実態調査」
演 者：佐々木梨絵

【今後の目標】

- 糖尿病透析予防指導件数の増加、糖尿病教育入院介入件数の増加
- 看護師の糖尿病療養指導士育成

栄養管理室 東 紗貴

緩和ケアチーム

【メンバー】

	役職・職種	氏名	専門・認定資格
診療部門	内科部長	明石 浩史	がん治療認定医
	麻酔科部長	木谷 友洋	
看護部門	主幹	石渡 明子	緩和ケア認定看護師 ELNEC-J指導者
	主任	佐野 舞	
	看護師	佐藤由紀枝	
	看護師	齋藤 亜妙	
	看護師	藤原 大地	
	看護師	高橋ありさ	
薬剤部門	係長	鈴木 景就	緩和薬物療法認定薬剤師
	薬剤師	柴田麻里子	
栄養部門	管理栄養士	東 紗貴	
リハビリ部門	主任	山中 佑香	
	作業療法士	齋藤 駿太	
事務部門	係長	阿畠 亮	
	MSW	高砂谷泰弘	

【活動内容】

当院の緩和ケアチームは緩和ケア認定看護師1名を中心とし、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、作業療法士、理学療法士、MSW、医事課職員など多職種で構成されています。症状緩和のための方法論の学習・実践・普及をそれぞれの職種が行う事を目指しています。また患者・家族に対してQOL向上のためのあらゆるアプローチを行います。そのため、①緩和ケアチー

ム回診、②カンファレンスの定期開催、③院内講演会の企画、④マニュアルの整備等を行います。また、在宅療養支援についても積極的に実施しています。

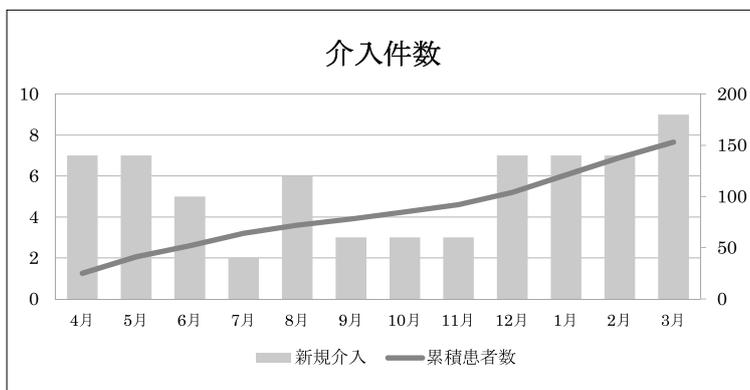
緩和ケア回診：毎週火曜日 16:30～

緩和ケアチームカンファレンス：毎週木曜日 13:30～

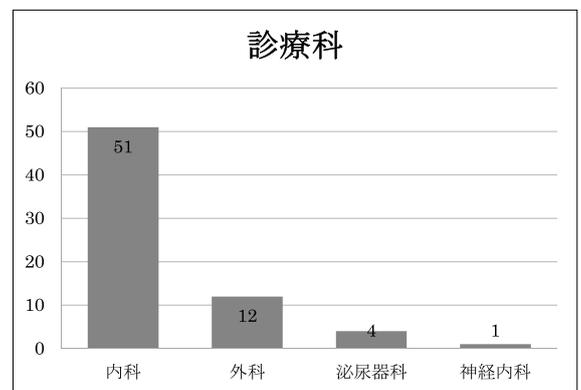
緩和ケア部会開催：毎月第2金曜日 17:30～（全12回開催）

【平成27年度実績】

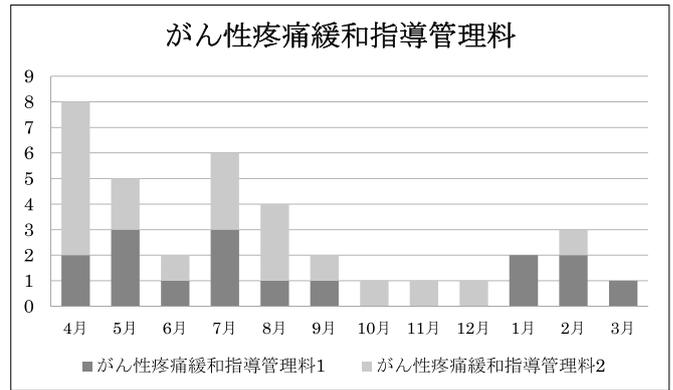
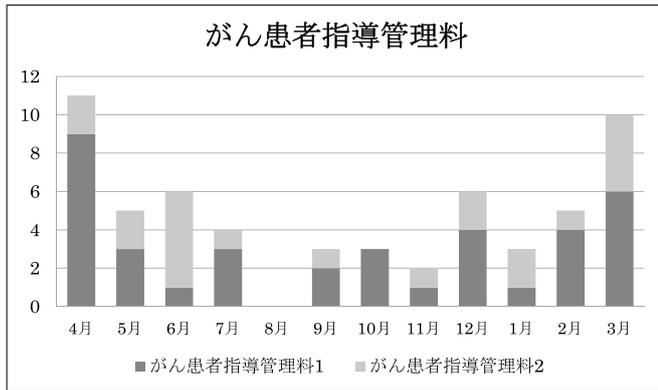
○介入件数



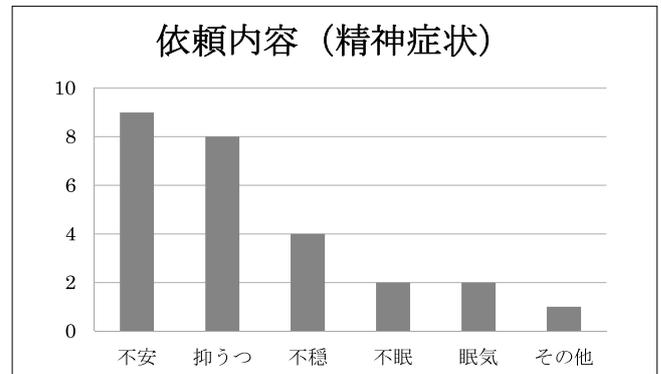
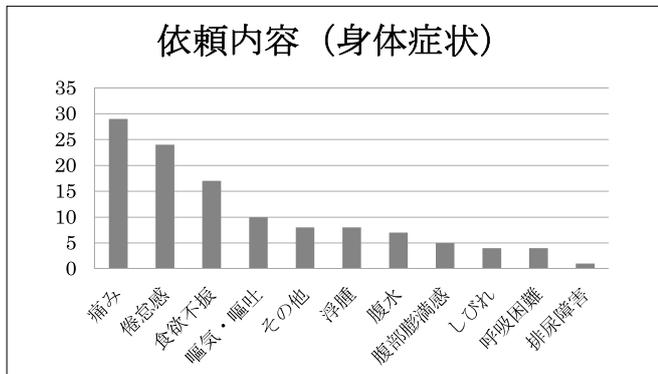
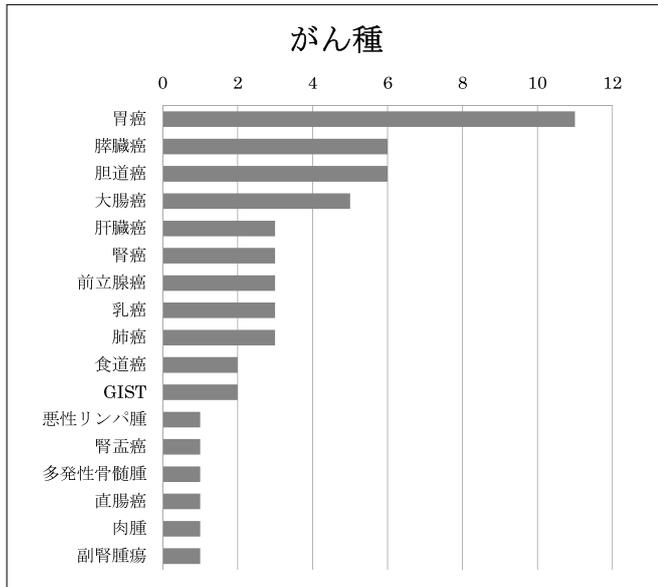
○診療科別介入件数



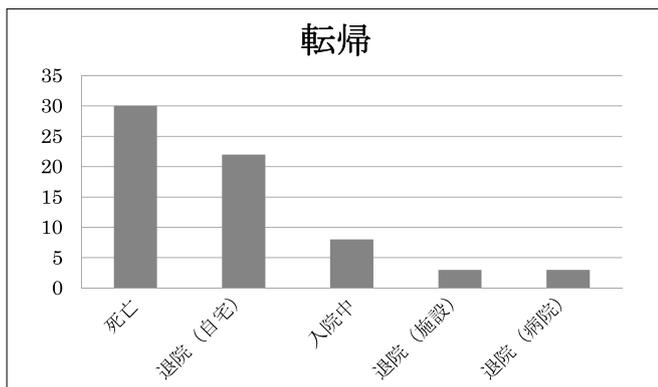
○管理料等実績



○依頼がん種、内容



○依頼患者転帰



○講演会の企画・開催

第1回（5月29日）

演題：がん患者の不眠とせん妄

講師：札幌市立病院 精神腫瘍科 上村 恵一先生

参加人数：75名（院外28名、院内47名）

第2回（9月11日）

演題：医療・ケアの質と臨床倫理

講師：北海道医療大学 石垣 靖子先生

参加人数：128名（院外38名、院内90名）

第3回（12月4日）

演題：骨転移の疼痛マネジメントについて

講師：①旭川医科大学

緩和ケア診療部 阿部 泰之先生

②いまいホームケアクリニック

院長 今井 浩平先生

参加人数：66名（院外13名、院内53名）

○第8回 済生会小樽病院 健康セミナー

平成27年4月22日（水）

もし、がんと言われたら

「がん」ってどんな病気？～原因・予防・早期発見～

講師：明石 浩史

「がん」と言われた時から

～患者と家族を支える「緩和ケア」～

講師：石渡 明子

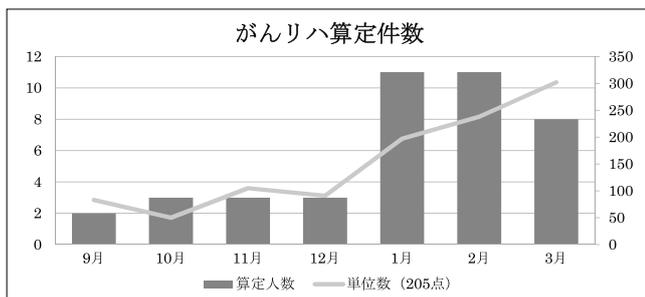
参加人数：80名

○研究発表

演題名	発表者	学会名	年月日	場所
地域中核病院における疼痛マネジメントに関する看護師の知識調査～緩和ケア認定看護師配置によりみえた課題～	石渡 明子	第21回日本緩和医療学会 学術大会	2015.6.19～20	横浜
当院でのオピオイドスイッチングの現状～オキファスト・タペンタへのスイッチングを中心に～	明石 浩史	第5回小樽後志緩和医療研究会	2015.8.5	小樽
地域中核病院における看護職員の医療用麻薬に対する意識調査と緩和ケア認定看護師による院内教育効果	石渡 明子	第46回日本看護学会 慢性期看護 学術集会	2015.9.2～3	福島
チーム作りとメディカルスタッフへの教育から援助者を援助する	石渡 明子	対人援助・スピリチュアケア研究会 第9回学術研究大会 シンポジウム	2015.9.20	札幌
フェンタニル貼付剤の継続使用が困難な症例における要因の検討	鈴木 景就	第9回日本緩和医療薬学会	2015.10.2～4	横浜
閉塞性動脈硬化症による慢性疼痛にオピオイド、アセトアミノフェンが有効だった一例	柴田麻里子	第9回日本緩和医療薬学会	2015.10.2～4	横浜
大切な作業である買い物か退院に向けての動機づけとなった緩和ケアの一事例	齋藤 駿太	第46回北海道作業療法学会	2015.10.3～4	札幌

【平成27年度新規取り組み】

がんのリハビリテーション料算定開始（9月～）



【今後の目標】

・地域医療、地域連携への貢献

小樽、後志地域での質の高い緩和ケアを実践するにあたり、病院側、在宅療養をサポートする側双方に課題があると思っています。そのため、自施設の課題をひとつずつクリアにするとともに、地域の医療機関との連携を強化、がん患者さんが安心して在宅療養できる環境整備を行い、地域の緩和ケアの質向上に寄与したいと考えています。そのため的手段として、院内研修、緩和ケアに関する地域の医療機関

を交えた講演会の開催、訪問看護指導等も継続し実施していきます。

・緩和ケア介入患者数の維持

新病院移転後より介入依頼は増加しており、平成27年度は150件を超えています。質の高い緩和ケアを提供するため、今後も介入依頼があった患者さんを通して実践・指導を行っていきます。

・緩和ケアの看護の質向上への取り組み

院内看護職員のレベル別、段階的な教育をはじめ、地域の看護師を対象とした質向上のための研修会等を企画、実践していきます。

・研究活動の促進

チームメンバー各々が自己研鑽を行い、多職種チーム医療における成果を関係学会等に積極的に発表していきたいと思ひます。

看護部 主幹 緩和ケア認定看護師 石渡 明子

IV 教育・研究報告

論文発表

執筆者、共同執筆者	タイトル	掲載誌	巻・号・項	年月日
松谷 学 (日本語版 翻訳・解説)	シャルコー・マリー・トゥース病における有痛性筋攣縮の前向き研究	MuscleNerve	51:485-488	2015.11
中村祐貴、松谷 学 池田和奈、津田玲子 有吉直充、下濱 俊	血管原性浮腫の関与が示唆された Marchiafava-Bignami病の1例	臨床神経学 2016	29:56(1) 17-22	2016.1
茶木 良、木村雅美 長谷川格、孫誠二 水越常德、明石浩史	保存的治療により治癒した、広範囲な皮下気腫、 後腹膜気腫を呈した医原性食道破裂の1例	北海道外科雑誌	60巻1号 P43-46	
木村雅美、長谷川格 茶木 良、孫誠二	当科における総胆管結石症に対する腹腔鏡下 一期手術の検討	北海道外科雑誌	60巻2号 P36-41	
佐藤彰博、大井宏之 安部幸雄、勝見泰和 中村俊康、織田 崇 長谷川健二郎 山下優嗣	手指関節可動域測定マニュアルによる手指関 節角度測定の信頼性	日本手外科学会雑誌	31:512-516	2015
山下優嗣、佐藤彰博 大井宏之、安部幸雄 勝見泰和、中村俊康 織田 崇、長谷川健二郎	握力の測定方法と測定機器の選択について	日本手外科学会雑誌	32:161-164	2015
清水淳也、入船秀仁 織田 崇、嘉野真允 山下敏彦	血栓による上腕動脈閉塞を合併した小児上腕 骨顆上骨折の1例	整形・災害外科	58:961-964	2015
清水淳也、和田卓郎 織田 崇、金谷耕平 道家孝幸、山下敏彦	少年野球健診における超音波検査陽性例の縦 断的観察	整形・災害外科	58:469-473	2015
Oda T, Abe Y, Katsumi Y, Ohi H, Nakamura T, Inagaki K	Reliability and validity of the Japanese version of the Michigan Hand Outcomes Questionnaire: a comparison with the DASH and SF-36 Questionnaires	J Hand Surg Asian-Pac	21:72-77	2016
和田卓郎、織田 崇	上腕骨外側・内側上顆炎の診療と最近のトピ ックス	Monthly Book Orthopaedics いわゆるテニス肘・ゴルフ 肘の診かた	28(9) 9-14	2015
Kanaya K, Wada T, Yamashita T	Arthroscopically assisted osteosynthesis for osteochondral fracture of the triquetrum	The Journal of hand surgery, European	40:420-2	2015
Shirato R, Wada T, Aoki M, Iba K, Kanaya K, Fujimiya M, Yamashita T	Effect of simultaneous stretching of the wrist and finger extensors for lateral epicondylitis: a gross anatomical study of the tendinous origins of the extensor carpi radialis brevis and extensor digitorum communis	Journal of Orthopaedic Science	20: 1005-11	2015
Lucchina S, Lazzaro L, Fusetti C, Wada T, Oda T	Mallet fingers with bone avulsion and DIP joint subluxation (Letter & reply)	The Journal of hand surgery, European	40: 760-1	2015
Wada T, Oda T	Mallet fingers with bone avulsion and DIP joint subluxation	The Journal of hand surgery, European	40:8-15	2015

著 書

著者	タイトル	著書名	編者	ページ	発行年	出版社
佐々木浩一、和田卓郎	テニス肘の鏡視下手術	肘関節手術のすべて	今谷潤也	216-226	2015	メジカルビュー社
和田卓郎、織田 崇	野球肘	保存治療でなおす運動器 疾患-OAから外傷まで-	中村耕三	139-143	2015	MB Orthop
和田卓郎	変形性肘関節症、野球肘	PT・OTのための画像の みかた	射場浩介他	120-124	2015	金原出版

学会・研究発表

演題名	発表者・共同発表者	学会名	年月日	場所
ピアノ奏者の手の障害（シンポジウム）	和田卓郎、 射場浩介、花香 恵、 渡邊祐大、織田 崇	第58回 日本手外科学会学術集会	2015.4.16	東京都
思春期男子性教育における問題点	堀田浩貴 安達秀樹	第103回 日本泌尿器科学会	2015.4.19 ～4.21	石川県 金沢市
Michigan Hand Outcomes Questionnaire日本語版の信頼性と妥当 性の検証	織田 崇 安部幸雄、勝見泰和 大井宏之、中村俊康 長谷川健二郎、山下優嗣、 佐藤彰博	第88回 日本整形外科学会学術総会	2015.5.21	兵庫県 神戸市
バンコマイシン投与量設定に対する薬剤 師介入の有用性についての検討	小野 徹、 一野勇太、柴田麻里子	第62回 北海道薬学大会	2015.5.17	札幌市
テニス肘の診断と治療 最新の知見	和田卓郎	第88回 日本整形外科学会 ランチョンセミナー	2015.5.22	兵庫県 神戸市
老人介護施設のスタッフに対する救急・ 応急処置の教育と理解度、今後の課題	外山祐一郎 齊藤正樹、中村祐樹 野中隆行、倉内麗徳 下濱 俊	第18回 日本臨床救急医学総会	H27.6.4	富山県 富山市
橈骨遠位端骨折受傷例の骨粗鬆症治療の 現況	織田 崇、 和田卓郎、高嶋和磨 目良紳介、三名木泰彦 近藤真章	第129回 北海道整形災害外科学会	2015.6.13	札幌市
高齢者の頸骨高原骨折に対して1期的人 工膝関節全置換術を施行した1例	高嶋和磨 織田 崇、目良紳介 三名木泰彦、和田卓郎 近藤真章	第129回 北海道整形災害外科学会	2015.6.13	札幌市
Tadalafil投与の際に留意すべき点	堀田浩貴	第395回 日本泌尿器科学会 北海道地方会	2015.6.13	札幌市
地域中核病院における疼痛マネジメント に関する看護師の知識調査～緩和ケア認 定看護師配置により見えた課題～	石渡明子、鈴木景就 明石浩史、木村雅美	第20回 日本緩和医療学会	2015.6.18	神奈川県 横浜市
脳血管障害片麻痺患者におけるCI療法が 脊髄運動神経機能に及ぼす影響	高橋靖明	第49回 日本作業療法学会	2015.6.18	兵庫県 神戸市
当院の若年作業療法士におけるOBPの理 解度調査	白井美奈子 三崎一彦	第49回 日本作業療法学会	2015.6.19 ～6.21	兵庫県 神戸市
肩関節の肢位が手関節伸筋群の筋活動に 与える影響	高波実佳 松野 愛、阪本なな実 金子翔拓	第49回 日本作業療法学会	2015.6.19	兵庫県 神戸市
興味ある形態をとった消化管疾患の一例	明石浩史	第313回 小樽胃と腸を診る会	2015.7.14	小樽市
地域中核病院における看護職員の医療用 麻薬に対する知識調査と緩和ケア認定看 護師による院内教育効果	石渡明子、 鈴木景就、明石浩史、 木村雅美	第46回 日本看護学会 慢性期看護学術集会	2015.9.2	福島県 郡山市
めまい症例で発症した椎骨動脈解離の1例	外山祐一郎、 松浦洋介、津田玲子 有吉直充、松谷 学	第97回 日本神経学会 北海道地方会	2015.9.5	札幌市

シンポジウム 「援助者の援助」	石渡明子	第9回 特定非営利活動法人 対人援助・スピリチュアルケア研究会 学術研究大会	2015.9.20	札幌市
強直性脊椎骨増殖症 (ASH)における骨棘切除術後も、経口摂取確立まで長期の嘔下りハを要した一症例	須藤 榮 有吉直充	第21回 日本摂食嘔下りハピリテーション学会学術大会	2015.9.12	京都府 京都市
回復期リハビリテーション病棟での病棟薬剤師業務における内服管理への取り組み	中村圭介 有吉直充	第57回 全日本病院学会in 北海道	2015.9.13	札幌市
男子性教育における問題点	堀田浩貴 安達秀樹	第26回 日本性機能学会	2015.9.20	福岡県 福岡市
頭痛を伴わない椎骨動脈解離の3例	外山祐一郎、 松浦洋介、津田玲子 有吉直充、中村祐貴、 野中道隆、齊藤正樹 松谷 学	第18回 日本栓子検出と治学会療	2015.9.25	栃木県 宇都宮市
Exposure Indexについて テーマ：医療被ばくの最近の話題 －日本版DRLの発表を受けて－	舟見 基	北海道放射線技師会（小樽後志）秋季会員研究発表会シンポジウム	2015.9.26	小樽市
各撮影部位におけるTarget Exposure Indexの設定	但木勇太	北海道放射線技師会（小樽後志）秋季会員研究発表会	2015.9.26	小樽市
携帯電話端末の医療機器に対する影響	今野義大	平成27年度 後志臨床工学技士会	2015.9.26	小樽市
当院における限局性前立腺癌患者の治療選択の変遷	安達秀樹 堀田浩貴	第80回 日本泌尿器科学会東部総会	2015.9.27	東京都
疼痛管理（非がん性疼痛）	柴田麻里子 鈴木景就、佐々木梨絵 松倉瑞希	第9回 日本緩和医療薬学会	2015.10.2	神奈川県 横浜市
フェンタニル貼付剤の継続使用が困難な症例における要因の検討	鈴木景就 石渡明子、柴田麻里子 木谷友洋、明石浩史	第9回 日本緩和医療薬学会	2015.10.3	神奈川県 横浜市
その人らしい離床に繋がった一事例～全人工股関節置換手術の作業療法介入～	土橋大基	第46回 北海道作業療法学会	2015.10.3	札幌市
ADOCの使用により、目標を再共有が可能になった1事例	林 知代 山中佑香	第46回 北海道作業療法学会	2015.10.3	札幌市
麻痺手の満足度改善に対し作業に焦点を当て目標設定、実動作訓練を行った事例	小梁川実沙	第46回 北海道作業療法学会	2015.10.3	札幌市
ADOCの使用でOTの役割を理解し目標を共有できた大腿骨転子部骨折の1事例	山中佑香	第46回 北海道作業療法学会	2015.10.3 ～10.4	札幌市
ADOCを活用して病院生活で実現可能な「意味のある作業」を共有し、主体的な生活を獲得した事例	白井美奈子 三崎一彦	第46回 北海道作業療法学会	2015.10.3 ～10.4	札幌市
閉塞性動脈硬化症による疼痛にアセトアミノフェンが有効だった一例	柴田麻里子 鈴木景就、佐々木梨絵 松倉瑞希	第9回 緩和医療薬学会	2015.10.4	神奈川県 横浜市
大切な作業である買い物が退院に向けての動機付けとなった緩和ケアの一事例	齋藤駿太、 山中佑香、米田健太郎 孫 誠一	第46回 北海道作業療法学会	2015.10.4	札幌市
静脈カテーテル留置による血液透析導入症例の検討	安達秀樹 堀田浩貴	第15回 札幌腎不全治療懇話会	2015.10.10	札幌市

ノルディックウォークでロコモ予防 (シンポ)	和田卓郎	第4回 日本ノルディックウォーク学 会学術集会	2015.10.24	札幌市
バンコマイシン投与患者における薬剤師 介入、非介入例での腎機能障害発現率に ついての検討	一野勇太	第9回 日本腎臓病薬物療法学会	2015.10.24	宮城県 仙台市
サルコペニアに対する外来リハビリテー ション直後の栄養補助食品摂取の効果	西谷 淳	第66回 北海道理学療法士学術大会	2015.10.31	旭川市
「人が紙に見える」右頭頂葉皮質下出血 患者に対する身体失認と空間知覚障害に 着目した一症例	齋藤 透	第66回 北海道理学療法士学術大会	2015.11.1	旭川市
上腕骨外側・内側上顆炎の鏡視下手術 (会長推薦臨床実践講座)	和田卓郎	第43回 日本関節病学会学術集会	2015.11.6	札幌市
変形性肘関節症に対するdebridement arthroplasty(シンポ)	和田卓郎、 織田 崇、 射場浩介 山下敏彦	第43回 日本関節病学会学術集会	2015.11.6	札幌市
当院で経験したHbA1c測定における異 常ヘモグロビン症例について	坂上延雄 木谷洋介	平成27年度 小樽地区会員研究発表会	2015.11.13	小樽市
術中CGMを装着し血糖変動を 評価したインスリノーマの1例	水越常德 田中道寛、 明石浩史 宮地敏樹、 舩谷治郎 田中 誠、 孫 誠一 長谷川格、 高嶋和磨 本谷雅代	第15回 内分泌学会 北海道支部学術集会	2015.11.15	旭川市
病棟薬剤業務実施加算算定に伴い開始し た病棟薬剤師・DIミーティングの実施と 病棟薬剤師による介入事例	鈴木景就 小野 徹、 柴田麻里子 中村圭介、 芦名正生 佐々木梨絵、 寺嶋 望 青木有希子、 一野勇太	第25回 日本医療薬学会年会	2015.11.23	神奈川県 横浜市
抗GAD抗体が低力価陽性で免疫治療が著 効した自己免疫性小脳失調症の1例	津田玲子	第33回 日本神経治療学会	2015.11.27	名古屋市
グラルギンでの低親和性高結合 能抗体を認めた2型糖尿病の1例	水越常德 田中道寛、 明石浩史 宮地敏樹、 舩谷治郎	第25回 臨床内分泌代謝Update	2015.11.28	東京都
緊急透析にて救命し得た大腸内視鏡前処 置を契機に発症した敗血症、急性腎不全 症例	明石浩史、 水越常德、 舩谷治郎 宮地敏樹、 田中道寛、 堀田浩貴、 安達秀樹	第275回 日本内科学会 北海道地方会	2015.12.5	札幌市
上腹部開腹術既往症例に対する腹腔鏡下 胆嚢摘出術の工夫:Reduced port surgery の応用	孫 誠一 田山 誠、 長谷川格	第108回 日本臨床外科学会 北海道地方会	2015.12.5	札幌市
当院における糖尿病教育入院について	東 紗貴 水越常德、 多田梨保 権城 泉、 松村重貴子 木藤絢子、 早川恵美子 青木有希子、 柴田麻里子 佐々木梨絵、 西谷 淳 三浦富美彦	第19回 日本病態栄養学会	2016.1.9	神奈川県 横浜市
経管栄養を施行した血液透析患者3症例 の考察	安達秀樹、 中山祐子、 多田梨保 東 紗貴、 権城 泉、 西谷 淳、 須藤 榮、 笠井一憲、 鈴木景就、 逢坂裕美子、 辻田早苗、 長谷川格	第9回 日本静脈経腸栄養学会 北海道支部例会	2016.1.23	札幌市

当院血液透析患者の分析	安達秀樹 堀田浩貴	第397回 日本泌尿器科学会 北海道地方会	2016.1.30	札幌市
70歳以上の手根管症候群に対するCamitz法の治療成績	織田 崇	第3回 東日本手外科研究会	2016.1.30	神奈川県 横浜市
70歳以上の手根管症候群に対するCamitz法の治療成績	織田 崇、 和田卓郎、齊藤 憲 松村崇史、山本 修 高嶋和磨、目良紳介 三名木泰彦、近藤真章	第130回 北海道整形災害外科学会	2016.2	旭川市
上腕骨内側上顆炎に対する鏡視下手術の治療成績	織田 崇、 和田卓郎、高嶋和磨 目良紳介、三名木泰彦 近藤真章	第130回 北海道整形災害外科学会	2016.2.6	旭川市
膝人工関節置換術後疼痛に対する高容量アセトアミノフェンの効果の検討	目良紳介 高嶋和磨	第130回 北海道整形災害 外科学会	2016.2.6	旭川市
Wide - awake hand surgeryにおける緩衝材有用性の検討	高嶋和磨 織田 崇、目良紳介 三名木泰彦、和田卓郎 近藤真章	第130回 北海道整形災害 外科学会	2016.2.6	旭川市
上腕骨内側上顆炎に対する鏡視下手術の治療成績	織田 崇 齊藤 憲、和田卓郎	第28回 日本肘関節学会	2016.2.12	岡山県 岡山市
糖尿病・腎疾患・循環器疾患血液透析患者に施行した経管栄養・3症例の検討	安達秀樹、 中山祐子、多田梨保 東 紗貴、西谷 淳 須藤 榮、笠井一憲 鈴木景就、逢坂裕美子 辻田早苗、長谷川格	第31回 日本静脈経腸栄養学会 学術集会	2016.2.25	福岡県 福岡市
強直性脊椎骨増殖症(ASH)における骨棘切除術後も経口摂取確立まで長期の嚥下リハを要した一症例	須藤 榮 長谷川格、西谷 淳	第31回 日本静脈経腸栄養学会 学術集会	2016.2.25	福岡県 福岡市
人工呼吸器装着に至ったALS患者の退院支援の事例報告 ～多職種連携からみえる看護師の役割を考える～	曽根潔美 中山優子、小野寺由美	平成27年度 北海道看護研究会	2016.2.27	小樽市
手術前後オリエンテーションの改善を試みて～写真入りパンフレットと動画(DVD)の併用使用による効果～	前田 亨 米田 恵、石田ゆかり 奥嶋泉帆、古城恵美子 林 敬子	第68回 済生会学会	2016.2.28	大阪市
ペン型インスリン注入用注射針の使用感の比較と各済生会支部での採用品目の実態調査	佐々木梨絵 青木有希子、水越常德 上野誠子、鈴木景就 小野 徹、笠井一憲 一野勇太、柴田麻里子 中村圭介、芦名正生 寺嶋 望、又村健太 松倉瑞希	第68回 済生会学会	2016.2.28	大阪市
持参薬調査から得られた服薬コンプライアンス低下の要因	寺嶋 望 鈴木景就、柴田麻里子 中村圭介、芦名正生 佐々木梨絵、一野勇太 又村健太、松倉瑞希	第68回 済生会学会	2016.2.28	大阪市
地域社会をリードする北海道済生会を中心とした地域包括ケアシステムの推進	櫛引久丸	第68回 済生会学会	2016.2.28	大阪市

勤怠管理システムの開発・運用による給与 計算業務の効率化と今後の展開について	<u>内山泰男</u> 五十嵐浩司、大田隆宏 浦見悦子、成田明美	第68回 済生会学会	2016.2.28	大阪市
コメディカル体験ツアーを開催して	<u>笹山貴司</u> 松尾覚志、清水雅成	第68回 済生会学会	2016.2.28	大阪市
他院で健診を受けていたが当院で血液像 にフラワーセルを認め診断につながった ATLの一症例	<u>逢坂裕美子</u> 辻田早苗、末藤智枝子 一條周一、舩谷治郎 明石浩史	第68回 済生会学会	2016.2.28	大阪市
当院における脊椎・腰痛センターの理学 療法 ～現状と今後の課題～	<u>髭内紀幸</u> 花田 健、辻永由紀、 早川晃子、三名木泰彦	第68回 済生会学会	2016.2.28	大阪市
当院の糖尿病教育入院患者の身体機能の 特徴	<u>三浦富美彦</u> 水越常徳、西谷 淳 東 紗貴、松村亜貴子 青木有希子、柴田麻里子 早川恵美子、木藤絢子	第68回 済生会学会	2016.2.28	大阪市
自己効力感の向上が疼痛のコントロール に寄与した慢性腰痛患者の一例	<u>辻永由紀</u> 三名木泰彦、髭内紀幸 花田 健、竹内 恵 早川晃子	第68回 済生会学会	2016.2.28	大阪市
野球健診の報告とFunctional Movement Screen(FMS)の関連性	<u>花田 健</u> 織田 崇、澤田篤史 西谷 淳、中村宅雄 髭内紀幸	第68回 済生会学会	2016.2.28	大阪市
再発寛解を繰り返した抗MOG抗体 陽性視神経の1例	<u>松浦洋介</u> 外山祐一郎、津田玲子 松谷 学、鈴木康夫	第98回 日本神経学会 北海道地方会	2016.3.5	札幌市
「てんかん」の記述について (2)	<u>松谷 学</u> 松浦洋介、外山一郎 津田玲子	第98回 日本神経学会 北海道地方会	2016.3.5	札幌市
病棟薬剤師・DIミーティングの開始と病 棟薬剤師による介入事例	<u>鈴木景就</u>	後志病院薬剤師会	2016.3.2	小樽市
PS低下患者に対してPanitumumab単独 投与で疼痛緩和が図れた1例	<u>芦名正生</u> 鈴木景就	日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2016	2016.3.12	鹿児島県 鹿児島市
北海道の作業療法はパラダイムシフトし たか？－北海道作業療法学会演題名から の検証－	<u>三崎一彦</u> 白井美奈子	第3回 日本臨床作業療法学会 学術大会	2016.3.18	東京都
絵手紙の再獲得が、その人らしい最期に 繋がった緩和ケアの一事例	<u>齋藤駿太</u> 三崎一彦	第3回 日本臨床作業療法学会 学術大会	2016.3.18	東京都
Reconstruction of PIP joint collateral ligament in chronic instability.	<u>Wada T, Hiraiwa T,</u> Iba K, Yamashita T.	20th Congress of Federation of European Societies for Surgery of the Hand. (FESSH 2015 第20回欧州 外科学会)	17-20 June 2015	イタリア ミラノ
International perspective on hand surgery around the world (Symposium).	<u>Wada, T.</u> Global reach	70th Annual Meeting of the American Society of Surgery of the Hand. (第70回米国手外科学会)	Sep 10-12	米国 シアトル

講義・講演等

講義（大学・専門学校・製薬メーカー 等）

講師	講義テーマ	講義名	講義先(学校名等)	年月日	場所
水越常德	人体のしくみと働き	非常勤講師 看護学授業(2回)	小樽市医師会 看護高等専修学校	2015年度	小樽市
	内分泌疾患	非常勤講師 看護学授業(7回)	小樽市医師会 看護高等専修学校	2015年度	小樽市
松谷 学	「急変時・緊急時の対応」～ BLSは習った、で、いつ使う？	院内看護部教育研修	済生会小樽病院 (看護部)	2015.8.26	小樽市
	「急変時・緊急時の対応」～ BLSは習った、次につなげる には？	院内看護部教育研修	済生会小樽病院 (看護部)	2015.11.4	小樽市
	「神経疾患の病態と看護」	講師 看護学 授業	小樽看護専門学校	2015.11.5 2015.11.9	小樽市
	「和漢薬をどう現代の医療に 役立てるかー神経疾患領域の 補完代替療法」	臨床教授 札幌医科大学 医学部講義	札幌医科大学 医学部(4年目学生)	2015.11.18	札幌市
	「全身疾患に伴う神経病態」	臨床教授 札幌医科大学 医学部講義	札幌医科大学医学部学 生 神経内科分野	2016.1.28	札幌市
長谷川格		医学研究科臨床教授 講義	札幌医科大学大学院	2015年度	札幌市
孫 誠一	肝胆膵疾患	第5学年臨床実習 特別講義	札幌医科大学 医学部	2016.1.15	札幌市
	肝胆膵疾患	第5学年臨床実習 特別講義	札幌医科大学 医学部	2016.2.26	札幌市
和田卓郎	テニス肘の診断と治療 最新知見	第88回 日本整形外科学会学術集会 ランチョンセミナー		2015.5.22	神戸市
	肘関節疾患への鏡視下アプ ローチ	第9回 下鴨整形疾患フォーラム		2015.7.24	京都市
	テニス肘の診断と治療	第4回 八王子スポーツメディスン フォーラム		2015.11.4	八王子市
	第2回日本肘関節学会キャダ バーワークショップ講師			2015.11.7	札幌市
堀田浩貴	腎・泌尿器	看護学 授業	小樽市医師会 看護高等専修学校	2015	小樽市
安達秀樹	腎尿路系・男性生殖器	人体のしくみとはたらき 授業	小樽市医師会 看護高等専修学校	2015.5.11 5.22 5.25	小樽市
	腎泌尿器の構造と機能 症状と病態生理 検査と治療処置	疾病論IV (泌尿器科) 授業	小樽看護専門学校	2015.5.11 6.5 6.19	小樽市
	高リン血症治療に関する 研修会	高リン血症の管理	キッセイ薬品工業株式 会社	2015.7.30	札幌市
	日本新薬株式会社 社外講師 招聘勉強会	『BPH/LUTSの薬物治療』当 科での前立腺肥大症患者の日 常診療	日本新薬株式会社	2016.1.8	札幌市
	アステラス製薬株式会社 社内研修会	下部尿路障害の診断と治療	アステラス製薬株式会社	2016.2.5	小樽市

松江知加子	WLBの当院での取り組みと現状	看護管理者懇談会	北海道看護協会 小樽支部	2016.9.19	小樽市
兒玉真夕美	血液疾患患者の看護	看護学 授業	小樽市医師会 看護高等専修学校	2016.1.27	小樽市
	血液疾患患者の看護	看護学 授業	小樽市医師会 看護高等専修学校	2016.2.3	小樽市
	膠原病患者の看護	看護学 授業	小樽市医師会 看護高等専修学校	2016.2.10 2.17	小樽市
石渡明子	痛みのある患者の看護	痛みのある患者の看護	北海道看護協会 小樽支部	2015.7.2	小樽市
	終末期ケア	終末期ケア	手稲いなづみ病院	2016.2.10	札幌市
	緩和ケア	特別講義	小樽市医師会 看護高等専修学校	2016.2.24	小樽市
	死の看取りの技術	基礎看護学技術	小樽看護専門学校	2016.3.11	小樽市
中山祐子	NST実地修練講習	・NSTにおける看護師の役割 ・経腸栄養法と静脈栄養法 ・褥瘡における栄養管理	NST実地修練受講者	2015.10.22	小樽市
	NST実地修練講習	・経腸栄養法と静脈栄養法 ・NST専門療法士認定試験対策	NST実地修練受講者	2015.10.29	小樽市
猪股 光	基礎看護学 外科的看護 手術室看護	基礎看護学 授業①	小樽市医師会 看護高等専修学校	2015.11.16	小樽市
	基礎看護学 外科的看護 手術室看護	基礎看護学 授業②	小樽市医師会 看護高等専修学校	2015.11.30	小樽市
	基礎看護学 外科的看護 手術室看護	基礎看護学 授業③	小樽市医師会 看護高等専修学校	2015.12.7	小樽市
	基礎看護学 外科的看護 手術室看護	基礎看護学 授業④	小樽市医師会 看護高等専修学校	2015.12.14	小樽市
	基礎看護学 外科的看護 手術室看護	基礎看護学 授業⑤	小樽市医師会 看護高等専修学校	2015.12.21	小樽市
	基礎看護学 外科的看護 手術室看護	基礎看護学 授業⑥	小樽市医師会 看護高等専修学校	2016.1.18	小樽市
笠井一憲	水分・電解質輸液と電解質補正剤	NST実地修練講習	NST実地修練受講者	2015.10.27	小樽市
	静脈栄養剤	NST実地修練講習	NST実地修練受講者	2015.10.27	小樽市
	経腸栄養剤	NST実地修練講習	NST実地修練受講者	2015.10.29	小樽市
	栄養管理と薬	NST実地修練講習	NST実地修練受講者	2015.10.29	小樽市
	試験に出る!!栄養療法の基礎知識	NST実地修練講習	NST実地修練受講者	2015.10.29	小樽市
辻田早苗	栄養療法と臨床検査について	NST実地修練 脱水と電解質	NST実地修練受講者	2015.10.21	小樽市

逢坂裕美子	臨床検査ってどういう検査？	看護新人研修	当院新人看護師	2015.4.7	小樽市
	栄養療法と臨床検査について	NST実地修練 栄養療法時に必要な臨床検査 について	NST実地修練受講者	2015.10.21	小樽市
松尾覚志	成人看護	放射線診療と看護	小樽市医師会 看護高等専修学校	2015.10.14	小樽市
	成人看護	放射線診療と看護	小樽市医師会 看護高等専修学校	2015.10.28	小樽市
三崎一彦	慢性疼痛に対する作業療法	身体障害作業療法治療学Ⅲ	北海道文教大学	2015.10.30	恵庭市
	これからの北海道の作業療法	道南作業療法勉強会セミナー	道南作業療法勉強会	2015.11.21	函館市
	北海道文教大学 作業療法学 科セミナー パネルディス カッション	クリニカルクラークシップの 実際	北海道文教大学	2016.2.27	恵庭市
	リハビリ部門の活動について	基礎看護学実習初日オリエン テーション	小樽看護専門学校	2016.2.29	済生会 小樽病院
須藤 榮	NST実地修練講習	NST実地修練言語聴覚士分	NST実地修練受講者	2015.10.28	小樽市
多田梨保	管理栄養士の業務について	病院における管理栄養士の役割	小樽市医師会 看護高等専修学校	2015.5.14	小樽市
	管理栄養士の業務について	病院における管理栄養士の役割	小樽潮陵高等学校	2015.8.3	小樽市
	NST実地修練講習	三大栄養素(タンパク質)	NST実地修練受講者	2015.10.20	小樽市
	NST実地修練講習	栄養スクリーニング、アセス メント、身体計測	NST実地修練受講者	2015.10.22	小樽市
東 紗貴	看護部新人研修	当院の栄養管理について	済生会小樽病院	2015.4.6	小樽市
	NST実地修練講習	三大栄養素(糖質)	NST実地修練受講者	2015.10.20	小樽市
	NST実地修練講習	栄養補助食品	NST実地修練受講者	2015.10.22	小樽市
権城 泉	栄養食事療法	栄養学 食事療法	小樽看護専門学校	2015.9.2 ~ 10.14	小樽市
	NST実地修練講習	三大栄養素(脂質)	NST実地修練講習者	2015.10.20	小樽市
	NST実地修練講習	ビタミン・必要エネルギーの 算出	NST実地修練講習者	2015.10.22	小樽市
	臨床管理栄養士について	病院における管理栄養士の役割	小樽看護専門学校	2016.2.29	小樽市
横道宏幸	呼吸器マイスタ看護師の育成	人工呼吸器マイスタ研修	当院病棟看護師	2015.7.16 9.17 11.19 2016.1.21 3.17	小樽市
奥嶋一允	輸液ポンプ・シリンジポンプ について	看護部教育研修	済生会小樽病院	2015.6.11	小樽市
	心電図モニター・DCについて	看護部教育研修	済生会小樽病院	2016.1.28	小樽市

講演（集談会・健康セミナー・出前講座 他）

講師	テーマ(演題)	講演会名	主催者	年月日	場所
水越常德	糖尿病	小樽市医師会 健康教室	小樽市医師会 (桜ヶ丘会館)	2015.5.28	小樽市
	内分泌疾患の診療(甲状腺)について	後志医療連帯を考える会	協和発酵キリン (ニッカ会館)	2015.7.30	余市町
	甲状腺・副甲状腺の内科的治療	日本外科学会北海道地区生涯 教育セミナー	日本外科学会 北海道支部	2016.1.9	札幌市
松谷 学	札幌医科大学 神経内科説明会 (5年目学生対象)	「超急性期のakinetic mutism と血栓溶解治療」 「済生会小樽病院でのICT連 動型実習－特に内科3科合同 版、および当院の初期研修に ついて」	札幌医科大学 神経内科	2016.1.20	札幌市
有吉直充	市民健康教室	「認知症について」	小樽市医師会 (小樽市桂岡地区)	2015.7.23	小樽市
	市民公開講座 「回復期リハビリテーション 病棟のご案内」	「脳梗塞の回復期リハビリ テーション医療」	済生会小樽病院	2015.7.29	小樽市
津田玲子	札幌医科大学 神経内科説明会 (5年目学生、初期研修医対象)	北海道済生会小樽病院の紹介	札幌医科大学 神経内科	2015.9.1	札幌市
	札幌医科大学 神経内科説明会 (5年目学生、6年目学生、初 期研修医対象)	済生会小樽病院における初 期・後期研修プログラム	札幌医科大学 神経内科	2015.9.15	札幌市
	後志養護学校教員会 北ブロック年次研修会	教育講演 「学童期に増えている頭痛」	後志養護学校教員会 (仁木町民センター)	2015.10.9	仁木町
田山 誠	胆石について	第171回 済生会小樽病院 集談会	済生会小樽病院	2015.10.19	小樽市
目良紳介	レバンガ北海道公開 セミナー	腱前十字靭帯損傷の治療と リハビリ	済生会小樽病院	2015.7.12	小樽市
	救急対応懇親会	下股の外傷II	済生会小樽病院	2015.12.21	小樽市
	小樽体育協会 スポーツドクター講習会	股関節のスポーツ障害	小樽体協	2016.2.22	小樽市
織田 崇	第10回 済生会小樽病院 健康セミナー	スポーツのケガと障害－見き わめと対処法－	済生会小樽病院 (小樽マリンホール)	2015.6.20	小樽市
	第2回 済生会小樽病院 整形外科リハビリテーション セミナー	SLAC wristとSNAC wrist	済生会小樽病院	2015.7.10	小樽市
	北海道済生会小樽病院×レバ ンガ北海道公開セミナー	バスケットボールにおけるケ ガの実態と予防－つき指編	済生会小樽病院 (小樽市立総合体育館)	2015.7.12	小樽市
	済生会健康フェスタin小樽	健康セミナー 防ごうロコモ、延ばそう健康 寿命「骨粗鬆症」	済生会小樽病院	2015.9.27	小樽市
	なでしこ健康フォーラム in小樽	女性の気持ちに寄り添う骨粗 鬆症治療	ファイザー製薬 (グラントパーク小樽)	2015.10.8	小樽市
	北海道柔道整復師会 小樽ブロック学術講演会	肘と手首のスポーツ障害	北海道柔道整復師会小 樽ブロック(道新ホール)	2015.11.14	小樽市
	第49回札幌整形外科外傷 カンファレンス	手関節外傷の治療－橈骨遠位 端骨折の合併損傷を中心に (日本整形外科学会教育研修 講演)	Sapporo Orthopedic Trauma Club (札幌カンファレンス センター)	2015.11.21	札幌市

高嶋和磨	大腿骨近位部骨折について	第167回 済生会小樽病院 集談会	済生会小樽病院	2015.4.20	小樽市
安達秀樹	“トイレが近い”方へのお話 頻尿～その診断と治療～	第12回 済生会小樽病院 健康セミナー	済生会小樽病院	2015.12.10	小樽市
	血液透析患者に施行した経管 栄養・3症例の検討	第101回 小樽メタボリッククラブ(日 本静脈経腸栄養学会予演会)	済生会小樽病院NST	2016.2.9	小樽市
	限局性前立腺癌の治療	第173回 済生会小樽病院 集談会	済生会小樽病院	2016.2.15	小樽市
石渡明子	第8回 済生会小樽病院 健康セミナー	もし、がんと言われたら 「がん」と言われた時から患者 と家族を支える「緩和ケア」	済生会小樽病院	2015.4.22	小樽市
中山祐子	第92回 小樽メタボリッククラブ	NSTと看護師の関わりについ て	NST委員会	2015.4.14	小樽市
猪股 光	看護部教育委員会	看護倫理	済生会小樽病院	2015.5.8	小樽市
	看護部伝達講習会	ポートフォリオ	済生会小樽病院	2015.5.16	小樽市
古城恵美子	手術前後オリエンテーション の改善を試みて～写真入りパ ンフレットと動画(DVD)の併 用による効果～	第172回 済生会小樽病院 集談会	済生会小樽病院	2015.11.16	小樽市
鈴木景就	薬剤室の役割	看護部教育研修	済生会小樽病院・ 看護部	2015.4.6	小樽市
	簡易懸濁法・経管栄養	看護部教育研修	済生会小樽病院・ 看護部	2015.4.20	小樽市
	薬との上手な付き合い方	市民健康教室	小樽薬剤師会 (入船会館)	2015.5.28	小樽市
	平成26年度 NST栄養剤チーム活動報告	第94回 小樽メタボリッククラブ	NST委員会	2015.6.9	小樽市
	薬の基礎知識	出前健康教室	済生会小樽病院 (銭函)	2015.8.6	小樽市
	薬の基礎知識	出前健康教室	済生会小樽病院 (余市町)	2015.9.1	余市町
	薬の基礎知識	出前健康教室	済生会小樽病院	2016.3.30	小樽市
笠井一憲	平成26年度 NST栄養剤チーム活動報告	第94回 小樽メタボリッククラブ	NST委員会	2015.6.9	小樽市
	平成27年度 NST栄養剤チーム活動報告	第102回 小樽メタボリッククラブ	NST委員会	2016.3.8	小樽市
柴田麻里子	済生会健康セミナー	実は身近な糖尿病	済生会小樽病院	2015.5.25	小樽市
	糖尿病のお薬について	糖尿病教室	済生会小樽病院	2015.12.14	小樽市
青木有希子	シックデイについて	糖尿病教室	済生会小樽病院	2015.6.8	小樽市
一野勇太	知っているようで知らない 抗菌薬	第168回 済生会小樽病院 集談会	済生会小樽病院	2015.5.18	小樽市
逢坂裕美子	小樽メタボリッククラブ	NSTにおける臨床検査技師の 役割	NST委員会	2015.4.14	小樽市
逢坂裕美子 辻田早苗	済生会健康フェスタ in小樽	血液を顕微鏡で見emましょ う！	済生会小樽病院	2015.9.27	小樽市

高橋賢規	済生会健康フェスタ in小樽	頸動脈超音波検査について血 管を見てみよう！	済生会小樽病院	2015.9.27	小樽市
	糖尿病教室	頸動脈超音波検査について	済生会小樽病院 (栄養管理室)	2015.11.9	小樽市
松尾覚志 舟見 基	骨粗しょう症予防	出前健康教室	グループホーム 夢あかり	2015.4.21	小樽市
松尾覚志 釜石 明	骨粗しょう症予防	出前健康教室	グループホーム夢 (余市町)	2016.2.1	余市町
髭内紀幸	あなたは腰が痛い時どうして いますか？ ～脊椎・腰痛センターでの理 学療法紹介～	第169回 済生会小樽病院 集談会	済生会小樽病院	2015.6.15	小樽市
須藤 榮	平成26年度 NST年次報告 呼吸・摂食ケ アチーム	第94回 小樽メタボリッククラブ	NST委員会	2015.6.9	小樽市
	あなたの嚙下力、測定します！	第97回 小樽メタボリッククラブ	NST委員会	2015.9.8	小樽市
白井美奈子	第11回 済生会健康セミナー	回復期リハビリテーション病棟 の挑戦	済生会小樽病院	2015.7.29	小樽市
多田梨保	管理栄養士とNST	第92回 小樽メタボリッククラブ	済生会小樽病院	2015.4.14	小樽市
	なぜ、保存食を取らなくては いけないの？	給食ミーティング	済生会小樽病院	2015.7.9	小樽市
	夏の暑さに打ち勝つための栄 養管理！～これを知っていれ ば、今年の夏は一味違います～	第96回 小樽メタボリッククラブ	済生会小樽病院	2015.8.11	小樽市
	『水分』摂りすぎていませんか？～上手な水分の摂り方～	第12回 健康セミナー	済生会小樽病院	2015.12.10	小樽市
	当院におけるNSTの取り組み ～過去と今後の展望(新旧ディ レクターから)	第3回 小樽後志静脈経腸栄養講演会 ～第100回小樽メタボリック クラブ記念～	大塚製薬工場	2016.1.30	小樽市
東 紗貴	済生会健康セミナー	糖尿病の食事療法	済生会小樽病院	2015.5.25	小樽市
	出前健康教室	脱水予防	済生会小樽病院 (フルーツシャトーよ いち)	2016.8.10	余市町
松村亜貴子	ムセにくい食事の工夫 ～その秘密教えます～ 量はそのままカロリーアップ術	地域連携懇話会	済生会小樽病院	2015.6.26	小樽市
	家庭でできる食中毒予防 ～宇宙食から生まれた衛生管 理～	出前健康教室	済生会小樽病院 (有愛ケアサポート)	2015.7.10	小樽市
	生活習慣病予防 食中毒予防	出前健康教室	済生会小樽病院 正行寺(葵ヶ丘町会)	2015.8.28	小樽市
	食べる順番療法	小樽市民の健康を迫及する ための講演会	小樽市医師会	2016.3.14	小樽市
笹山貴司	医療安全	最近の医療安全の動向	済生会小樽病院 新人研修	2016.4.1	小樽市
	コメディカルの役割	臨床工学技士とは	済生会小樽病院看護部	2016.4.3	小樽市
阿島 亮	医事統計と施設基準	第170回 済生会小樽病院 集談会	済生会小樽病院	2015.8.17	小樽市

座長（学会・講演・研究発表等）

座長・講師	学会・講演・研究発表会名	座長を行った演題	主催者	年月日	場所
水越常德	第33回 北海道甲状腺談話会	セッションII（4演題）	北海道甲状腺談話会 (かでの2・7)	2015.7.18	札幌市
座長 松谷 学	第4回 臨床医のための てんかんセミナー	特別講演 「精神症状を合併したてんかんの治療戦略」栗田紹子	臨床医のためのてんかんセミナー世話人会	2015.5.7	札幌市
		症例提示「突然の発作性脱力をきたした1例」油川陽子	臨床医のためのてんかんセミナー世話人会	2015.5.7	札幌市
		症例提示「頭痛とてんかん」古山裕康	臨床医のためのてんかんセミナー世話人会	2015.5.7	札幌市
司会 近藤真章 松谷 学	札幌医大リハビリテーション医学講座 石合純夫教授講演会	脳卒中のリハビリテーション－高次脳機能障害と左右の大脳半球－ 石合純夫	済生会小樽病院	2015.8.26	小樽市
長谷川格	第77回 日本臨床外科学会総会	一般演題 腹壁・腹膜・後腹膜6	日本臨床外科学会	2015.11.26 ～11.28	福岡市
	第108回 日本臨床外科学会 北海道支部例会	一般演題 下部消化管②	日本臨床外科学会	2015.12.5	札幌市
	第3回 小樽後志静脈経腸栄養講演会	特別講演「がん終末期における栄養学的特徴を知ろうー緩和ケアにおいてNSTはどう関わるの？」	済生会小樽病院	2016.1.30	小樽市
	第80回 小樽医師会会員 研究発表会	一般演題	小樽医師会	2015.9.17	小樽市
孫 誠一	第5回 小樽内視鏡外科 フォーラム	一般演題	小樽内視鏡外科フォーラム(オーセント小樽)	2016.1.20	小樽市
	第2回 整形外科リハビリテーションセミナー	4名の手外科専門医による講演	済生会小樽病院	2015.7.10	小樽市
和田卓郎	Xレバング北海道 公開セミナー	バスケットボールのケガ：予防と克服	済生会小樽病院	2015.7.12	小樽市
	第42回 日本マイクロサージャリ学会学術集会	一般演題 上肢1		2015.11.27	さいたま市
	第30回 東日本手外科研究会	一般演題 腫瘍		2016.1.30	横浜市
大橋とも子	第68回 済生会学会	看護業務(がん)分野外来科学療法室における待ち時間短縮への取り組み他、6演題	済生会	2016.2.27	大阪市
石渡明子	緩和医療講演会	「医療・ケアの質と臨床倫理」	第一三共株式会社	2015.9.11	小樽市
笠井一憲	生涯教育研修会	糖尿病の病態から見た糖尿病治療薬の使い方(その1)	小樽薬剤師会 (小樽掖会病院)	2015.4.24	小樽市
	生涯教育研修会	ジェネリック医薬品の製剤開発ー高品質・高付価値製品の開発を目指してー	小樽薬剤師会 (小樽協会病院)	2015.12.21	小樽市
	第3回 小樽後志静脈経腸栄養講演会	当院におけるNSTの取り組み～過去と今後の展望	大塚製薬工場	2016.1.30	小樽市
木谷洋介	札幌・小樽地区合同講演会	血液検査に必要な知識と考える力	札幌・小樽臨床検査技師会(市立小樽病院)	2015.8.28	小樽市
三崎一彦	小樽臨床作業療法研究会 第3回セミナー	意味のある作業を実現するための姿勢のみかた、つくりかたーボバース・コンセプトに基づくアプローチ	小樽臨床作業療法研究会	2015.5.30	小樽市
	小樽臨床作業療法研究会 第4回セミナー	「作業を基盤とした実践に必要なスキル」	小樽臨床作業療法研究会	2015.11.28	小樽市
	日本臨床作業療法学会 第3回学術大会	臨床実践口述発表(5演題)	日本臨床作業療法学会	2016.3.19	東京工科大学
多田梨保	第68回 済生会学会	栄養管理	大阪府済生会中津病院	2016.2.28	大阪市

学会等認定資格

新規取得分（平成27年度取得分）

	認定学会名	認定資格
松谷 学	日本内科学会	総合内科専門医
津田玲子	日本内科学会	JMECC受講終了 認定
松浦洋介	日本内科学会	認定内科医
小野 徹	日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師
笠井一憲	一般社団法人 日本食品安全協会	健康食品管理士
中村圭介	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
青木有希子	日本くすりと糖尿病学会	糖尿病薬物療法准認定薬剤師
坂上延雄	臨床化学会 日本臨床衛生検査技師会	認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師 (臨床化学会 日本臨床衛生検査技師会)
多田梨保	日本栄養経営実践協会	日本栄養経営士
松村亜貴子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士

継続資格（平成26年以前取得分）

氏名	認定学会名	認定資格
水越常德	日本内科学会	認定医・指導医
	日本内分泌学会	指導医・専門医
	日本甲状腺学会	専門医
	日本消化器病学会	専門医
	日本環境感染学会	ICD
	日本人間ドック学会	認定医
松谷 学	日本神経学会	専門医、指導医
	日本内科学会	認定内科医、教育関連施設指導医
津田玲子	日本神経学会	専門医
	日本内科学会	認定内科医
外山祐一郎	日本内科学会	認定内科医
長谷川格	日本消化器病学会	指導医・専門医
	日本外科学会	指導医・専門医・認定医
	日本消化器外科学会	認定医
	日本消化器外科学会	消化器がん外科治療認定医
	日本内視鏡外科学会	技術認定医
	日本静脈経腸栄養学会	認定医
孫 誠一	日本外科学会	認定医・外科専門医・指導医
	日本消化器病学会	消化器病専門医
	日本消化器外科学会	消化器病外科専門医・消化器がん外科治療認定医
	日本がん治療認定医機構	がん治療認定医・暫定教育医
	日本乳がん検診精度管理中央機構	検診マンモグラフィ読影認定医
織田 崇	日本手外科学会	手外科専門医
	日本整形外科学会	脊椎脊髄病医
	日本整形外科学会	整形外科専門医

堀田浩貴	日本泌尿器科学会	専門医、指導医
	日本性機能学会	専門医 医学博士
	ICD制度協議会	インфекションコントロールドクター
	日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
	日本医師会	産業医
	日本化学療法学会	抗菌化学療法認定医
	日本泌尿器科学会	専門医・指導医
安達秀樹	日本性機能学会	専門医
	日本消化器内視鏡技師会	内視鏡技師
大橋とも子	北海道病院協会及び全日本病院協会北海道 支部並びに北海道	医療安全管理者
	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
金澤ひかり	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
伊藤瑞代	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
兒玉真夕美	日本緩和医療学会	ELNEC-J指導者
石渡明子	日本看護協会	緩和ケア認定看護師
	北海道看護協会	災害支援ナース
	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
瀬川信子	厚生労働省（労働安全衛生法）	特定科学物質作業主任者
	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
猪股 光	厚生労働省（労働安全衛生法）	特定科学物質作業主任者
小田佐智子	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
菊地麻衣子	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
上野誠子	公益財団法人日本アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト
	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
	都道府県知事	介護支援専門員
鈴木景就	日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師、 研修認定薬剤師
	一般社団法人 日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法士
	日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師
	一般社団法人 日本病院薬剤師会	認定指導薬剤師、 生涯研修履修認定薬剤師
小野 徹	日本病院薬剤師会	感染制御認定薬剤師
	日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師、 研修認定薬剤師
笠井一憲	日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師、 研修認定薬剤師
	一般社団法人 日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法士
	都道府県知事	介護支援専門員
	一般社団法人 日本病院薬剤師会	認定指導薬剤師、 生涯研修履修認定薬剤師
柴田麻里子	一般社団法人 日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士

青木有希子	一般社団法人 日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
坂上延雄	臨床化学会	認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師
	日本臨床衛生検査技師会	総合監理検査技師制度認定管理検査技師、 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師
	日本病院会	診療情報管理士
辻田早苗	日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法士
	日本超音波医学会	超音波検査士(循環器)
逢坂裕美子	日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法士
松尾覚志	医療情報学会	医療情報技師
	科学技術庁	第一種放射線取扱主任者
	日本X線専門技師認定機構	X線CT認定技師
舟見 基	日本X線専門技師認定機構	X線CT認定技師
	日本放射線技師会	放射線管理士、 放射線機器管理士
久保田裕美	日本乳がん検診制度管理中央機構	検診マンモグラフィー撮影認定技師
丹羽志織	日本X線専門技師認定機構	X線CT認定技師
	日本乳がん検診制度管理中央機構	検診マンモグラフィー撮影認定技師
髭内紀幸	日本理学療法士協会	運動器認定理学療法士
	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士
	日本認知症ケア学会	認知症ケア専門士
	国際統合リハビリテーション協会	ILPTプラクティショナー
三崎一彦	日本作業療法士協会	認定作業療法士
	テクノエイド協会	福祉用具プランナー
須藤 榮	日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法士
白井美奈子	日本テクノエイド協会	福祉用具プランナー
髭内朝美	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士
多田梨保	日本栄養経営実践協会	日本栄養経営士
	日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法士
	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
	日本病態栄養学会	病態栄養認定管理栄養士
	日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士
東 紗貴	日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法士
	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
	日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士
権城 泉	日本静脈経腸栄養学会	NST専門療法士
	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
	日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士
松村亜貴子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
	日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士
笹山貴司	北海道病院協会	医療安全管理者
	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
横道宏幸	胸部外科・呼吸器・麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士

ICT連動型臨床実習

済生会小樽病院ICT連動型臨床実習に参加して
実習日 7月13日～8月6日

札幌医科大学医学部6年 齋藤 光里

一ヶ月間本当にありがとうございました。この一ヶ月で本当に色々な経験ができ、座学では学べない多くのことを学ぶことができました。学生という立場だったからこそ、色々な科の様々なものを見ることができたり、コメディカルとの関わりを持つことができたり、検査や診察だけではなく、リハビリを見学したり、患者様と長い時間関わりコミュニケーションを多くとることができました。本当に勉強になりました。

実習では、身体診察の仕方や救急対応、検査や所見

から論理的な考え方など経験豊富な臨床医ならではの視点からさまざまなことを教えていただき本当に勉強になりました。また初めて緩和ケアや告知に立ち会わせていただき、貴重な体験となりました。

貴院では、医師だけではなくコメディカルの方々、事務の方々など大変多くの方が私の実習に協力してくださり実りのある一ヶ月を過ごすことができました。本当に感謝しています。

実習だけではなく、懇親会や潮まつりへも参加させていただき楽しい毎日を過ごさせていただきました。後輩にも貴院への実習を勧めたいと思います。

今回の実習で学んだことは今後必ず生きるものであると思っています。一ヶ月間しっかりと実習したことで、まだまだですが、医師としてやっていく自信ができました。この経験を生かし、これからもがんばって行きたいと思います。本当にお世話になりました。



病棟回診



潮まつりねりこみ参加

ハワイ研修

済生会後期研修医のための海外研修に参加して

整形外科 高嶋 和磨

平成28年1月24日から1月31日まで済生会後期研修医のための海外研修（以下：海外研修）に参加させて頂きました。海外研修は、全国の済生会病院の後期研修医（卒後3年から6年程度の若手医師）を対象とし、我々、後期研修医が今後、後進指導に携わるにあたり、ハワイ州ホノルルで米国の医療と医学教育を体験し、知識と技能を高める目的で行われています。本年度で5回目となります。今回参加した後期研修医は、北は北海道、南は熊本から、後期研修医11名で、それぞれの専門科は様々で内科系5名、外科系4名、救命救急科2名でした。①米国の医学教育、②シミュレーショントレーニング、について報告させて頂きます。

①米国の医学教育について

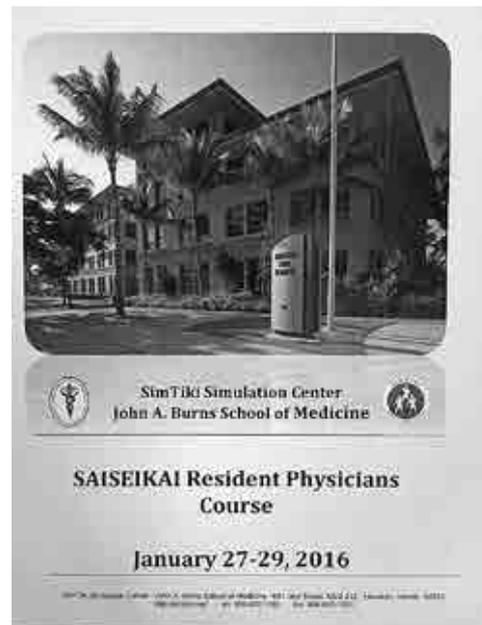
本邦と米国における、医学生という概念は少し異なります。本邦では、医学部在籍6年の間で、医学教育、臨床実習を受け、医師国家試験に合格した後に医師として勤務します。米国では4年制大学卒業後にメディカルスクール（4年間）に入学し、医学教育、臨床訓練を積み、USMLE（米国医師免許試験：Step 1、Step 2（CK/CS）、Step 3）を受験します。一般的には、メディカルスクール2年次までにStep 1、4年次までにStep 2を、そして、レジデンシー（米国後期研修医）1年次にStep 3を受験することが多いようです。即ち、メディカルスクール在籍時（3年次以降）に、本邦における初期臨床研修医と同様の実臨床訓練が開始されます。また、USMLEの成績順に希望科、希望病院が決まるため、米国の医学生は非常に勤勉な印象を受けます。私が専門としている整形外科は米国では最も希望者が多く、最難関な診療科の一つであるようです。本邦の制度では、初期臨床研修でマッチング制度（就職試験）はあるものの、希望科に対する制限は原則としてありません。また、米国におけるレジデンシー制度は医師として最低限必要な内科的な知識と技能を習得することに特化している研修制度です。本邦のように、A病院の研修制度が良い、B病院は〇〇科が有名であるといったことは無く、米国全土のどこの病院で研修をしても、後期研修医を終える頃には一定の基準に達することが出来るような教育制度が確立しています。背景には米国研修管理機構が、後期研修医に限らず、病院・指導医に対するフィードバック機構も担っており、制度に基づき良い医師を育てようとする明確な教育基準が設けられています。その後、

USMLEの成績順に希望科へと進み、さらに、数年間の専修期間を経て、専門医として勤務可能となるようです。

②シミュレーショントレーニングについて

シミュレーションとは、実際の患者以外に行う医療模擬訓練を意味します。例えば、マネキンを用いた、心肺蘇生術、挿管、中心静脈穿刺等はもちろん、誰もが経験のある、お互いに末梢血管ルートを穿刺するといったこともシミュレーションの一つであるようです。米国医学教育では、シミュレーションにて、実際の患者を診療する前に、手技やコミュニケーション能力の訓練を行います。本邦でも臨床実習の前に、CBT、OSCEといった、臨床に最低限必要な知識や、模擬患者に対する医療面接により診療の流れを学ぶ制度があり、医学教育の一つとして取り入れられています。

最後になりますが、1月の小樽から新千歳空港まで猛吹雪の後に、東京羽田空港を経て、ホノルル空港に降り立った時の開放感は何とも心地よいものでした。全国の同世代の後期研修医と交流を深めることができ、研修後にはちゃっかりとハワイをエンジョイさせて頂きました。このような機会を与えて頂き、近藤院長、和田副院長、留守中にご迷惑をおかけした、整形外科三名木先生、目良先生、織田先生（学会ありがとうございます！）に厚く御礼申し上げます。皆様から賜りました貴重な経験を、今後の研修、後進指導及び済生会病院の発展に貢献できるように日々邁進していく所存でございます。



済生会後期研修医のための海外研修
(ハワイ大学John A. Burns校)



シミュレーショントレーニング
(聴診中の筆者)



集合写真（後列右から4人目が筆者）

済生会後期研修医ハワイ研修に参加して —現地病院見学—

神経内科 松浦 洋介

2016年1月24～31日、済生会の後期研修医対象ハワイ研修に参加させていただきました。ハワイ大学医学部のSimTikiシミュレータを使った実習や現地病院見学をしてきました。オフの時間はホノルルの街で済生会グループ他病院の参加者と交流を深めたりと楽しくも有意義な研修でした。その中で、現地病院見学について御報告致します。

Shriners Hospitals for Childrenは名前のとおり小児病院ですが、整形外科や神経内科疾患に特化した病院です。ホノルルの中心部からほど近い場所にあり、外観はモダンなコンクリート造りで、一見すると病院とはわからないような雰囲気です。感染防止などの問題で患者さんへの接触はできず、主に病院内の設備や病室を見せていただきました。案内は、フリーメイソンのボランティアの方がしてくれました。

ロビーは、海底をイメージした、魚や海藻などの装飾が施されていました。実際に熱帯魚が泳いでいる水

槽もあります。2階、3階と上がっていくと、海底から水面へ、更に空へと上がっていくように演出されていて、病院という雰囲気はあまりありません。診察室は、フォーマットが日本とはやや異なり、診察ベッドと椅子が一体化したような可変型のものが使われていました。アメリカでは一般的な設備とのことでした。アメリカでは、パソコンのモニタばかり見て患者さんの顔を見ないで診療するということはありません。気質的なことも影響しているのでしょうか、やはりアメリカは訴訟社会でありインフォームドコンセントが非常に重要なのだと思われます。地下には、装具を作る部屋と設備があり、装具職人の方がいました。職人さんは中東でパイプラインの仕事をしていた経歴があり、アメリカ、ハワイならではの多様性を感じました。病室は、小児病棟なので家族が付き添うスペースが確保されていたり、子供たちの遊びや交流の場としてのデイルームがあったりしましたが、この辺は日本と似ていました。

一通り病院内を案内していただいて、設備は日本とあまり変わらないように感じましたが、院内も南国ならではの明るい雰囲気がありました。外国の病院に入ったのは初めてで、良い経験となりました。



指導医の先生と



Shriners Hospitals for Children

第68回済生会学会

野球検診の報告

平成28年2月27日 グランキューブ大阪
(大阪国際会議場)

リハビリテーション室 花田 健

小樽野球検診は平成26年度から済生会小樽病院の新しい取り組みとして行なわれています。今回、平成27年度の検診結果も踏まえ、途中経過ではありますが済生会学会にて報告させて頂きました。野球検診は、札幌医科大学スポーツチームのご協力を頂きながら、整形外科医・理学療法士で実施しております。対象は後志地域のリトルシニアの2チームで障害予防・ストレッチの講演とメディカルチェックをシーズンオフに行なっており、多数の方に参加していただいております。医師による超音波検査・診察と理学療法士による身体機能評価を実施し、検診で障害が明らかな場合、再受診を促し医師・理学療法士による治療を行なっ

ております。野球検診に取り組むまでは投球過多が原因だと思っておりました。しかし、諸家の報告では、身体機能との関連性が疑われるとされています。当院で治療を開始した症例について評価を行なうと、バランスや柔軟性低下等の身体機能低下による投球フォームへの影響もとても多く、驚きました。(その中には片脚立ちできない選手も…)

私自身、20年以上の野球経験者であり、故障経験もあります。そのため、一生懸命野球に取り組んでいる彼らには、故障してほしくないという思いもあり、可能な限りサポートできるよう継続的に取り組んでいきたいと考えます。そしてその取り組みが中学生の障害予防につながることを願っています。

最後に、野球検診及び学会発表にあたり協力してくださいました和田副院長、織田整形外科部長をはじめ、当院リハビリテーションスタッフ及び事務の皆様にご場を借りてお礼申し上げます。



平成27年12月26日 当院で行った野球検診

手術前後オリエンテーションの改善を試みて ～写真入りパンフレットと動画の併用による効果

平成28年2月28日 グランキューブ大阪
(大阪国際会議場)

看護部 3A病棟 前田 亨

今回の済生会学会は大阪。以前に甲子園という舞台で涙を流し、砂を持ち帰った関西。もう20年以上の時間が過ぎていました。

この発表という戦いのため、研究グループメンバーと2年間かけて作り上げた研究テーマの結果を持ち、H28年2月に第68回済生会学会へと旅たちました。

戦いの舞台はグランキューブ大阪。そこに済生会に所属しているスタッフの中から今回は2000人程の人材が学会発表や総会のために集まり、私はポスターセッションでの戦い。戦いの裏で私は、二度つけ禁止の串揚げやUSJへの期待を抱いていました。

本題の研究テーマですが、私は3A病棟に勤務し日々手術を受ける患者と多くの関わりを持っています。患者さんに共通しているのが手術を受ける事に関しての不安です。日々患者さんが抱えている手術に対しての不安や疑問点に焦点を当て、研究計画を考えていきました。スタッフへの調査を行い、以前より使用している文字だけで行う手術前後の説明では不十分なのではないかとスタッフも同様の思いをしていた結果となりました。

そこで説明の不十分を補うためには先行研究や文献より、写真入りパンフレットと動画による併用説明にて不安が解消されるのではないかと考えました。写真

入りパンフレットと動画による説明DVDを作成し説明補足を行い、同じ患者さんへ併用説明後にアンケートを行いました。

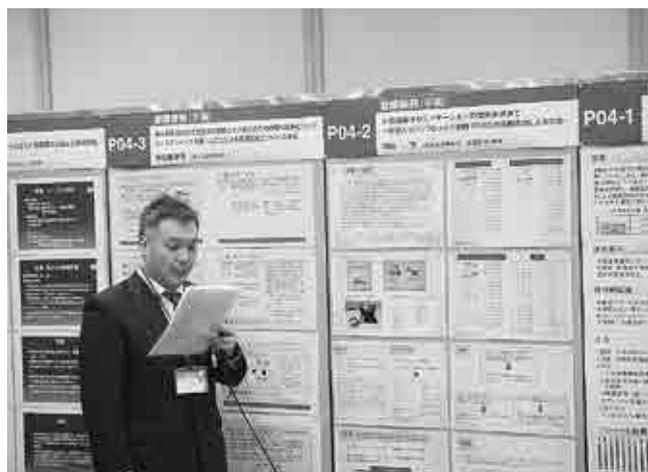
結果、「不安が軽減した。」「両方見てわかりやすかった。」という意見が多くあり、年齢層が若い場合はパンフレットだけでいいという結果もありました。併用説明にて不安の軽減に繋げることが出来、患者さんのための良い研究となったと思われま

す。私は日々の看護を提供していくにあたり、入院し手術を受けるという事で苦痛や不安、時間の制約等、人生の中において負の経験となりうる事を、入院して大変であったが良い経験も出来た、という入院となるようにと考え看護を提供しています。今回の研究で患者さんや患者さんの家族の不安に少しでも寄り添い良い看護を提供できるツールを研究メンバーと共に作成できたと考えます。また研究を通してメンバーとの話し、様々な意見を交わすことで看護の深さに気付かされ様々な良い経験を得る事となりました。

そしていざ現地での戦い＝発表の場においては、同行したコメディカルスタッフの優しい声掛けやフォローにて小樽済生会の絆を感じ無事終了となりましたが、発表中に突然指示棒を渡され困惑し、若干時間オーバーは無かったことにしようと思います。

以前の甲子園での20年前の戦いは応援席での戦いでした。今回は同行スタッフのサポートもあり本当に関西で発表という形ではありましたが戦いを行うことが出来ました。初めての院外発表という良い経験を得る事も出来ました。

このような貴重な経験をさせて頂き感謝し、今後も患者さん一人一人に安心できる質の高い看護を提供していきたいと思っています。



V 職員福利厚生会

■ 総 括

当会は、職員の福利厚生の増進並びに職員相互の親睦を図る事を目的に平成15年4月に設立されました。実施事業として①研修及び厚生に関する事、②教養文化に関する事、③体育の向上に関する事、④医療見舞金給付に関する事等を実施しており、クラブ活動へ運営補助も行っています。

平成27年度は新規事業としてボーリング大会を実施しました。また、済生会東北・北海道ブロックソフトボール大会ではAクラスからBクラスに降格したものの、見事、優勝し1年間でAクラスに返り咲きする事が出来ました。



【クラブ活動】

以下のクラブ活動へ運営補助を行っています。

- ・野球部
- ・写真部
- ・フットサル部
- ・駅伝・リレーマラソン部

【平成27年度の主な行事】

- ・ 6月13日（日） 第27回小樽運河ロードレース（5名）
- ・ 7月 1日（木） 新人歓迎会並びに春の宴（158名）
- ・ 7月25日（土） 小樽潮祭り「ねりこみ」（162名）
- ・ 8月22日（日） 済生会東北・北海道ブロックソフトボール大会（10名）
- ・ 11月28日（木） ボーリング大会（40名）
- ・ 12月17日（木） 忘年会（287名）

福利厚生会常務理事 五十嵐浩司

部 活 動

野 球 部

【メンバー（平成28年4月1日現在）】

医師 1名
診療放射線技師 2名
臨床工学技士 2名
薬剤師 2名
理学療法士 7名
言語聴覚士 1名
事務部 1名
合計 16名

【活動概要】

平成22年より職員福利厚生会クラブとして設立。毎年4月から9月までの大会期間および練習にて活動。主な大会として春季読売旗争奪朝野球大会、夏季朝野球大会、秋季読売杯争奪朝野球大会に出場。



【活動報告】

平成27年度（Aクラス）

春季予選

ビューティー司	0-2	●
キングジョーカーズ	0-2	●
サーティーズ	2-5	●
SFC	7-6	○

夏季予選

キングジョーカーズ	3-4	●
アトムズ	3-0	○

秋季予選

セントラル自動車	7-2	○
男組タイガース	8-1	○
アトムズ	2-2	△

準々決勝 ビューティー司 3-1 ○

準決勝 キングジョーカーズ 0-1 ●

【活動実績】

平成24年 Cクラス

春季読売旗争奪朝野球大会 優 勝

平成25年 Bクラス昇格

夏季野球大会（A B混合） 優 勝

平成26年 春季読売旗争奪朝野球大会 準優勝

秋季読売杯争奪朝野球大会 準優勝

平成27年 Aクラス昇格

秋季読売杯争奪朝野球大会 3位



野球部キャプテン

リハビリテーション室 米田健太郎

フットサル部

【メンバー】

医療技術部 リハビリテーション室 18名
看護部 2名
計20名 (男16名、女4名)

【活動内容・報告・成績等】

活動内容：平成25年度より新規設立して活動しております。小樽市内の小学校を借りて練習したり、他院との練習試合等も行なっております。また札幌市内で行なわれているフットサル大会に参加しております。

活動報告：平成27年

- 4月18日 第6回全道病院フットサル大会参加
- 10月15日 フットサルスタジアム蹴大会参加
- 11月 3日 札幌イーワンスタジアムイーワンカップ参加

【フットサル部よりひとこと】

みんな初心者で楽しくワイワイやっています。ダイエットやストレス発散目的で気軽に参加しているメンバーも多くいます。興味を持っていただけた方や運動不足解消、フットサルをやってみたい方、男女・経験問わず是非連絡お待ちしております！

リハビリテーション室 三浦富美彦



写 真 部

【メンバー（平成27年度）】

看護部2名、地域医療支援課2名
リハビリテーション科1名、臨床検査課1名

【活動概要】

平成24年度に新規設立しました。各病棟廊下の写真展示、潮まつりや忘年会などの病院行事撮影、季節毎の写真撮影会、写真コンテストへの参加など活動しております。

【活動報告】

- ・病院行事の撮影（小樽潮まつり、済生会健康フェスタ、忘年会、なでしこキッズ雪明りなど）
- ・写真撮影会（積丹方面など）

- ・オーズ百合園フォトコンテスト入賞
- ・新日本海フェリーフォトコンテスト2席
- ・JR北海道大鉄道展佳作
- ・小樽市写真展（市展）入選
- ・北海道写真展（道展）入選
- ・同写協小樽支部コンテスト入選
- ・道写協札幌本部月例コンテスト2位

【ひとこと】

患者さんやご家族、職員の方々が作品を見て和んだり息抜きできるように、今年度は院内写真掲示の更新を行いたいと考えております。

看護部 田中 聖美



駅伝部

【平成27年度部員】

診療部	1名
医療技術部 薬剤室	2名
リハビリテーション室	14名
計	17名
	(男12名、女5名)

【活動内容】

平成26年度より新規設立。主に北海道内で開催される駅伝・リレーマラソン大会へ参加しています。

【活動報告】

平成27年度

- 6月28日 北ガスグループ6時間リレーマラソンin 札幌ドーム2015：2チーム参加
- 9月19日 第3回AIR-G 42.195kmリレーマラソン in モエレ沼公園：1チーム参加
- 9月21日 第30回サーモン駅伝：1チーム参加

【活動実績】

すべての大会を完走しました！成績は聞かないで頂けるようご配慮お願いします…

【アピールポイント】

結果よりも楽しさを重視しています。脚が速くなくても走って少しでも楽しめて、完走後のビールが美味しければ駅伝部に入る資質があります！

興味がある方は是非、声をかけて下さいね！

リハビリテーション室 髭内 紀幸



院内保育所「なでしこキッズクラブ」

職員の福利厚生の一環とし、子育て支援の充実を図っています。内装並びに備品等も子どもたちの安全面を配慮した施設になっています。一時保育も柔軟に対応でき、安心して働きやすい環境づくりに努めています。

【スタッフ】

所長 近藤 真章 (病院長)

保育士 病院職員 1名

株式会社プライムツーワン職員 6名

【運営の概要】

設置年月日 昭和48年12月1日

運営方法 委託

保育所面積 222.64㎡

定員 40名

保育対象年齢 0歳～小学校就学前

保育料 10,800円/月

休園日 日曜日、祝日

年末年始 (12/31～1/5)

【年間行事実績】

4月		10月	運動会、ハロウィン
5月	子どもの日おたのしみ会	11月	
6月	親子遠足	12月	クリスマス発表会
7月	ゆり組ミニ遠足	1月	お正月
8月	夏まつり	2月	豆まき、雪まつり見学
9月	動物園遠足 お月見(おだんご作り)	3月	ひなまつり お別れ・進級おめでとう会

※毎月 お誕生会、避難訓練、身体測定を実施

※年3回 歯科健診を実施

【今後の目標】

保育目標でもあります「いっぱい遊んですくすく育て～心もからだもたくましく育ちあう子ども」を心がけ、子どもたちがけががなく元気に笑顔で過ごせるように心がけていきます。

元気な子どもたちと一緒に

保育士 武藤真奈美

今年も元気な子どもたちと1年楽しく過ごすことが出来ました。

運動会は小樽市総合体育館に会場を移し、参加年齢も歩ける子(1歳児)からの参加となりました。がんばってお母さん、お父さんたちの所へ向かっていく子たち、応援する他の子たち…とてもかわいかったです。

クリスマス発表会の時には院長先生のサンタさんを待っている子もいました。卒園児のかわいいサンタさんも一緒にとてもうれしく思いました。

毎年、保護者の方・関係者の方々のご協力をいただいているいろいろな事を子どもたちに経験してもらおうことが出来ています。



子育ては親育て

リハビリテーション室 髭内 朝美

昨年5月に次女を出産しました。生後4ヶ月半から保育所で長女とともに預かってもらい、仕事に復帰しています。まだ授乳が必要な時期だったので、業務中2回ほど抜けさせていただき、保育所で授乳をしていました。労働基準法で定められたこのような仕組みは、仕事と育児の両立の手助けとなり、職場への早期復帰もしやすくなり、有り難く思います。仕事の合間に見る子供たちの笑顔は癒しと同時に元気に過ごしてくれて良かったという安心感を与えてくれます。2人の子供たちは保育所で毎日楽しく遊んでいるようです。先生たちには帰り際、一日の様子を教えていただくほかにも、子育ての相談などに乗ってもらうこともあり、本当に感謝しています。

この一年間は上の子のイヤイヤ期に苦戦していました。時々イライラして怒鳴ってしまうことも…。2歳頃から始まったイヤイヤ期も一年経ち、少し慣れてきたところですが、今では同じイヤイヤでも少し知恵のついたイヤイヤが始まっています。さらに下の子が1歳になってヨチヨチ歩き始めたこともあり、目が離せず、なおさら大変です。

「子育ては親育て」とよく聞くものですが、今まさに痛感しています。こうやって子供への対応の仕方に奮闘していく中で親として成長させてもらっているの

でしょう。最近、選択理論心理学という学問を少しだけ勉強する機会がありました。難しそうな名前ですが、簡単に言うと良好な人間関係を築くための理論です。自分は相手を変えることが出来るという外的コントロールの考えを止め、批判する、責めるなどの「致命的な7つの習慣」を使わず、傾聴する、支援する、受容するといった「身に付けたい7つの習慣」を使った関わりが信頼関係を強めるのだそうです。患者とのコミュニケーションスキルとして学んだことでしたが、患者-医療者関係に限らず、親子関係や夫婦関係、職場などのあらゆる人間関係に有効で、仕事だけでなく子育てをしていく中でも是非活用していきたいと考えています。そうすることで子供との関係性も良い方向へ変わり、親としてまた一つ成長していけるのかなと思います。そしてそれはまた医療者として、人としての成長にも繋がるのでしょうか。子育ては親育てだけでなく「人育て」でもあるのかもしれない。



私たち親子と保育所

3B病棟 齋藤 亜妙

私たち親子が保育所を利用し始めたのは、子どもが10か月になる時でした。そんな、子どもも今は4歳となり、毎日、元気に走り回っています。保育所では、親子遠足、運動会、発表会、夏祭り、回復期病棟でのハロウィン発表会、動物園や雪まつりへの遠足など様々な行事があり、毎回欠かさず参加させてもらっています。初めての発表会は、始めから終わりまで泣き続け、運動会もなかなか走らず、ハロウィンでも固まったままでした。しかし、今では力いっぱい踊り、歌い、走ってくれるようになりました。

我が家は、土、日、祝日も関係なく仕事があるため、私が日勤の時はいつも保育所を利用しています。人数が少ない時も、1人の時もありますが、子どもが寂しい思いをせず、楽しかったと言ってくれる環境であることに感謝しております。毎日、先生が書いてくれる

ノートや、帰り際の会話で、親子ともども癒されております。私たち親子にとって、なくてはならない存在であり、これからもたくさんお世話になる予定です。子供の成長とともに親の成長も見守ってくれている保育所に感謝し、日々の仕事に努めていきたいです。



仲良しのお友達とハロウィン仮装

売店・食堂

●売店 ヤマザキショップ

病院棟1階

営業時間 月～金 8:00～19:00

土日祝 8:00～15:00

食品、日用雑貨、医療用品、その他季節限定商品など幅広い品揃えです。

中でもシュークリームや豆いっぱい大福が大人気。

病棟TVカードの販売もしており、支払いはwaonも使えます。

入口手前には休憩コーナーが8席あり、自動販売機、ATM、郵便ポストも設置されています。

年月	利用者数
2015年4月	8,919
5月	8,338
6月	8,949
7月	9,550
8月	9,085
9月	8,200
10月	9,410
11月	8,600
12月	9,349
2016年1月	8,381
2月	8,972
3月	9,426
合計	107,179

●職員食堂

管理棟2階

営業時間 月～金曜日 11:00～14:00

全42席

日替わりランチから麺類、カレーなど各種取り揃えております。季節イベント時には、ひな祭りメニューやクリスマスメニュー、バイキングなどのスペシャルランチ企画も盛りだくさんです。



あ と が き

これまでの社会保障制度改革の歴史を振り返りますと1940年代、60年代、80年代、2000年代と概ね20年おきに大きな制度改革が行われています。その節目にあたる2018年には、診療報酬と介護報酬の同時改定のみならず第7次医療計画・第7期介護保険事業（支援）計画・第3期医療費適正化計画がスタートし、これまで国が進めてきた社会補償費の低減等を主な目的とした、施設から在宅への流れをさらに徹底するための仕組みが構築されることとなります。

平成27年度当院では、上述の制度変化と地域における急速な人口減少、厳しい高齢化、単身世帯の急増という質的、量的に厳しい人口構造の変化を読み解き、病院内に北海道済生会地域ケアセンター（「小樽市南部地域包括支援センター」、「居宅介護支援事業所はまなす」）を設置し、医療・介護・福祉の総合相談機能の充実に努めました。また医療の質的向上を目指すため、病院機能評価受審にも取り組みました。準備の過程で多くの職員が議論に加わり、一つの目標に向かって努力を重ねた経験は、職員の意識向上やチームワークの醸成にもつながっています。

医療業界は大変革のうねりに入る曲点に差し掛かっています。当院では、変化への対応力、行動力をさらに高めながら、地域ニーズに一致した新たな社会的価値を創造することで、この局面を乗り越えていく所存です。

皆さまの多大なご支援とご協力により事業を推進することができましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

院長補佐兼事務部長 櫛引 久丸

編集後記

昨年、新たに年報を作成するための委員を担当しないかとのお話を頂き、二つ返事でお引き受けしました。1年前に自分がこの病院に赴任したときに感じた済生会小樽病院のよいところを、当院で働く職員を支えるご家族、職員を学生時代にご指導下さった先生たち、同業他施設の職員の方たち、そして何よりも職員のみなさん自身に知ってもらえるお手伝いができると思ったからです。いろいろな職種や立場の人が、仕事はもちろん福利厚生やプライベートも含めて目標としていること、感動したこと、頑張ったこと、達成したことなどを共有し、励みにしたりサポートしたりするきっかけになればうれしいです。発刊にあたってのコンセプトは「職員が読みたい年報」です。PDF化してホームページでも公開していますので、そのうちに「この年報を読んで済生会小樽病院で働きたいと思いましたっ!!」という新入職員に会える日がくることを妄想しつつ、ゲラ刷りの校正をしました。

原稿執筆の依頼を快く引き受けて頂いたみなさん、私の抽象的な編集コンセプトを具現化して下さいました編集委員の方々と、原稿執筆依頼、編集、校正と一人で何役もこなし、「影の編集長」として辣腕を振るって頂いている経理課の秋元かおりさんにこの場をお借りして深謝申し上げます。

年報編集委員会 織田 崇

済生会小樽病院年報 2015年度(平成27年度)

発行 社会福祉法人^{医療法人}済生会支部北海道済生会小樽病院
〒047-0008 北海道小樽市築港10-1
TEL (0134)25-4321 FAX (0134)25-2888
ホームページ <http://www.saiseikai-otaru.jp/>

印刷 (株)北診印刷